

イー・ジー・ホワイト著

安息日学校への勧告

福
音
社

Counsels on
SABBATH SCHOOL
WORK

A Compilation From the Writings
of
ELLEN G. WHITE

Japan S.D.A. Publishing House
Yokohama, Japan

は し が き

セブンスデー・アドベンチストの活動は絶えず拡大していますが、その中であって、神がご自身の使者を通して重要な部門に関係をもつ働き人に、それぞれ指示と励ましと勧告をお与えになつてゐることはまことに意味深いことです。安息日学校の働きもその例にもれません。安息日学校の働きに関するいろいろの勧めは、「教会へのあかし」の最初の数巻の中ばかりでなく、長年の間、「サバス・スクール・ワーカー」(安息日学校への助け)に掲載されたエレン・G・ホワイト夫人の有益な記事の中に与えられてきました。一九〇〇年にこれらの記事の多くが一冊の小さな本に編集され、「安息日学校へのあかし」としてみんなに知られるようになりました。全世界の安息日学校の働き人は、約四十年の間、この重要な組織を今日のような強力なものにするために、この小さな本から貴重な助言を得てきました。

「安息日学校へのあかし」が出版されてからも、ホワイト夫人のお書きになつた記事の中に、こ

の働きに関する勧めが追加されました。全世界の伝道地にある安息日学校の働きの必要は、この部門の活動に影響を及ぼしているその後の勧告を、最初の本の中の勧告といっしよにまとめるべき時期が到来したことを物語っています。「安息日学校への勧告」は、このための努力から生み出された価値のある本です。

この増補版の内容は問題別にまとめられていて、研究と参考のために便利のように六つの部分に分けられ、その各々の内容を示す目次がつけられています。安息日学校の役員や教師、教会役員や部会の働き人の皆さんが安息日学校を一層強力なものとするために働かれるとき、本書は貴重な助けになると信じます。この本は教師養成科にとっても大切な教材の一つです。これを研究なさる一般教会員の方々も、これによって多くの利益を得られることと信じます。

世界総会安息日学校部局は、この本を編集された E・G・ホワイト著書出版委員会の働きに心から感謝し、無条件に本書を承認し、たえず増大しつつある安息日学校役員、教師方に、改めてこれをお送りするものです。主のみたまによって示されている標準に到達するように努力なさるとき、みなさまの働きはいつそう効果的なものとなることを信じます。

世界総会安息日学校部局

目次

第一部	安息日学校の働きの重要性と目的	3
第二部	聖書研究のための学校	13
第三部	救霊の機関	65
第四部	教師とその働き	99
第五部	毎週伝道献金を集めること	147
第六部	運営上の指導原理	173

表 覧 一 語 略

C O L 自然と宗教(英文)

C T 教師・両親・生徒への勧告(英文)

D A 各時代の希望(英文)

E D 教育(和文)

F E キリスト教教育の基礎(英文)

G W 福音宣伝者(英文)

P P 創世時代と父祖の生活(英文)

(二一九)T 教会へのあかし(第一巻―第九巻)(英文)

T S S 安息日学校へのあかし(英文)

安息日学校への勧告

第一部

安息日学校の働きの重要性と目的

第一部 目 次

大 切 な 働 き	3
驚くべき善の感化力	3
神 の 機 関	4
最も効果的な救霊機関	4
はかり知れない感化	5
悔い改めさせる力	5
教 会 の 力	5
広大で重大な分野	6
長い奉仕をする価値がある	7
豊かなむくい	9

第一部 安息日学校の働きの重要性和目的

大切な働き

安息日学校の働きは大切な働きです。真理に興味を持っている者はみな、安息日学校が盛んになるように努力しなければなりません。（TSS・一〇九ページ）

驚くべき善の感化力

事実上、わたしたちの安息日学校は聖書研究会です。神のみことばの真理を教えるこの聖なる働きを通して、わたしたちはこれまで成し遂げたよりも、はるかに偉大な働きを成しとげることができます。安息日学校が正しく運営される時に、それは驚くべき力をもち、大きな働きをなすことができます。けれども今日、できることもなすべきこともしていない状態です。（注・一八八九年現

在）安息日学校の働きから生ずる感化によって、教会は向上し発展しなければなりません。しかしどんな場合にも、教会のためにならないようなことがあってはなりません。安息日学校は最も貴重な伝道地であって、今日何かよいきざしが見えているとすれば、それはただ安息日学校がなすことのできる偉大な働きの徴候、または芽ばえにすぎません。（T S S・二九ページ）

神の機関

わたしは全世界の安息日学校に大へん興味をもっています。その理由は、安息日学校が、わたしどもの青少年たちに聖書の真理を教える神の機関であると信じているからです。両親も教師もともに、青少年たちが永遠に重要な事物に興味をもつようにたえず努力しなければなりません。安息日学校は伝道地であって、この重要な働きにこれまでよりいっそう、伝道精神が発揮されなければなりません。（T S S・三五ページ）

最も効果的な救霊機関

安息日学校は人をキリストに導くうえに最も効果的な、そして最も重要な機関の一つとならねばなりません。（T S S・二〇ページ）

はかり知れない感化

よく組織されて、正しく運営される安息日学校は、青少年の教育と道徳的、宗教的訓練のために非常に力があります。この部門の働きのために時間を費し、注意を払わなければなりません。青年の上に及ぼす安息日学校の感化が、どんなに大切なものであるかは、はかり知ることができません。（TSS・一四、一五ページ）

悔い改めさせる力

安息日学校は、伝道の働きの重要な一部門です。安息日学校は、幼い者にも老人にも神のみことばの知識を与えるばかりでなく、彼らの心のうちに尊い真理への愛と、その真理を自分自身のために研究したいという希望をめざめさせます。ことに安息日学校は、そのきよい教えによって、自分の生活を規律正しいものにすることを教えます。（TSS・一〇九、一一〇ページ）

教会の力

安息日学校の働きには、忠実に育てあげなければならない一つの大きな分野があります。それは

青少年たちが神の働きのために神から用いていただくように、神に対する全的な献身の念を彼らのうちに吹きこむことです。安息日学校には熱心で忠実な働き人がいて、神の霊の働いている人を見つけ出し、神の天使たちと協力して魂をキリストに導かねばなりません。安息日学校の働き人には尊い責任が負わされています。安息日学校は、神との生きた交わりによって、男も女も、青年も子供も、教会にとって力となり祝福となるように育てあげられる所でなければなりません。彼らは力の限りをつくして教会を向上させ、前進させて、ますます、力より力に進まねばなりません。

(T S S ・ 九二ページ)

広大で重大な分野

安息日学校の校長および働き人たちには、開拓しなければならぬ非常に重大で広大な分野があります。彼らはその心に靈感をうけて、最善の方法を用い、その働きが全く成功をおさめる最善の計画をたてることができるように、聖霊のバプテスマを受けなければなりません。主は彼らの努力に協力してくださいます。なぜなら、青年たちは神のただひとりのみ子の血によってあがなわれた者であるからです。神は青年たちを愛して「すべて彼を信ずる者の滅びずして永遠の生命を得んだ

め」にイエスを死におわたしになりました。

教育の大いなる働きがなされなければなりません。教師は、青少年が「世の罪を負う神の小羊を見」ることができるよう、彼らのために、また彼らとともに、しばしば祈らなければなりません。また青少年たちに、神に対する責任を教え、イエスが彼らに期待しておいになることを了解させなければなりません。できるかぎりの影響を青年たちの心に与えて聖書に対する興味を起さすようにしなさい。青年たちが、自分に与えられたものを他人にわかつために全能力をもちいる熱心な働き人となるように、彼らの魂のために働きなさい。（T S S・八三ページ）

長い奉仕をする価値がある

安息日学校は、真理の宝玉を捜し、まちがった場所からとり出し、福音という一つの構造物の中の正しい位置にそれを置きなす所です。長い間見失われていた尊い真理の珠玉を、今日神の子らに返さなければなりません。安息日学校で、信仰による義、キリストの義についての問題を教えなければなりません。そうすれば青年や子供たちがこのように大切な問題を理解し、教師も生徒も救いの道を学ぶことができるようになります。救いの計画と関連した神聖な永遠の原則は、長い間か

げをひそめていましたが、それを救いの計画の中の正しい位置にかえし、それが天来の光を現わし、世界を覆っている道德的暗黒を照すことができるようにしなければなりません。

青年たちに「なんじこころを尽してエホバにより頼め、おのれのさときによることなかれ」（箴言三ノ五）という賢人のことばに心をとめさせましょう。そして彼らがたえず主に頼り、主のみまえに静かに、祈りつつ、注意深く歩くと同時に、主は献身した才能をお用いになることができることを信じてあらゆる機会をとらえ、ある限りの力を尽すように導きなさい。また、「これは主の道であるか否か」を一步一步自問させなさい。謙遜は真の賢人の特徴であって、いかに学識、芸能に達しても、彼らは決してごうまん不遜になるようなことはありません。

主は安息日学校のために一生をささげ、熱心に働くように青年男女を召しておいでになります。一時的な努力では、決して多くのことをなし遂げることはできないし、神のみ事業における成功ある働き人になることはできません。よいことを忍耐強くしつづけることによって神の協力者になることができるのです。自分はきょう一日神のしもべなのだと考えなさい。そして忠実に一日の働きをなし、自分のあやまった行為のために、足の弱い者に正しい道を踏みはずさせるような曲った道を歩まなかったかどうかをかえりみなさい。（T S S・五二、五三ページ）

豊かなむくい

安息日学校や禁酒禁煙運動のために働く人は、世の終りの時にだけでなく、現在の生涯においても豊かに報いを受けます。他の人に光を与え、祝福しようと努力することによって、自分自身の視野が明らかに広くなります。魂を愛して他人に真理を説明すればするほど、それが自分自身にはっきり体得されます。それは解説者の理解力に新しい力を加えます。（T S S・一〇八ページ）

第二部

聖書研究のための学校

第二部 目 次

聖書の探求・・・・・・・・・・・・・・・・	13
聖句と聖句をくらべること・・・・・・・・	19
一般の人のために書かれた・・・・・・・・	20
小説のかわりに聖書を・・・・・・・・	21
探求心の必要・・・・・・・・	22
教師は学ぶ者でなければならない・・・・・・・・	28
光を増し加えたもうという約束・・・・・・・・	33
熟知している聖句の新しい意味・・・・・・・・	34
聖書の目標から遠ざかる・・・・・・・・	34
青年を異端から守る・・・・・・・・	35
試みに対するとりで・・・・・・・・	36
真理を探求するときの神の助け・・・・・・・・	36
中途半端な奉仕・・・・・・・・	37
祈りをもって研究すること・・・・・・・・	38
知識を与える神の方法・・・・・・・・	40
日ごとの聖書研究・・・・・・・・	42
教課を記憶すること・・・・・・・・	44
日ごとの霊の糧・・・・・・・・	44
家庭の協力・・・・・・・・	45
教育者としての両親・・・・・・・・	50
安息日学校における両親・・・・・・・・	55
教課研究の時間を見つける・・・・・・・・	59
両親は子供たちを助けなければならない・・・・・・・・	60
学校よりも重要である・・・・・・・・	60
勤勉な研究は豊かに報いられる・・・・・・・・	61

第二部 聖書研究のための学校

聖書の探求

男も女も青年も、神のみことばの研究をおろそかにするならば、クリスチャンの完全に達することはできません。わたしたちがみことばを注意深く綿密に研究するとき、「なんじらは聖書に永遠の生命あり」と思い、これをしらぶ、されどこの聖書はわれにつきてあかしするものなり」というキリストの教えに従うことになります。聖書は、キリストについてあかしをするものですから、生徒はそれを研究することによって聖なる型を綿密に観察することができます。型をまねるには、それをしばしば、かつ綿密に観察しなければなりません。あがない主のご一生をよく研究するとき、人は自分の性格に欠点を発見します。自分があまりにもキリストに似ていないので、自分の生涯になにか大きな変化がこななければ、キリストに従うものとなれないということがわかります。その偉大

なる模範に似るものとなりたいたいと願いながら、なお研究を続けていくときに、愛する主のご様子やその精神をつかむようになり、「信仰のみちびきて、また、これを全うする者なるイエスを仰ぎ見る」すなわち、ながめることによって変化します。

心に語られた神のみことばは生きた力をもっています。みことばと親しむことを怠って何か口実を設けようとする人は、他のいろいろの点でも神のご要求をおろそかにします。その品性はかたわになり、そのことばや行為は真理を恥ずかしめるものとなります。使徒は「聖書はみな神の感動によるものにしておしえと譴責と矯正と義を薰陶するとに益あり。これ神の人の全くなりてもろもろの良きわざに備えを全うせんためなり」と言っています。また神の預言者の一人は「おもいつづくるほどに火燃えねれば」と叫びました。もしクリスチャンが熱心に聖書を学ぶならば、もっと多くの人の心が聖書の中にあらわされている生き生きした真理で燃やされるはずです。彼らの望みは、聖書全体を通じて真珠のようにつながっている尊いみ約束によって輝くでしょう。神を愛し神をおそれて神とともに歩いた父祖や預言者たちの生涯について深く考えるとき、心は、これらの尊い人たちに生命を与えたみたまで燃やされます。いにしえの聖人の徳や信仰を熟考するときに、彼らに感動を与えたみたまが、彼らのような性格になりたいと望む人の心に愛と清い炎を燃やします。

安息日学校の教課研究を怠らぬこと

安息日学校の生徒は科学の研究にひいてると同じように、聖書の知識にあかるくなるために、もっと熱心にならなければなりません。もし、どちらかがおろそかにされるとすれば、それは六日間の勉強、すなわち学校の勉強の方でなければなりません。男も女も子供もすべてそのみを公言する者はみな、救い主のご命令を敬虔な気持ちで尊重しなければなりません。

安息日学校の教師は、聖書を**教える**伝道地を持っています。特別に苦勞もしないで、研究したことを**おおむ**のように繰り返すのであってはなりません。「この聖書は**われ**につきてあかしするものなり」この**われ**という方は、あがない主、すなわちわたたちの永遠の望みの集中しているお方です。もし教師が、真理のみたまを受けていないで、神のみことばにあらわされている真理に無頓着であつたら、彼は、自分のあずかっている生徒たちにどうして真理を魅力あるものとして示すことができるでしょうか。

でしたちのためにお祈りになったキリストの祈りは「真理にて彼らを清めわかちたまえ、なんじのみことばは真理なり」でした。もし、わたしたちが、神のみことばのうちにある真理を知ること

によつて、きよめられたいと望むならば、その中にあらわされた神のみ心を明らかに知らなければなりません。聖書を開いて、ただ急いで一章一章通りすぎるだけで、それを理解することにつとめないで読んではなりません。それを深く研究して心を豊かにし、あざむくものはかりごとや試みから魂をかたく守る真理の珠玉をほりさげて見つけださなければなりません。

怠慢に対するつまらない口実

両親は子供の教課に興味を持っていないことに対して、つまらない口実をもうけて、聖書の知識を得ることも自分の頭を訓練することも怠ります。彼らはまず、神の国とその義を求めず、霊的な永遠のものよりも、一時的なものを高くかかげます。彼らが子供たちに示す見本は、神を忘れ、そのみことばをおろそかにすることであつて、彼らは、キリストがおたてになつた高い標準によらず、この世の標準にしたがつて子供たちの心を形づくるのです。ある父親は、自分の楽しみのために時を過ごし、そのあいだ世的なことについて話し、その心や思いの中から神を閉め出してしまいます。キリストの忠実な弟子となつて聖書を深く研究し、すべてのよきわざをなすための備えを全うし、永遠の岸にわたしたちの歩みをみちびくために、神がお与えになつたみことばをはっきり説明する

ことができたらどんなによいことでしょう。

母親は、子供たちを教え、神のみことばを彼らに教える時間がないといって悲しみます。しかしその同じ母親が、外側を飾る時間は見つけます。洋服のひだをとったり、必要もない縫いとりをする時間があるのです。自分や子供たちの着物に必要もない飾りをつけます。心の内側の飾りと魂の教養は、まるで衣服の装飾などに劣っているかのようになおざりにされています。習慣や流行を追うために母親や子供たちの心は飢えています。

家族そろって聖書研究

両親がたよ、長い間おこたっていた責任を取りあげてくださるように切にお願いします。みずから聖書を研究し、子供たちの聖書の研究を手伝ってください。長い間なおざりにしたのですから熱心に研究してください。子供が聖書を研究する時一人でほうっておかないで、彼らとともに読み、単純な方法で子供たちに自分の知っていることを教え、あなた自身も忠実な生徒としてキリストの学校の中にいるようにしてください。この働きは怠ってはならないと決心してください。母親たちよ、あなたも子供らも、不必要な飾りをつけず、清潔できちんとした質素な服をまとうてください。

良心的に単純な衣服を着ることを学んだ時、聖書をよく知らないことに対する口実がなくなります。聖書をしらべよというキリストのご命令に従いなさい。そうすれば自分自身に靈的な力が加えられ、子供たちが何も知らずに安息日学校へ行くことがないように彼らを教えることができます。

多くの青年は、教課を研究する時間がないといいます。しかし彼らはいったい何をしているのでしょうか。ある人は、わずかばかりのお金をもうけるために少しの時間をも惜しんで働きます。もし、この働きにつきこむ時間に聖書を勉強し、その教えを実行すれば、余分に働いてもうけ出す金額よりもはるかに多額のものをたくわえることができます。そして必要のない飾りについやされるお金を節約し、敬虔の奥義を理解する生き生きした心の力をたくわえることができます。「エホバをおそるるは知恵のはじめなり」クリスチャンであると公言している青年たちは、自分の本能に従って肉の心を満足させ、聖書の尊い真理を知るために与えられている恵みの時を全部小説を読むために使っています。

この習慣が一度ついてしまうとなかなかそれに打ち勝つことができません。しかし不可能ではありません。天の世界の住民の候補者はみなこの習慣に打ち勝たねばなりません。小説を読むのに熱中した心はだめになってしまっています。想像は病的となり、心は感傷的になり、ぼんやりとした

不安があり、不健康な心の糧をふしぎに求めるようになります。このような心の糧は心の均衡を失わせます。今日小説を読んだために幾千という人が心の均衡を失って精神病院に入っています。彼らは空中楼阁をきずき、恋愛病にかかっています。聖書は書物中の書物であって、生命と健康を与え、神経をやすませ、心の安定と堅固な原則とを与えます。

より深く真理の宝石を掘ること

安息日学校の生徒は毎週の教課に含まれている尊い真理の宝石を熱心に深く掘りさげ、注意深く探求しなければなりません。聖書に明るくなるために、今日与えられている特権と機会をなおざりにしてはなりません。神は、神に従うと公言する者が、みことばの教理の証拠を十分たくわえるように望んでおられます。若い時、安息日学校でそれを学ぶ以外に、いったい、いつ、どこで、それを学ぶことができるでしょう。両親は決してこの問題をかるしくとりあつかってはなりません。

(レビユー・アンド・ヘラルド・一八七八年一月二八日)

聖句と聖句をくらべること

「聖書をしらばなさい」とは主のご命令です。この義務を怠るために非常に大切なものを失って

いる人が多くあります。神のみことばを研究する時、天の使がわたしたちのそばにいます。そして聖書を明るい光で照しています。聖書は善と悪を選択する力をもつ人間にうったえます。そして警告をあたえ、譴責し、懇願し、力づけます。神のみことばの厳粛な真理を考えて心を働かさなければなりません。そうでないと、心はしだいに弱くなってしまいます。わたしたちは出版物になっている真理をもっています。しかし他の人の思想に頼っているだけでは十分ではありません。わたしたちは自分で調べ、自分の信仰の理由を聖句と聖句を引照しながら研究しなければなりません。聖書を取り、ひざまずいて、心に光を与えてくださるように神に祈りなさい。もしわたしたちが毎日、忠実に、祈りをもって聖書を研究するなら、何か美しい真理が新しく、はっきりした強い光に照し出されるのを毎日見るはずです。（同上・一八八四年三月四日）

一般の人のために書かれた

神の子たちはだれでも、聖書に明るく、預言の成就をたどって世界歴史におけるわたしたちの位置を示すことができるようであればなりません。聖書は学者のために書かれたと同じように一般の人のためにも書かれたもので、すべての人が理解することのできるものです。それには隣人に対

する義務と、神に対する義務が土台となっている偉大な真理がはつきりあらわされています。心から真理を求めている者は、まちがえる必要はありません。それは道の四つかどに立って、どちらに行こうかと思案しなければならぬような不明りようなものではありません。真理はわたしたちの道案内で、わたしたちにとっては昼の雲の柱、夜の火の柱です。

聖書の教えに関する多くの対立した意見は、聖書そのものから出てきたものではなく、解釈者の盲目と偏見からきたものです。人は自分のまちがった理論に従うために、聖書の明白なみことばを無視します。自己の学識をほこって単純な真理を見過ごしにします。彼らは生ける泉を捨てて、あやまちの有毒な流れから飲むのです。（同上・一八八五年一月二七日）

小説のかわりに聖書を

老人も青年も聖書をおろそかにしています。彼らは、聖書を自分の研究、または自分の生活の規則にしています。ことに青年たちがそうです。たいていの若い人は、他の本を読む時間はあっても永遠の道をさし示す本は毎日研究しません。無益な小説を熱心に読み、聖書をおろそかにしています。聖書は、もっと高く、もっと清い生活に導く案内者です。他の物語を読んで若い人の想像力

が曲げられてさえないなければ、彼らは聖書がもつとも興味のある本だというにちがいありません。

(C T・一三九ページ)

探求心の必要

「されどなんじは学びて確信したるところに常におれ。なんじたれよりこれを学びしかを知り、また幼き時より聖なるふみをしりしことを知ればなり。このふみはキリスト・イエスを信ずる信仰によりて救いに至らしむる知恵をなんじに与えうるなり。聖書はみな神の感動によるものにして教へと譴責と矯正と義を薰陶するとに益あり。これ神の人の全くなりてもろもろのよきわざに備えを全うせんためなり」(テモテ後書三ノ一四―一七)

この危険な暗黒の時代の人々に示さねばならない真理が数多く残されています。しかしサタンはその光が人々の心に射しこむのを妨げようとする断固たる目的を持っています。もしわたしたちが備えられた光を受けたいと思うならば、神のみことばを忠実に探求することによって、みことばに対する望みを示さなければなりません。長い間はつきりしなかった尊い真理が、その聖なる真価をあらわす光に照し出されなければなりません。神は、そのみことばに栄光を与え、それは、かつて

見たことのないほどの光を受けて現われます。しかし真理を愛すると告白している者は、与えられた力を働かさねばなりません。それは彼らが神のみことばの深い意味を理解し、神に栄えが帰せられ、神の民が祝福され啓発されるためです。謙遜な心を持ち、神の恵みによってやわらげられた心をもつて、天来のすべての光を受け入れ、清い道に歩むように決心して聖書を探求しなければなりません。

学ぶ者としての態度をもつ

聖書を研究するのに、自分の先入観に合うようにみことばを解釈しようとつとめるのではなく、リストの信仰の土台となる教理を理解しようとする初心者として学ばなければなりません。ナタナエルが深い興味と熱心な祈りをもって真理を知りたいと主をひたすらに求めたのと同じ精神で、真理を知ることができるよう神のみことばに近づかなければなりません。光は、ナタナエルにきたように真理を求めるすべての者にもきます。イエスはナタナエルが**いちじく**の木の下で祈っているのをごらんになりました。そして彼がまだ光を求めて祈っているときに、彼をすべての光の源に連れて行くために、使いが彼を呼びにきました。

「ピリポ、ナタナエルに会いて言う『我らはモーセがおきてにしろしところ、預言者たちがるししところの者に会えり、ヨセフの子ナザレのイエスなり』ナタナエル言う『ナザレより何の良き者かいずべき』」（ヨハネ伝一ノ四五、四六）この時ナタナエルの心の中に偏見と不信がわいてきました。ピリポはこれとあらそわないで言いました。「『きたりて見よ』イエス、ナタナエルのおのがもとにきたるを見、これをさして言いたもう『見よ、これまことにイスラエル人なり、そのうちにいつわりなし』ナタナエル言う『いかにして我を知りたもうか』イエス答えて言いたもう『ピリポのなんじを呼ぶまえに我なんじが**いちじく**の木の下にあるを見たり』ナタナエル答う『ラビ、なんじは神の子なり、なんじはイスラエルの王なり』」

ナタナエルは何とたやすく納得させられたことでしょう！そしてイエスは、どんなに喜んでこの誠実な、偽りのない信仰をござんになったことでしょう。「イエス答えて言いたもう『我なんじが**いちじく**の木の下にあるを見たりと言いしによりて信ずるか、なんじこれよりもさらに大いなることを見ん』また言いたもう、『まことに誠になんじらに告ぐ、天ひらけて人の子の上に神の使たちの上りくだりするをなんじら見るべし』」神は不信や疑問やうたがいを決しておほめになりません。一たび神が仰せになったみことばは、認められ、毎日の生活に実行されなければなりません。

もし、人の心が神と生きた交渉を持っているならば、天からくる声を聞き分けることができるはずです。

論争をさけること

神のみことばを徹底的に研究して尊い真理を発見し、それを明るみに出さなければなりません。安息日学校の教課を論じる場合、論争の精神が入ってこないように注意しなければなりません。意見を異にする点を持ち出すとき、神のみことばを理解したいと熱心に求める人はキリストのような懇切な態度を示さねばなりません。おのおの真理が何であるかを自分でよく知るため、真理を率直に研究する自由が与えられなければなりません。安息日学校の生徒の間に探求の精神がなければなりません。そして実証を自分で認めることができる年輩の人々が、新しい光を探求し、神がその民にお与えになったすべてを正しく判断するようにすすめねばなりません。神がその民にお与えになった光は、真理のみことばを忠実に探求しなければあらわれるものではありません。

世には、人々をまちがった方向に導くさまざまなあやまりが満ちています。ですから教師も生徒も何が真理であるかをよく知っていなければなりません。わたしたちがその教えを実行し、神のみ

口から出てくるひとと言ひと言によつて生きるには、神のみことばを尊敬し、その生きたみことばの中に神のみ声を認めなければなりません。神のみ心を行う者は、その教理が神のものであるかどうか知ることができます。それは、どのようなあざむきも彼の心をくもらせることがないからです。神は、真理の尊い宝玉を見いだすために、老いも若きもすべての人がそのみことばを忠実にさぐるように召しておいでになります。牧師も一般信徒も教師も生徒も、すべてのものが聖書研究をするように召されています。

尊い光が神のみことばから輝き出なければなりません。ですからだれでも、神がお送りになる光の使命のどの部分を人に教えるように、またどの部分を教えてはならないなどと、あえて命令したりすることによつて、神のみたまを消してはなりません。どのように権威ある地位にある人でも、人々から光をさえぎる権利はありません。

使命が主のみ名によつて神の民に与えられるとき、どんな人であろうと、その主張するところを研究しなくてもよいということはありません。無関心で自信に満ちた態度で「わたしは何が真理であるか知っています。そしてわたしは自分の立場に満足しています。自分のくいを打ってしまったから何がきても、自分の立場から動くことはできません。わたしはそれが真理でないことを知って

いるからその使者のことばを聞きたくありません」といつて、ひきさがっていてはなりません。一般教会が部分的な暗黒の中におきざりになったのも、天来の使命が彼らに届かなかったのも、彼らがこのような道をたどったためです。

素直な心を養うこと

神は安息日学校の働きの責任ある地位を占めているすべての人に、利己主義、うぬぼれ、見識の誇りを捨てるようにお命じになっています。もし理解できない使命に接したなら、その使命は神のみことばに根拠をおくものかどうか、聖句と聖句をくらべてよく調べ、その使命を伝えた人の語る理由をよく聞くようになさい。もしその見解が神のみことばに基礎をおいていないことを信じ、その問題に関してあなたが持っている見解を否定することができないなら、あなたは自分の確固とした理由をはなしなさい。あなたの見解は誤謬に接してもゆるがないでしょう。見ることを恐れて目をとじ、聞くことを恐れて耳をふさぎ、へりくだって、ある真理について光を受けたことを認めなければならぬことを恐れて、無知と不信の中に心をかたくなにして暗黒の中に戦いつづけることには何の徳も何の男らしいこともありません。

真理の研究から離れていては、救い主の「聖書をしらべよ」というご命令を実行していることにはなりません。ある人の努力の結論をくずの山とよび、あなたがいけないという思想の中に尊い真理の宝石があるかどうか批判的に調べもしないでいるのは、かくれた宝を探求していることになるでしょうか。まだまだ学ぶことをたくさん持っている人が、自分では真理であると納得したことと真理を信じる教師の意見が一致しないことを理由にして、神の民に与えられる使命を研究する機会である集会に、こなくなるということがあるでしょうか。それはキリストの時代にユダヤ人がしたことです。わたしたちは、ユダヤ人のように光より暗きを選ぶことのないように警告されています。それというのも、彼らの中に、生ける神からはなれた不信という悪い心があつたからです。自分が年長者であるとか、すぐれた知恵をもっていると考える人であっても、生ける神からつかわれた卑しい使者から何か学ぶことができるはずです。（T S S・六二―六六ページ）

教師は学ぶ者でなければならない

「なんじわかき時の欲を避け、主を清き心にて呼び求むる者とともに、義と信仰と愛と平和とを追い求めよ。愚かなる無学の議論を捨てよ、これよりあらそいの起るを知ればなり」（テモテ後書

二ノ二二）青少年を教育する者は、神の成功ある働き人となるために、みことばと経験の両方面を深く学ばなければなりません。彼らは我らの主なる救い主イエス・キリストの恵みと知識に成長して、キリストの身のたけにまで達しなければなりません。恵みに成長するということは枝がぶどうの木につながっているようにキリストにつながっていることをあかしすることです。もしキリストにあるならば、霊的真理を認識する力を持っているはずで、霊のことは霊によってわかまえることができますからです。

「我このふみをなんじらに贈るは、なんじら悪しき者に勝ちたるによる」（ヨハネ一書二ノ一三、一四）神は青年男女が自分にゆだねられた才能を最善に用いるように命じておられます。また勤勉で研究の習慣を養い、神がお与えになった才能を向上させることを望んでおられます。神は奉仕やタレント（才能）の向上をお受け入れになりますが、中途半端な心や、やりかけの仕事をあよるこびになりません。神の働きには、どの方面であつても、ある限りの力を尽さなければなりません。また、あるかぎりの助けをもちい、真理をのべ伝えるために最もひいでた精神を注がなければなりません。この働きは高尚で神聖なものですから、暗黒の中に座し、死の陰にいる者に適当に正しく示すためには、ある限りの知的、霊的能力を必要とします。

神の働きのどの方面の教師に召されても、あなたはキリストの学校に学ぶ者として召されているのです。もし他人を教える神聖な責任を引き受けるならば、あなたは自分が教えようと思うあらゆる問題の底まできわめる責任を負わなければなりません。安息日学校で、ある問題を神のみことばによって生徒に示す場合、自分の信じる理由を、生徒が真理と納得できるようにはっきりさせなければなりません。忠実に研究して、神が教会にお送りになった使命を神のみことばの証拠と照し合わせ、自分自身で何が真理であるかを知り、あなたに頼る人々を義の道に導くことができるようではありません。

公平な気持で聞く

自分の知らない教理の理論を聞くように頼まれたら、徹底的にそれを調べ、神のみことばに根拠がないことがわかるまではその使命を否定してはなりません。わたしにもしその機会が与えられたら、わたしは全世界の安息日学校生徒に、真理を求めるために神のみことばに行きなさいと一段と声をあげて熱心に訴える決心です。神は、この時代の神の民に与える特別の光を持っておられます。真理のすべての点を徹底的に知るために熱心に研究し、神の日に、神のみ口から出るすべてのみこ

とばに従って生活しなかった者の中に自分を見いだすことのないようにしなければなりません。

神のみことばをなおざりにするとき、どのような重大なことが起るかよく考えてみなければなりません。聖書研究は、最上の知能ともっとも清められた能力を用いる価値のあるものです。新しい光が教会に与えられたら、その光を避けることは危険です。その使命、または使命者に対して偏見を持っているからといってそれを聞くことを拒むならば、神の前に何の申しわけも立ちません。自分がまだ聞いたことがないからとか、理解できないからという理由で否定するならば、公平な気持で真理を探求する人々に自分の知恵の足りないことを現わすことになります。また神が真理の使命をお送りになった人を軽蔑することはおろかなことです。青年たちが神の働き人となるために学びたいと求めているならば、まず主の道を学び、神のみ口から出るひとことひとことによって生きていかなければなりません。無限の神はすでに真理全体をお現わしになって、これ以上神の民にお現わしになる光がないというように考えてはいけません。真理の全部が現わされたと信じ込むと、神の豊かなみことばの鉱脈に注意を集中して探求する時に発見される真理の宝石を捨ててしまう危険があります。

自分で研究する

教師の働きにたずさわる者や責任ある地位に召されたものは、他の人の研究の結果に満足していないで、自分自身で真理を研究しなければなりません。真理の問題を自分で研究する習慣を養わないと、その人の生活も知識も表面的なものになってしまいます。知人の意見は価値あるものであるかも知れませんが、それに頼って自分のはっきりした意見を持っていないようではいけません。自分が信じるようになった真理をよく調べて、その真理については非の打ちどころがないというまでにならなければなりません。自分の持っている信仰のすべての点をおきとあかしに照してみなければ得るところは少ないのです。なぜならば、真理をそのあるままで理解しないからです。若い人がみな神のお与えになった特権の価値をみとめることができるように祈ります。すべての光の源に行って霊の光をうけることは神のみ旨です。（神の霊は、心ひくく真理を求める者に与えられるからです）そうするとき神の霊とみことばが一つであることがわかり、真理が真理だということを知らようになります。こういう知識はなんと確固とした確証を与えてくれることでしょう。あなたはその時から力をもって話すことができ、自分で学んだ真理を伝えることができ、「巧みなる作り話」

に従わなかったことを知るでしょう。(TSS・五八一六ページ)

光を増し加えたもうという約束

義の太陽と生きた関係を保つ人には神のみことばについてたえず新しい光が与えられます。だれ一人として、これ以上現わされる真理はないと決めてはなりません。忠実に、祈りつつ真理を求める人は、神のみことばから尊い光が輝き出るのに気づきます。まだまだ多くの宝石が散らされています。それを集め、神の残りの民の財産としなければなりません。光は教会の力となるためにだけ与えられるのではなく、暗黒の中にいる人々を照すために与えられるのです。神の民は暗黒の中からそのたえなる光に導いてくださった神の栄えを示さなければなりません。キリストはその民に「なんじらは世の光なり」と仰せになりました。暗黒を照し輝かすのは光の使命です。

主は、教師も生徒も神の息子、娘となり、永遠の栄えの冠を受ける者となるようにご自分の生命をささげたまいました。主がその時に計画されたように、彼らがその標準に到達することができるよう願うものです。(TSS・五三、五四ページ)

熟知している聖句の新しい意味

真理を求める敬虔な気持で「主が仰せたまうたこと」を知りたいと熱心に願い、神のみことばを読むために聖書を開くとき、光とめぐみが与えられ、神のおきての中に驚くべきことを見いだします。そしてエホバのおきてを奴隷の軛と思わず、すべてを知り、あわれみに満ちておられる神の恵みあるおきてであると思うようになります。こういう人は、神のご要求を実行するために、ただちに努力します。長い年月の間なおざりにされ、ありがたく思われなかった偉大な真理が神のみたまによつて現わされ、ありふれた聖句から新しい意味が輝き出ます。一ページ一ページが真理のみに照されます。聖書は封じられたものではなく、開封されたものです。最も尊い真理があらわされ、生けるみことばが怪しむ耳に聞え、人の良心はさまされて行動を始めるようになります。

(T S S・三〇ページ)

聖書の目標から遠ざかる

多くの人々は聖書についてほとんど何も知らないために信仰が不安定です。彼らは古い目標を動かしてしまったので、あやまりや教えの風が彼らをあちこちになびかせています。いわゆるあやま

った科学はキリスト教の原則の土台を動かし、かつて信仰を持っていた者は聖書の目標からはなれ、神の子らであると自称しながら神から離れています。（レビュー・アンド・ヘラルド・一八九六年一月二十九日）

青年を異端から守る

安息日学校で学ぶ聖書教課は、多くの人が考えるよりずっと大切です。この子供たちは近い将来にキリスト教教会内にはやる異端やいつわりの教えに直面しなければなりません。ですから、単純にしかも徹底的に青年たちを教えてください。わたしたちの働きはさばきの日にたち得るものでなければなりません。今日の青年たちは、社会に入ってきている悪に直面し、これに打ち勝つことができるように、キリストの恵みによって身を固めなければなりません。彼らは与えられたすべての知識と感化力を用いる機会が与えられます。そして周囲をとり囲む悪の流れを止めるのに上からの力を必要とするのです。あやまりと非聖書的な教理を支持する者がたくさんあります。世界はあまねく神を忘れ、そのご要求を軽蔑するようになっていきます。神のおきては汚れた足の下に踏みこじられています。青年はみな、おのこの機会に対して責任を負わされています。また神に対して、

聖書から受けた光に対する責任を持っています。（T S S・二二ページ）

試みに対するとりで

聖書の真理を心にたくわえることに対して、絶えず成長する活気のある興味があればなりません。このようにして得た尊い知識は心のとりでとなります。試みにおそわれても、栄光と徳に導きだもう主を知ることによって、イエスにあって動かない信頼を持つことができます。（T S S・一二ページ）

真理を探求するときの神の助け

神の真理には限りがありませんから、真理の一点一点を探求しなければなりません。そして研究するにあたって神が仰せになったことを知るために生徒も教師もともにつきぬ興味を持たなければなりません。神のみ声は長年の間、わたしたちに「奨励せよ、奨励せよ」と仰せになっています。間違いとの区別をはっきりして、真理が何であるかを知るために、真理のすべての点を研究しなければなりません。神の奥深い事柄を知るために生徒にみずから探求させなさい。この働きをキリス

トの精神をもっていたしましょう。そして生徒を拘束しないようにいたしましょう。

聖書研究をするにあたって、全く謙遜なくだけた心をもって、神に熱心に求める必要があります。心をひくくして真理を求めに来るものは、その研究を神の使に助けていただけます。（TSS・

五五、五六ページ）

中途半端な奉仕

クリスチャンであると言いながら神のみことばを半分も信じていない人が多くあります。彼らは熱心に研究もせず、大切な時間に小説や物語の本を読んでいます。神のみことばを単に知的に理解しているだけでは、生活の習慣に影響を及ぼすに十分ではありません。というのは、生活は心の状態によって調節されるからです。もし安息日学校の教師が教課の表面的な啓示についてだけ教えたとすれば、その働きはまだ始められたばかりにすぎません。生徒が天の教えについてただ頭で受け入れるばかりでなく、心にしるすまで働きつづけなければなりません。（TSS・五七、五八ページ）

祈りをもって研究すること

わたしたちは心のすべての力を尽して聖書研究をしなければなりません。そして神の深いことからについて人間としてできるかぎり理解するように努めなければなりません。しかも子供のようなすなおさと従順さ、服従が学ぶ者の精神でなければなりません。聖書の難点は、哲学的な問題を解決するのに用いられるような方法では決して解決されません。わたしたちは多くの人が科学の世界の研究をはじめするような自信を持って聖書の研究にたずさわってはなりません。祈りをもって神に頼り、神のみ心を心から知りたいと望まなければなりません。わたしたちは謙遜で素直な心をもって「我ありてあるもの」であられる神から知識を得るために近づかなければなりません。そうでなければ悪天使はわたしたちの心を盲目にし、かたくなにして、真理から何の印象も受けないようにさせます。

世の識者が神秘であるといい、また重要でないものとして見すごした聖書の多くの箇所は、キリストの学校で教えられる者にとっての慰めと教えて満ちています。多くの神学者が神のみことばをはっきり理解できない一つの理由は、自分たちが実行したくない真理に目を閉じるからです。聖書

の真理を理解することは、研究に用いる知的能力よりもむしろ一つの目的に向かってすすむこと、すなわち義を熱心に求めるかどうかということにかかっています。

決して祈らずに聖書を研究してはなりません。聖霊だけが理解しやすいことがらの重要性を感じさせ、理解しにくい真理を曲解しないように助けることがおでになります。わたしたちがみことばの美に打たれ、警告に耳をかたむけ、そのみ約束によって生かされ、力づけられるように神のみにことばを理解する心の準備をさせるのが天使の働きです。「なんじわが眼をひらきなんじの法のうちなるくすしきことを我に見せたまえ」（詩篇一一九ノ一八）という詩篇記者のうたはわたしたちの願いでもなければなりません。祈りと聖書研究をおろそかにするために、試練を受けた場合、神の約束をすぐに思い出すことができず、したがって聖書という武器をもってサタンに立ち向かうことができないので、その試練は耐えられないものと思えます。しかし神のことについて学びたいと望んでいる人のまわりには天の使がいて、何か一大事が起ると、必要な真理を思いださせてくれます。

（T S S・一一一、一二二ページ）

知識を与える神の方法

イエスは毎日生物界や無生物界から知識を得たまいました。すべてのものを創造し、力あるみことばで丘や谷や川や木を存在させたもうたそのお方が今や人の子となられたのです。主はかつて葉に花に木にみずからおしるしになった教えをお学びになりました。イエスが伝道されたとき、真理の教課を教えるためにたとえをよくお用いになりましたが、それらのたとえは、イエスがどんなに心から自然のうるわしい感化の中にひたりたもうたか、また、かくれた年月の間、日常生活の環境のあらゆるものから霊的教訓をどんなに喜んでお学びになったかを示しています。神のみことばと神の働きの意義は、イエスが他の青年たちと同じように考え、理解したいと求められるにつれて、しだいに開かれていきました。

どの子供でも、イエスが自然のものや神のきよいみふみのページから得られたように知識を得ることができます。きよいみことばを通して天の父を知りたいと努めるとき、天の使は近くにきてわたしたちの心を強めますし、わたしたちの性格は高められ、洗練され、より一層救い主に似てきます。自然界の美と荘厳さをながめるとき、わたしたちの愛情は神にひかれていきます。それと同時に心は畏敬の念に打たれ、精神は服従させられ、魂は神のおどろくべきみわざを通して無限の神と

交わることによって活気づけられます。謙遜な祈りによって神と交わるとき、知적および道德的な力はのばされ、力づけられ、靈的な力は靈的なことを考える訓練によって増していきます。

身も心も魂も神にささげ、神のおきてにしたがうことによって思想を淨化する人は、絶えず新しい肉体的な力と知的な力を受けます。心は神を慕い、聖靈のつとめと働きを、もっと、はっきりしたいと熱心に祈るようになります。わたしたちが聖靈をもちいるのではなく、聖靈がわたしたちをもちい、あらゆる能力を形づくるのです。

きたるべき試練に対して、どのような備えをするか

キリストのしもべは自分の信仰を調べられるために引き出されたとき、定まったことばを用意しておく必要はありません。彼らは日々心の中に尊い神のみことばの真理をたくわえ、キリストの教えを食し、祈りによって信仰を強くして準備しなければなりません。そうすれば、調べられるために連れてこられたとき、聖靈が特別に必要な真理をわたしたちの記憶によみがえらせます。それは聞く人たちの心の底までとどきます。

神は、勤勉に聖書を研究して得た知識を、それを必要とするときに、記憶によみがえらせてくだ

さいます。けれども、もし真理の宝石で頭を満たさず、キリストのみことばを学ばず、試みにおいて神の恵みの力を味わったことがなければ、聖霊が神のみことばを記憶によりみがえらせてくださることは期待できません。毎日、心を一すじにして神につかえ、神を信頼しなければなりません。

(T S S・一〇五―一〇七ページ)

日ごとの聖書研究

安息日学校は両親にも子供たちにも、神のみことばを研究する尊い機会を与えます。けれども安息日学校で当然受けるべき恩恵を得るには、両親も子供も教課の研究のために十分に時間をさき、それに示された事柄を徹底的に知るようにし、また、その事柄が教えようとしている霊的真理をよく知るようにしなければなりません。ことに今学んでいるみことばの十分な意味を研究することの重要性を青年たちの心に、深く印象づけなければなりません。・・・

両親方よ、子供たちと安息日学校の教課を研究するために毎日少しの時間をさいてください。きよいご生涯の歴史の尊い教訓を研究する時間を犠牲にするよりも、必要ならば社交的な訪問をやめた方がよろしい。子供と同じように両親も大变得るところがあります。その日の教課と関係のある

大切な聖書のみことばを、義務としてではなく特権としてあなしょうしよう。最初は完全に覚えられないかもしれませんが、練習することによって力づけられ、しばらくするうちによるこんで真理の尊いみことばをたくわえるようになります。そしてこの習慣は宗教的な成長に非常に価値ある助けとなります。人のうわさをしたり、誇のためにもちいたり、食欲を満足させるために浪費してしまう時間を、興味深く聖書を研究するためにもちいれば、どんなに大きな力が安息日学校に与えられることでしょう。しかし両親たちが子供たちの心に神の真理をたくわえさせるより流行の洋服を着せようと心あせていると、子供たち自身も、間もなく自分の救いに関することよりも、衣服やそれを見せることをもっと重大なことと考えるようになります。……

家庭での聖書研究を組織だてなさい。世的なものはどれをおこたってもよろしい。不必要な裁縫や料理はどうあってもよろしい。しかし生命のパンで魂を必ず養うようにしなければなりません。毎日、一時間でも半時間でも神のみことばに気持よく接近することが、どんなによい結果をもたらすかは測り知ることができません。聖書を聖書の注解者とし、きめられた問題に対してちがった場合といわれたすべてのみことばを集めてください。たとえ訪問者がきても、家庭の組を解散してはなりません。研究中にきたら、研究にともに入ってもらいなさい。そして神のみことばの知識

を得ることは、この世の楽しみを得る事よりはるかに大切であることを示さなければなりません。

(T S S・一〇、一一ページ)

教課を記憶すること

知的な訓練の手段として安息日は無限の価値をもった機会である。安息日学校の教課は、安息日の朝大いそぎで、教課の聖句に目を通すというような学び方でなくて、安息日の午後に次週の分を念入りに研究し、その一週の間毎日これを復習し、また実例によって説明するといったような学び方をしたいものである。こうするとき、教課は記憶にきざみこまれ、残らず無くなってしまいうなことの無い宝となる。(E D・三一四、三一五ページ)

日ごとの霊の糧

「いかすものは霊なり、肉は益するところなし、わがなんじらに語りしことばは、霊なり、命なり」というキリストのみことばを理解しなければなりません。みことばを受け入れて実生活に織り込まなければなりません。血液が肉体の生命であるように、霊的生命は、キリストに心の宮の光と生命になっていただくことによって成り立つのです。みことばを学ぶ者はみことばを食べ、キリス

トを食べることにたとえられています。肉体の必要が毎日満たされなければならないように神のみことばも毎日学ばねければなりません。——食べて、消化して実行しなければなりません。こうすれば栄養を持ちつづけて魂の健康を保つことができます。みことばをなおざりにすることは魂を飢えさせることです。神のみことばの真理を昼夜黙想するさいわいな人のことがみことばの中に述べられています。わたしどもはみな神のみことばを食べなければなりません。みことばと信者との間には切っても切れない関係があります。みことばでわたしたちの靈的必要を満たすことは、民をいやす生命の木の葉を食べることです。みことばを学び、みことばを実行なさい。それはあなたの生命なのです。（エレン・ジー・ホワイトの書簡・四・一九〇二年）

家庭の協力

教師のかしこく忍耐深い努力がなければなりません、同時に安息日学校や教会の働き人に働きをまかせてしまってはなりません。家庭の働きにその基礎をおき、家庭の支持を受けなければなりません。両親に神聖な責任と仕事が行わされています。そして彼らは、神をおそれながらその仕事を果し、責任を負い、子供たちの魂をいつか神の前に申しひらきをしなければならぬ者として見

守るように求められています。

家庭における伝道は、不思議なほどなおざりにされています。子供たちの救いのために、熱心で、キリストのように心にかけなければならぬ十分な理由を持っている人々が、自分たちの責任に無関心で、家族の者の必要を軽く考えています。多くの者は、神が親である男女にお与えになった責任を、安息日学校の働き人や教会の感化にまかせてしまっています。しかしすべての器にはそれぞれの働きがあつて、自分の責任を果さない両親は秤にはかれて、足りないものとされるのです。

キリストが、雲の中からイスラエルの民にお与えになった教訓は、両親の義務を明らかにしています。それは明りようなものであつて、理解しにくいものではありません。この教訓はわたしたちを警告し、また益するものです。「なんじらこれらのわがことばをなんじらの心と魂とのうちにおさめ、またこれをなんじらの手に結びてしるしとなし、なんじらの目の間におきておぼえとなし」（申命記一一ノ一八）何をしていても、彼らは主のいましめをおぼえていなければなりませんでした。彼らの手に結んでいなければなりませんでした。それは文字どおりに結ぶのではなく、日常生活のすべての行いにその感化をあらわすということでした。目の間におぼえとしてつけることになつていました。彼らは神のおきての真理をその心に常に黙想しなければならぬのでした。そして

その原則に支配されなければならないのでした。「これをなんじらの子供に教え、家に座する時も道をあゆむ時もいぬる時もおくる時もこれを語り、またなんじの家の柱となんじの門にこれを書きしるすべし。しかせば、エホバがなんじらの先祖たちに与えんと誓いたまいし地になんじらのおる日およびなんじらの子供のおる日は数多くして天の地をおおう日の久しきがごとくならん」(申命記一一ノ一九―二一)

愼みと謙遜を教える

神のみ子が、イスラエルの子らを教えるためにモーセにお与えになった教えは、その当時と同じように今日でもなくてはならないものです。それはいにしえの神の民のように今日も両親によって忠実に守られなければならないものです。神に従った実として神がお定めになった結果を見たいと思うならば、家庭生活のすべての点に宗教を織り込まなければなりません。誇り、自負心、大胆さは今日の子供たちの特徴であり、またこの時代ののろいです。至るところにこのきざし——クリスチヤン的な愛らしくないあらわれを見、しかも両親や教師たちが子供たちや生徒の才能をみせびらかそうとつとめているのを見て、わたしの心は痛みます。なぜなら、これは彼らの歩むべき道とは全

く反対のものであるからです。

両親や教師が聖書から知識を得、心も行動も聖なる原則に支配されていれば、迷って禁じられた道に入っていくようなことはあるはずがありません。きよい慎みと謙遜の最もよい教えは、家庭と安息日学校の両方で子供たちに教えられなければなりません。彼らは、神のおきての高い要求と神に対する彼らの責任について教えられなければなりません。彼らに教える教えは、この世の中でも彼らを有用な者とし、同時に、将来永遠のみ国に行くことができるようにするものでなければなりません。

「なんじ心を尽し精神を尽し力を尽してなんじの神エホバを愛すべし、きようわがなんじに命ずるこれらのことばはなんじこれをその心にあらしめ、つとめてなんじの子供に教え、家に座する時も道を歩む時もいぬる時もおくる時もこれを語るべし」これらのことばは両親と教師の義務を明らかに示しています。もしこの教訓に従うならば、必ず最善の結果をみることができます。

両親が義務を果さなかつた結果

もし彼らが、生ける神の子が雲の柱から彼らにお与えになった教訓を実行したならば、この特別

第2部 聖書の研究のための学校

に神に愛せられた民イスラエルの歴史は、聖書にどんなにちがったものとして書き残されたことでしょう。彼らはその訓令に忠実に従いませんでした。また、神の要求を子供たちに教えませんでした。神を拒んだ国民の悲しむべき結果がわたしたちの前に描かれています。彼らは神の知恵からあまりにも遠く離れてしまったので、偉大な教師、世のあがない主イエスがあらわれたもうたとき、彼らは「この人を除け」と叫ぶようになってしまったのでした。人の伝説は神のおきてよりずっと高く評価されました。あやまった習慣と人間の考案したものが神の教えに代り、彼ら自身の一部となるべき教訓は、小さいもの、価値のないものと思われたのでした。

キリストがこの世においてになって真の宗教を実際に示し、人の心と行いを支配すべき原則を高く掲げようとなさったとき、かつては尊い光を持っていた人々の心には偽りが深く食いこんでしまっているのです。もはや光を認めることもしなければ、真理のために伝説を捨てるような様子も見えませんでした。彼らは天からの教師を拒絶して、自分たちの習慣、伝統を保持するために栄光の主を十字架につけました。これと同じ精神が今日世界にあらわれています。人々は、自分たちの伝統が妨げられ、新しいことながら持ち込まれては困ると思って真理を探求することを避けています。人間は常にあやまちを犯す可能性を持っていますし、また、人間的な考えや知識を高くあげようと

する生来の傾向があつて、神や永遠に属するものをかえりみず、これをありがたく思わないのです。

拒まれたキリストの使命

偏見のない人にとって、キリストのみことばは天来の光のようでした。「この人の語るごとく語りし人はいまだなし」(ヨハネ伝七ノ四六)偉大な教師キリストが永遠の将来の現実性をまざまざとお示しになったとき、滅びゆくこの世のものはかくれてしまいました。光を求めて非常に熱心に祈っていた人々はどんなに熱心にこの真理を受け入れたことでしょうか。ところが、ごうまんて自己を義とする者はキリストの使命を拒みました。(T S S・三五―三九ページ)

教育者としての両親

家庭は単調で殺風景な場所ではなく、教育する場所でなければなりません。夕食後は義の道を教える時間として使うようにとおかなければなりません。しかし悲しいことに、多くの子供たちは放任されています。子供たちは神の真理がわかるように、また正義を愛し判断することができるよう家庭で教育されていません。子供たちが彼らを支配している法則を理解し、彼らの行為の動

機を悟ることができるように、忍耐強く教えねばなりません。そして天のおきてに調和するように、またイエスのうちにある真理を愛するように導びかねばなりません。このようにすれば天使たちの交わりに加わるにふさわしい者となり、愛するあがない主のみに立つことができます。

すべての魂に正しい望みと抱負を植えつけることができます。青年たちは聖なる道に美を見いだすことができます。若い者を人生の有用な人物とするために訓練し錬磨し、完成するには、どんな場合でも断固とした方法をとらねばならないかもしれません。神が各自にお与えになったタレントの価値を認めて感謝する人はごくわずかです。すべての知恵、力、また聖潔の源であられるお方と生きたつながりを保って、はじめて知能や心が十分な発達を遂げることができるという事実を認めている両親や教師は、なんと少ないことでしょう。真理は無限です。心に光が与えられ、聖霊に導かれていたる者は、力から力に進み、「いいいよ、かがやきをまして昼の正午に至る」道を発見するでしょう。

地に向かってか、天に向かってか

しかしわたしたちには知恵と真理に進む可能性がありながら、前進すると同じように後退するこ

ともできるという事実をはっきり認めましょう。天に向かうことができるように地に向かうこともできます。天と地獄へ行ける中間に立っている人がたくさんあります。人を欺く巧妙な力が人の心を神や天のことから引き離そうとしています。だれでも、若い時から青年期、または成人になるまで見守られなければなりません。ことに、悪の危険を知り、神がすべての魂に対して感じておられる愛と興味とを知っている人は、やがて申し開きをしなければならぬ多くの魂を見守ることを自分のなすべき仕事としなければなりません。

両親はアブラハムのように、家族の者が自分たちにならって主の道を守るように命じなければなりません。もしそうしなければサタンは喜んで両親の働きをなし、彼の喜ぶように子供を訓練します。まことに悲しいことですが、彼にまかせてあることが、なんと多いことでしょう。両親は自分に任されている者に対する責任を果すようにし、神の模範にならって彼らの人格を形作るようにいたしましょう。両親たちは生ける信仰をもち、神に全く頼って自分に課せられた働きを果しましょう。そうすれば、神はご自分の分をお果しになって、神もなく望みもない幾千の子供たちが教会に加えられることでしょう。

青年の悔い改めに対する重荷

青年たちの悔い改めが両親や教師たちの大きな重荷になる時、彼らの性格を鍛練し、趣味や望みを天国の方向に向けるように絶えず努力が払われます。すべての人が堅固な徳を作り上げる可能性を持っています。また霊的なことに関する知識の高さ深さ広さに到達し、より高い生活に適應することが出来ます。両親が神のみ栄えのみを考えて、食事や衣服や生活様式をできるだけ単純で自然なものにする習慣を作る第一歩を踏み出すとき、家庭に秩序が生れ、子供たちが放任されるということはありません。子供たちを教え、その發達のために十分な時が費されるようになります。

子供たちは最上の感化と交わりに囲まれていなければなりません。神をおそれ愛してこの働きをはじめ両親は、自分のひと言ひと言を慎みます。そして子供たちが自分たちの会話を繰り返すのを聞いて心を痛めることがないようにします。また、高い道德的教訓によって子供たちの弱さ、無知、欠点を補うように努めます。そうすれば彼らは、健康と幸福に役だところのしっかり作られた習慣をもって、純潔に強く成長していくことが出来ます。このような教育によって彼らは、自分の性格を円満に強く完成していく知識を集めることが出来ます。

放任することの非常な危険性

もし青年が自分の教育を気ままに受けるように放任されていたなら、あらゆる手段が備えられていることに気がつくでしょう。いろいろな種類のみなもとから悪の知識が心に入り、後生涯においてそれを全く消しさるということはおそらく不可能でしょう。両親が子供たちの性格の土台を置く義務を果さず、またその性格を築くための材木として最上の原則を用いなかったら、この怠慢を神と人との敵が満たし、青年は徳や真理に対して無関心になります。家庭は世界中で一番楽しいところでなければなりません。外面的、人工的なものを、真実なもの、自然なものに比較することができのでしょうか。主は子供たちに、両親と教師が非常に注意深い訓練を与える必要のあるいろいろな才能をさずけておいでになります。

神から青年たちを訓練する責任をまかされた人々は、神と協力して、青年たちの力を増し加え、将来永遠の生命にまで持つていくことのできる知識を得ることができるよう、その青年たちの知能と心の尊い賜物を発達させなければなりません。……

最も重要な働き

子供や青年の性格を形づくり、それをつくりあげる仕事は大へん重要な働きです。この働きをするにあたって、何ものにも比較し得ない愛を持っておられるイエスを彼らに示さなければなりません。そうすれば、キリストの強烈な魅力は世的な誘惑を消してしまいます。青年たちは、どんなに理路整然としていても、ただその理論を知るだけでなく、キリストの愛する性格と栄光を見るようにさせなければなりません。青年たちを励まし活気づけ、救いにみちびくまで、彼らに永遠の世界の富をながめさせなければなりません。イエスの愛がすべての努力の源でなければなりません。愛は人を動かし、はげまし、とりこにします。(TSS・101—105ページ)

安息日学校における両親

安息日学校は、青年たちに尊い機会と特権を与えます。両親はこれらの点を高く評価し、心から感謝していることを子供たちに示さなければなりません。両親が安息日学校に対してはつきりした興味を示さなければ、子供たちに興味を示してもらうことを期待することはできません。安息日学

校で、両親は子供たちと同じように生徒となることです。両親も子供たちも共に聖書を学ばなければなりません。神の書物より大切な書物があつてはなりません。キリストは、「なんじらは聖書に永遠の生命あり」と書いてこれをしらぶ、されどこの聖書はわれにつきてあかしするものなり」（ヨハネ伝五ノ三九）と仰せになっています。わたしたちはみな、もっと預言について明るくなり、キリストの实际的教訓に通じていなければなりません。もし興味も持たないで、ただ聖書を読むならば、その中に含まれている真理を知ることができません。

教課の日ごと研究

両親は子供といっしょに聖書をしらべなければなりません。両親自身が教課をよく知るようになるれば、子供たちの研究をたすけることができます。毎日一日のある時を教課の研究のためにあて、その意味を心から理解することもできないままに、ただ機械的にそのみことばを繰り返すのではなくその土台までさぐり、その教えの中に何があつかわれているかよく理解するようにしなければなりません。子供たちの無関心は多くの場合親に責任があります。両親が無関心なので、子供たちにも同じ精神がうつるのです。両親が安息日学校に重要な意味をもたせ、尊敬と尊重の意を払うなら、

子供たちはその模範にならうのが常です。

安息日の遵守を教えること

両親は、安息日のきよい時間は神の栄えのために過ごさなければならぬことを家族のものに徹底的に理解させなければなりません。あわてて自制を失うことのないように、日の出とともに起きて、安息日学校に行く用意をする十分な時間をもたなければなりません。もし前日に適当に準備しておくならば、その週に研究した教課を復習する時間が十分あるはずで、そうすれば親も子供もよく教課を学んで、確信をもって安息日学校に行くことができます。

子供たちと同じ気持を持たれたキリスト

イエスは子供たちに関心を持っておられました。彼は成長した者としてこの世においでになりました。もし、おとなとしてこられたのであったら、子供たちは従うべきキリストの模範を持たないことになります。キリストは一人の子供でした。彼は子供であることを経験なさいました。彼は子供たちが感じるあてはずれや試練をお感じになりました。彼は子供たちや青年たちのこころ

みをぞ存じでした。そしてキリストは、その子供の生活、青年の生活において、彼らの模範であられました。幼年時代に彼は有用な働きをされました。彼は青年時代に父とともに大工のお仕事をされ、両親につかえ、すべての子供たち青年たちに教訓をお与えになりました。もしキリスト自身が子供だったことがなかったのなら、青年たちは主が自分たちに同情なさることはできないと思うかもしれません。けれども、イエスは彼らの模範となる生涯をお送りになり、青少年は、主が彼らのすべての悲しみと失望を訴えることのできるお方であり、自分たちを助けてくださる友であられることがわかるでしょう。

イエスは小さい子供たちを愛しておられます。母親が子供を連れてイエスのもとにきたとき、弟子たちは追いつき返そうとしました。しかしイエスは彼らをいましめて、「おさなごらを許せ、我にきたるをとどむな、天国はかくのごとき者の国なり」（マタイ伝一九ノ一四）と仰せになり、子供たちを愛のかいの中に集めて祝福なさいました。もし両親や教師が子供を愛し忍ぶことができなかったら、あわれです。彼らはキリストの心を持っていないからです。安息日学校に子供たちを集めようとしている人はよい働きをしています。神に喜ばれる働きをしています。小さい子供であつても、のびていこうとする彼らの心は、イエスの教えに関する多くのことを理解できるのです。熱烈

な愛情をすべてささげて主を愛するように教えることができます。教師や両親はすべての水のほとりに種をまかなければなりません。もし忠実であれば、やがて魂を収穫することができます。そして彼らが働きかけた魂が、冠と白い衣と金の立琴を持って偉大なみ座のまわりにいるのを見ると、自分の努力がむだでなかったことを感じます。「よいかな、善かつ忠なるしもべ」というおことばが、美しい音楽のように彼らの耳に聞えてきます。（サイズ・オブ・ザ・タイムス 一八八一年六月二三日）

教課研究の時間を見つける

子供たちがよく安息日学校の教課を勉強しない理由として時間がないと苦しい言いわけをしますが、もし教課に興味さえあれば、教課の勉強をする時間を見つけることのできない人は、ほとんどありません。ある人は娯楽場に入りするためや見物などのために、ある人は見えのために、必要な衣服のかざりのために時間を費してほこりと虚栄心を増長させます。このように浪費された尊い時間は神のもので、彼らは、それに対して神に清算しなければなりません。不必要なかざり、娯楽、むだ話に費した時間は、すべての行為とともにさばきの座に持ち出されます。（TSS・八

ページ)

両親は子供たちを助けなければならない

両親は子供たちに預言を教えると同じように、神のおきてと、そのご要求に従って子供たちを教えることを、きよい義務と感じなければなりません。彼らは子供たちを家庭で教育し、自分自身、安息日学校に興味を持たなければなりません。両親は子供たちといっしょに勉強することによって彼らが教課にあらわされた真理を重大視していること、また聖書の知識への興味をおこさせるように助力していることを示します。(T S S・一一ページ)

両親は子供たちの研究を助けるだけでなく、自分自身も教課に明るくなって、自分の務を果すようにしましょう。聖書はわたしたちの教課書です。親も教師も生徒も、旧新約聖書の中にある尊い真理をよく知らなければなりません。(T S S・一四ページ)

学校よりも重要である

両親は子供たちが聖書の教課を学んだかどうかということを、毎日の学校の勉強よりも、もっと

注意深くみなければなりません。聖書の教課は、毎日の学校の勉強よりいっそう完全に学ばなければなりません。両親も子供たちもこのことの必要を認めなければ、子供たちは家にいた方がよいでしょう。というのは、安息日学校は彼らに祝福を与えないからです。両親や子供たちは安息日学校長や教師と協力して働くべきです。そして自分たちのためになされている努力に対して感謝の意を示さなければなりません。両親はもっと徹底した聖書の知識を得ることができるよう、子供たちの宗教教育に特別な関心を持たなければなりません。（T S S・八ページ）

勤勉な研究は豊かに報いられる

神から訓練を受けていた、ヘブルの青年ダニエルとその友人の勤勉はゆたかに報われました。彼らが熱心に知識を求めて努力したとき、主は彼らに天の知恵をお与えになりました。彼らが得た知識は、苦しい立場におかれた時、たいへん役に立ちました。主なる天の神は、知的、霊的の怠惰の結果としてくる欠乏をおぎなってはくありません。人間が知識を得るために、また深く物事を考える者となるために、自分の能力を用いるとき、そしてまた、いと高き神に栄光が与えられるために、彼らが神と真理の最も大いなる証人として魂の救いに関する大切な教理についての研究分野

において勝利を得たときに、法廷、国会、会議では、裁判官や王ですら、天地をつくりたもうた神こそ世界の基が置かれ、あけの明星がともに歌い、神の子たちがよろこびの声をあげたときに、第七日の安息日を制定なされた唯一の真の生ける神であり、キリスト教の創始者であり、すべての真理の創始者であることを認めさせられます。（F E・三七四、三七五ページ）

第三部
救
霊
の
機
関

第三部 目 次

最高の目的・	65
最も大切な教課・	68
み事業に最も必要なもの・	72
真理の効果・	73
すべての教師と生徒への質問・	74
約束された知恵と力・	76
集会をもっと霊的なものに・	79
各個人を研究せよ・	80
組の生徒に対する個人的働き・	81
家庭訪問・	83
こひつじを養え・	83
子供たちをなおざりにしてはならない・	84
小さい群れをみちびいて・	85
おさなごを集めなさい・	85
子供の宗教経験・	87
敏感な子供の心・	88
キリストのようなやさしさの力・	89
クリスチャンの働き人をつのる所・	90
安息日学校は伝道者養成の要素である・	92
聖書研究のための訓練・	92
他の教会のクリスチャンに対する心づかい・	93

第三部 救霊の機関

最高の目的

安息日学校の働きの目的は、魂の収穫でなければなりません。働きの秩序には欠点がなく、すべての設備も申し分ないかもしれません。けれどももし、子供たちや青年たちがキリストに導かれな
いならば、その安息日学校は失敗です。なぜなら魂がキリストにひかれなければ、それは、形式的な宗教の感化のもとにあつて次第に感動を受けなくなるからです。教師は、助けを必要としている心の戸を主がおたたきになるとき、協力しなければなりません。もし生徒が聖霊の訴えに答えて、イエスがお入りになれるように心の戸を開くならば、イエスは、彼らが神につけることながらを理解できるようにその理解力を深めてくださいます。教師の働きは単純ですが、もしイエスの精神をもつて働くならば、神の霊の働きによっていつそう深味が加えられ、効果的になります。

安息日学校でもっと個人的な働きがなされなければなりません。この種の働きがどれほど必要であるか認められてもあらず、正しく評価されてもいません。教師は心の中に与えられた神の愛に対する感謝の念に満たされて、自分の生徒の悔い改めのために、やさしく、熱心に働かなければなりません。

個人の救い、それから奉仕

安息日学校の働きはただ見かけだけのものではないという、どんな証拠を世に示すことができるでしょうか。それは実によつて判断されます。生徒の質また働きによつて評価されます。安息日学校ではクリスチャン青年に責任を与えなければなりません。その結果彼らはその能力をのびし、霊的な力を得ることができます。まず青年にみずからの心を神にささげさせ、それから最初の経験として他人を助けることを教えなければなりません。この働きは彼らの能力を実行に移させ、友人のためになるにはどのように計画し、どのようにそれを実行に移せばよいかを学ぶ助けになります。彼らに助けを必要としている友人を捜させ、つまらない会話をかわさずにクリスチャン品性を現わし、まだ神にみずからをささげていない人々をみちびいて、神と共に働く者となるようにさせます。

特権に比例する熱心

わたしたちは、青年たちを助ける努力において自分たちの責任を、はなはだしくなおざりにして
います。わたしたちは偉大な光を与えられましたが、熱心と真剣さに欠けています。わたしたちに
与えられた特権に比例する熱心さを持っていません。わたしたちはまわりを取りまいて、さむ
ざむとした不信の環境から立ちあがらなければなりません。そして神に近づけば、神はわたしたち
に近づいてくださいます。

わたしたちは、青年が魂の救いのためにどのように働けばよいかを学ぶように教えなければなり
ません。青年にこの働きを教えると同時に、わたしたちもまた、生徒を悔い改めさせるために、神
のみ手の中の効果的な器として、いっそう成功する働きの方法を学ぶのです。わたしたちは、熱心
な働きの精神に満たされ、キリストによってのみ力ある働きをすることができていることを認めて、キ
リストにすがらなければなりません。永遠の生命に関する事柄をよく理解することは、わたしたちの心は
わたしたちの心は啓発されなければなりません。また、真の教育者になるには、わたしたちの心は
キリストの恵みによってやわらげられ、従順にされなければなりません。

校長や教師は、自分は神のみことばを信じているであろうか、自分が滅びずに永遠の生命を受けるために、十字架の上で苦しい死を遂げ、おのれを捨ててくださった主のために、自分をささげているであろうか、イエスが周囲の魂を招いておられること、ことに悔い改めの念もなく、罪に生きてイエスのひきつける力に応じない人々さえ招いておられることを信じているであろうかと自問してみなければなりません。そして悔いの心をもって「主よ、わたしはある限りの感化力をもって人をあなたにひきつけようとつとめます。わたしはあなたを——すなわち聖霊によって人の心にふれ、人の心を従順におさせになることのできるあなただけを信頼します」と言わなければなりません。

(T S S・四七―五〇ページ)

最も大切な教課

もし意志の強い青年たちが、全力をつくして聖書を研究するならば、彼らが交わる友を照す光となる尊い知識を心にたくわえることができます。安息日学校は神の知識にすんだ人が、神の民の信仰に関する新しい考えを説くことができる場所でなければなりません。

クリスチャンであると公言するものがみな、行いにおいて真にクリスチャンであるならば、安息

日学校は無味乾燥な集りではありません。そのとき、教師はキリストがニコデモにお与えになった教訓を理解し、またそれが人間の運命に対してどんなに重大な関係を持っているかというように教えるようになります。イエスはイスラエルのつかさに「まことに誠になんじに告ぐ、人あらたに生れずば、神の国を見ることあたわず」と仰せになりました。人は新しく生れなければ天の王国がどんなものか理解することができず、またその霊的な面を明らかに知ることができません。キリストはつぎのようなことをニコデモに仰せになったのです。

「あなたが必要としているのは学識ではなく、内的な改革です。自分の好奇心を満足させるより、新しい心を持つことです。すべてのものを新しくするこの変化が起らなければ、天よりの信任状を持つ者としてのわたしの権威、働き、使命について討論をしても何の益にもなりません」

真理を知り、人に与えること

キリストがニコデモにお与えになった教訓は、すべての教師、安息日学校の働き人、すべての青年、子供たちにとって大切な教訓です。信仰の理由をよく知ることがはたしかに大切なことです。けれども、再び生れることがどのような意味を持つかという体験的な知識を得ることが、最も大切な

ことです。わたしたちの安息日学校に最も欠けているのは、生命の光です。教会は、真理が何であるか、他人にどのように真理を示したらよいかをイエスの足下で学んだ男女を必要としています。安息日学校の青年たちの教育者となるには、きよい人、謙遜な人、キリストの中に住むものとならなければなりません。

最大の必要

ニコデモは、たいして重要でない点について主と長討論をしようと思ってきました。けれども主は真理の第一の原理を明らかにさせて、ニコデモがまず必要としていることは謙遜な心、教えられる心、新しい心であることをお示しになりました。また、もし彼が神の国に入りたいと思うなら、再び生れなければならないことをお示しになりました。安息日学校の責任の地位にある方々に、わたしが、「あなた方はイスラエルのつかさですが、再び生れる必要がある」とあかしするなら、腹を立てて迷惑に感じる方がありません。ニコデモは、キリストがイスラエルのつかさとしての彼の地位に尊敬を払わずに、このように話しかけたもうたことを不思議に思いました。彼は真理を受け入れる準備ができていませんでしたので、皮肉なことばでキリストに答えました。「ニコ

デモ言う『人はや老いぬれば、いかで生るることを得んや、再び母の胎に入りて生るることを得んや』彼は、多くの人々と同じように、鋭い真理が良心を刺すとき、生れつきのままの人間は、神の霊的な事柄は受け入れないことを現わしました。彼らの中には、霊的な事柄に答えるものがあります。霊的なことは霊的にわきまえなければなりません。二コデモは主のことばを理解できませんでしたが、イエスは短気をおこしたり失望したりなさいませんでした。そして主は、真理のみことばをもっとわかりやすくしようとお思いました。イエスはおごそかな、静かな威厳をもって、神の真理を彼に納得させるような方法でみことばを繰り返して仰せになりました。「まことに誠になんじに告ぐ、人は水と霊とによりて生れずば、神の国に入ることあたわず。肉によりて生るる者は肉なり、霊によりて生るる者は霊なり」

生ける水の源として

真のクリスチャンは生ける泉であって、絶えざるめぐみの流れをいつも受けて、常に周囲の人びとをうるおします。神と共に働く人々は、伝道の問題を現わします。それというのも彼らは、他の人に与えることができるように、天の光と祝福をいつも受けているからです。心を開いて多く受け

る人は、多く与えることができます。

安息日学校で機械的な働きが多くなされているのに、教える者、教えられるものの魂に霊的な変化がほとんど現われてこないのは、なんと悲しいことでしょう。神の霊が人の心に働くとき、多くの人がまず神の国と神の義とを熱心に求めるのを見ることでしょう。そして地上の事柄は第二位におかれ、天のことは神の子らの愛の最上の対象となるでしょう。 (T S S・七二ページ)

み事業に最も必要なもの

安息日学校の働きに携わる者の宗教的経験は、どんなものでしょうか。教師や生徒の心にかがやく真理の光は、キリストを知らない人にそれをわけ与えることができます。救いの使命を、まだ天の賜物を受けようと心を開いていない人々に与えなければなりません。無関心に見える人々に真理を熱心に与えなければなりません。もしみんなが一つ一つの魂に重荷を感じずるならば、救霊のためになされるあらゆる働きに、どんなに熱心な興味を示すことでしょう。この魂のためにキリストは死んでくださったのです。わがまま、虚飾、娯楽に思いをよせることはなくなります。もしわたしたちが実生活費以外の金銭を全部、神のみ事業に投資することの重大さを自覚したら、娯楽

や楽しみのために費す金銭はどんなに少なくなるでしょう。

神のみたまがあなたの心にくだるように祈りなさい。そうすれば、あなたはキリストの軛をつけ、主の重荷を負い、イエスと全く一つとなるでしょう。わたしたちの考えはあまりにも狭すぎます。わたしたちは、み事業の必要に応ずることができるよう、もっと大きいまぼろしを持たなければなりません。

み事業のために最も必要なものは、自分の責任を感じて献身した青年男女です。そして、天使と協力して道徳的に暗黒な世界に光を与える人たちです。（TSS・五七ページ）

真理の効果

「ここにも少しく、かしこにも少しく」心に植えつけられた真理の原則は、やがて正しい行いとなってあらわれます。聖書には、男や女、青年や少年を、このたたかいの多い人生から天国まで導くために神がお与えになった、心をさぐるような金言が書かれています。キリストの祈りの中に、「真理にて彼らをきよめわかちたまえ、なんじのみことばは真理なり」（ヨハネ伝一七ノ一七）とあります。聖書研究によってどのように明るくされても、青年の性質が、自分の知っている真理を

実生活に移すようなものでなければ、高尚になり、向上しようとするどんな努力もむだです。両親には、安息日学校の教師と協力する重い責任が負わされています。

主が聖霊によってその心にふれたもうた人がいます。神のめぐみが働きかけるとすぐ、その心は謙遜になり、従順になります。かしらになろうとするあらそいはやみ、誇りは消えてしまいます。罪ある者のためにその生命をお与えになったキリストの愛を認識し、おのれを高めようとする気持は全くありません。悔い改めたものは、贖い主が謙遜なご一生をお送りになったことを認めて、そのみ足跡に歩きたいと願います。そして伝道の精神が心の中に目ざめ、その信仰に一致して、謙遜に思慮深く歩み、キリストに魂をみちびく働きにたずさわるまでじっとしていられません。彼はすべての人が尊い救い主の愛を知ることを望みます。（T S S・二五ページ）

すべての教師と生徒への質問

聖書を学び、人に無我の愛をあらわし、救い主のよろこびたもうことをすれば、我らの主の恵みと知識に成長します。教師や生徒はみな、「わたしが生きるためにおなくなりになった方のために何をすればよい奉仕ができるでしょうか」と自問してください。主は、「ゆきて失せたるものを見

いだすまでたずねなさい」とお答えになっています。忍耐と興味をもって、今と永遠のために決して失望をしない決心をもって、キリストの方法で働かなければなりません。またイエスが、彼の働きに献身した人の力を通して、偉大なことをなさるのであるということを信じなければなりません。この働きを完成させるために、与えられた力を最善に用いて神と共に働くこと以上の特権を望むことができないでしょうか。

青年男女がまじめな心を持ち、敬虔と献身を養うとき、他の人に光を輝かすようになり、教会の生きた力となります。聖書研究のために一定の時間をきめ、悔い改めた青年も、悔い改めない青年もともに集め、ともに祈り、おたがいの経験を話しあうことはよいことです。青年には自分の感ずるところを発表する機会がなければなりません。まず初めに、短い話で大いに勇気づけることができ、宗教経験に浅い初歩の青年をおりにふれて語るひと言、ふた言で助け力づけることのできる思慮深い指導者を選ぶことはよいことです。そして、すこし経験ができたなら、青年たちに交互に指導をさせることにより、神によるこばれる働き人を養成するようにしましょう。

(T S S・四八、

四九ページ)

約束された知恵と力

誠実で正直な働き人のすべてに、その人の働きに応じて報いが与えられることを示して、まじめに働くように奨励しましょう。そして神の栄光だけをみつめて働きましょう。自分の弱さ、足りなさを知っているからといって、責任を負うことを避けてはなりません。神に献身し、謙遜になるならば、神は知恵と力をお与えになることができます。だれ一人なまけて働きをこぼんだり、あるいは必要もないときに出不過ぎて奉仕を強いることがないようにしたいものです。

人のために働く義務

まことの働き人は、主のために働く機会を与えられた光栄を感謝しなければなりません。善をなす機会をうかがい、神から与えられた自分の才能をみがき、よき事に成功をおさめるように、毎日恵みを求めましょう。

これまでによいことをする機会をのがしてしまったら、へりくだった心で反省し、これから他人のため祝福となる機会をのがさないように注意しましょう。働きがきていたのに、働き人

がその地位についていなかったということが幾たびあったことでしよう。こころみの中にもがいていた魂を助け、力づけるために言わねばならなかったことばが語られませんでした。よく指導された個人的な働きがなされたら、魂を死から救い、多くの罪をおおうことができたのに、そうしようとする人がそこにいませんでした。怠った者は、神の日にその怠慢をただされます。最も尊いものは、すべての罪をきよめるキリストの血です。キリストのあがないの愛を感じるとき、わたしたちは、善をなすすべての機会をとらえることができるようになります。神の栄光のためにもちいるなら、このような機会は非常に尊いものです。この世のたからを求める人々は、望んでいるものを得る機会をつねに機敏に見守っています。キリストの働き人は、魂をかちえるため、もっと熱心にならなければなりません。もしキリストの模範にならって、自分の感化の及ぶ範囲にくる人々によいことをするならば、キリストの共労者となるのです。

安息日学校の教師また役員は、キリストのために神を愛しおそれる男女でなければなりません。また自分の地位の責任を自覚し、魂を見守り、自分の責任の下におかれた者に及ぼした感化に対していつか神に申し開きをしなければならぬことを自覚する男女でなければなりません。

神の約束に対する信仰

わたしたちは信仰を増さなければなりません。そうでなければ神の像に従って新しくされず、神のご要求を愛し、これに従うこともできません。いつわりのないくちびるより「主よ、わたしの信仰を増してください。神の光をお与えください。あなたの助けがなければわたしは何もすることができません」と祈らなければなりません。謙遜な心をもって、神のみ前にひざまずきなさい。そして神の約束がしるされている聖書を主の前に開いて、その基礎の上に立ち、神と契約を立て、神のご要求に応ずることを約束なさい。そして、ただ約束以外何の証拠がなくても信じますといいなさい。これは少しもせんえつなことではありません。しかしもしあなたが熱をもって働かず、熱心で確信をもっていなければ、サタンの勢力に負け、不信と暗黒におちいつてしまいます。

神のみことばと約束は、わたしたちの信仰のただ一つの土台です。神のみことばをまことなもの、生きて話しかける声としてうけ、忠実にすべての要求に応じなさい。約束された神は忠実なお方です。神は安息日学校の校長や教師たちと協力して働きたまいます。わたしたちに与えられる祝福はみずからの信仰の弱さのために限られています。神はよろこんでお与えになります。主は力の源で

す。わたしたちは、へりくだって、心をきよく保たねばなりません。他人によいことをするために無我な心で努力するとき、神の愛とあわれみの証拠を毎日豊かに与えられます。わたしは、安息日学校の働き人が神の全き武具をまとい、イエス・キリストの忠実な兵卒として彼らの忠誠を示すように願うものです。神は、神の栄光のためになされたすべての働きにお報いになります。（T S

S・二六―二九ページ）

集会をもつと霊的なものに

神のみおねを行うには、神のみことばを調べ、神の教理をよく知り、まかされたすべての才能を働かせなければなりません。勤勉に祈り、単純に、まごころをこめて、熱心に、神のために働かなければなりません。安息日学校の教師の役にたずさわる人は、飢えかわくごとく神の真理を求めなければなりません。それは、自分が責任を持っている者にこの霊をわかつことができ、自分の生徒に真理をかくれた宝として探るよう導くことができるようになるためです。生徒を偽善者にするような安息日学校にたくありません。というのは、そのような人は真の宗教の働きを推し進めることができないからです。ですから、希望している機械的な準備より、神のみたまが学校に与えら

れるように、神を求めることに、もっとみんなの注意をひきたいものです。たとえ何であっても、みせかけは安息日学校にふさわしくありません。もし神のみたまが教師や生徒の心をやわらげ、形づくらなければ、安息日学校の機械的な運営は何の価値もありません。（T S S・七六ページ）

各個人を研究せよ

「すべての真の教え方においては、個人的な要素がたいせつである。キリストは、人々に教えるときには、彼らを個人的に扱いたもつた。キリストは個人的な接触と交際によって、十二弟子を教育なさつた。キリストは最も尊い教えを個人的にお与えになつたが、聞く者がたった一人しかない場合もよくあつた。オリブ山における夜の会合で、世人から尊敬されているラビに向かつて、あるいはサマリヤの井戸のほとりで、世人から卑しめられている女に向かつて、キリストは最も尊い宝をお示しになつた。キリストは、この人たちの心と思いと精神がご自分の教えに向かつて開かれ、感動し、受け入れることをお認めになつた。幾度となくキリストのもとに押しよせた群集さえも、キリストにとっては、無分別な人間どもの集りではなかつた。キリストは一人びとりに直接に語り、一人びとりの心に訴えられた。主は聴衆の顔をみつめ、真理が魂にふれた証拠としてその顔色が明

るくなり、感応の気配がちらつかすめるのをごらんになった。するとキリストのみ心はその喜びの共鳴にうちふるえるのであった。……

今日、教育の働きにおいては、これと同じ個人的な関心、各個人の発展について同じ注意が必要である。表面は有望に見えない少年少女の中には、豊かな天分を与えられていながらそれを用いていない者が少なくない。教育者のがわの認識が足りないために、彼らの才能は隠されたままになっているのである。表面はあられずりの石のような見ばえのしない少年や少女の中に、熱やあらしや圧力のどんな試練にも耐える貴重な素質が見いだされることがある。真の教育者は、自分の生徒がどんな者になるかということを念頭において、自分が働きかけている素材である生徒の価値を認めなければならぬ。彼は一人ひとりの生徒に個人的な関心を持ち、そのすべての能力を発達させることにつとめなければならない。正しい原則に一致するためにはどんなに不完全でもあらゆる努力を払うように奨励しなければならない」(ED・二九〇―二九一ページ)

組の生徒に対する個人的働き

わたしたちの教師は悔い改めた男女であり、神に熱心に訴えることがどんなことであるかを知り、

子供たちの心が変わって神を愛し、神をほめたたえ、これに栄えを帰するようになるまで熱心に働き続ける人でなければなりません。安息日学校の魂のために熱心に働く者はだれでしょうか。青年に一人びとり接して、ともどもに語り、ともに祈り、個人的に彼らに訴え、彼らがキリストのよいかおりとなるためにイエスに心を服従させるようにすすめてくれるのはだれでしょうか。この働きの重要さを知り、しかもその重要さがほとんど理解されていないことを知るとき魂の中でうめきたいような気持ちになり、いったい、だれがこの重大な責任をひきうけ、必ず申し開きをせねばならぬものとして魂を守るでしょうかと叫びたくなります。わたしたちは地上でのキリストの代表者です。わたしたちは自分の使命をどのように果しているでしょうか。キリストの代表者は、毎日キリストと交わります。ことばを選び、話が恵みで味つけられ、心が愛でみたまわれ、キリストが死にたもうた魂を救うために、まじめな、熱心な、忍耐ある努力を惜しまない人です。愛する子供や青年の救いのために最善をつくして働きたいものです。そうすれば、やがてイエスが「よいかな、善かつ忠なるしもべ、なんじはわずかなる物に忠なりき……なんじの主人のよろこびに入れ」と仰せになることばをよろこんで聞くことができます。このよろこびとは何でしょうか。それは、人間という器とイエス・キリストの血によってあがなわれた聖徒を見ることです。（TSS・一五ページ）

家庭訪問

神と生きた関係をもち、神のみに熱心に祈らなければ、天よりの知恵をもって働き、キリストに魂を勝ち得ることはできないということを、わたしは、安息日学校の各部の教師や働き人に、神をおそれる思いをもって申しあげたいのです。神のための働き人は、謙遜を衣としてまとうていなければなりません。謙遜で素直な精神をもち、真理と正義をうやまい、これを愛している働き人はどこにいても主に認められて祝福されます。もしあなたがこのような人であれば、生徒の救いのため特別に努力して彼らに対する心づかいを示すでしょう。愛にあふれた同情をもって彼らに近づき彼らの家庭を訪問し、神のことに關して彼らがした経験について語り合つて、彼らの眞の状態を知り、信仰の腕で彼らをいだいて、父のみくらにまでつれゆかねばなりません。（T S S・六八、六九ページ）

こひつじを養え

救い主はペテロに命じて「わがこひつじを養え」と仰せになり、後にまた、「わがこひつじを養

え」とご命令になりました。「わがこひつじを養え」と、使徒に向かって語られたキリストのおこ
 とばは、すべてのしもべに向かって言われたおことばです。イエスは、幼い者をあなどってはな
 ないと、弟子をおいしめになったとき、各時代のすべての弟子たちにご命令になったのです。子
 供たちに対するキリストご自身の愛と思いは、彼に従う者のよき模範です。もし安息日学校の
 教師がこれらのこひつじに当然感じるだけの愛を感じたら、もっと多くの子供たちがキリストの群
 れに加えられるでしょう。適当な機会があるごとに、イエスの愛の物語を子供たちにくり返して聞
 かせましょう。どの説教の一部にも、子供たちのためのお話をいれましょう。キリストのしもべは
 これらの子供たちの中に、いつまでも変らない友だちを持つでしょう。そして教師のことばは「銀
 のほりものに金のりんごをはめたるごと」くなるでしょう。（T S S・一一三ページ）

子供たちをなおざりにしてはならない

青年の教育や訓練のために幾分何かされてはいますが、まだ足りないところがあります。もっと
 多くの青年を元気づけ、助けなければなりません。個人的な働きが必要な所でそれがなされてい
 ない所があります。青年の救いというこの重要な働きをなおざりにしているのは牧師だけではありま

せん。教会員も彼らの無関心や義務の怠慢を主のみ前に申し開きをしなければなりません。

子供たちをなおざりにしては神のみさかえにはなりません。彼らを教育し、矯正し、忍耐をもつて教えなければなりません。彼らにときおり注意をしたり、奨励のことばを与えなければなりません。彼らのためにほねおつて、祈りつつ注意深く働いてやらなければなりません。愛と同情に満ちた心は、不注意な、望みもないように見える青年たちの心にふれるのです。（T S S・一

四、一一五ページ）

小さい群れをみちびいて

安息日学校の校長や教師は、しばしば祈らなければなりません。おりにかなって語ったことばは、子供たちの心によき種となつて、その小さい足を正しい道にみちびくかもしれません。けれども、間違つたことばは、彼らの足を滅びに導くことがあります。（T S S・一一二ページ）

おさなごを集めなさい

片言まじりで話すおさなごや少年少女や老人を集めて、地上のすばらしい頭を持っている賢い人

が理解できない神秘を解かせてごらんなさい。神のみことばの尊い真理は、天よりの教師の足もとで、心をひくくして学ぼうとする人のために与えられたものです。イエスはこの事実をおよこびになつて、「天地の主なる父よ、われ感謝す、これらのことを、賢き者さとき者にかくして、みどりごにあらわしたまえり。父よ、しかり、かくのごときはみこころにかなえるなり」（マタイ伝一ノ二五）と仰せになりました。

狭い考えから自分の働きをやめたり、拘束してはなりません。「畑は世界なり」です。真理の教理は、神のみことばのどのページにもわかりやすく現われています。しかし敵は、自己満足している人の心をめくらにする力を持っています。そのため、非常にわかりやすい単純なことも理解することができないのです。子供たちに真理を教えるようにしましょう。そして神のみことばの啓示をよらいとして彼らに着せましょう。真理について聖書に書かれてある事柄を話すことができるようにさせましょう。講壇の牧師が、天の祭壇の火できよめられたくちびるで生命のみことばを語ることができれば、この世の知恵にはたけていても天上よりの知恵を理解できない人の心をも燃やします。「真理とは何か」という質問が、深い興味をもって尋ねられなければなりません。わたしたちは神のご命令に応じて、光よりさらに大きい光へと進まなければなりません。キリストの兵卒は

不注意に、活動もしないでじっと立っているようなことはないはずです。つねに向上しなければなりません。神の摂理はわたしたちを一步一步と従順な道に導いています。両親や教師は、子供たちが愛と尊敬をもって神に服従しているか否かを見るために、この世の生涯で主が彼らをためしておいでになることを彼らの心にはっきり印象づけなければなりません。この世でキリストに服従しない者は、永遠のみ国でもキリストに従いません。主は彼らを、イエスが彼らを愛する者のためにそなえておいでになる天の邸宅にふさわしいものとしようとしておいでになるのです。（T S S・三一、三二ページ）

子供の宗教経験

宗教を持つときに、子供たちはもっとよく勉強し、忠実に仕事をします。十二才の少女が、自分がクリスチャンであることを単純なことばで、つぎのように語っています。「わたしは勉強がきらいで遊ぶことばかりが好きでした。わたしは学校でなまけもので時々クラスに出ませんでした。けれども今は、神さまをよろこばせるために、どの学課もいっしょけんめい勉強します。わたしは学校でいたらずらで、先生がわたしを見ていないと、仲間のものにおもしろいことをして見せたもの

でした。けれども今は、神さまをよろこばせたいと思って行儀よく学校の規則を守ります。わたしは家ではわがままでお使いに行くのがきらいでした。そして遊んでいる時、おかあさんがお手伝いに呼ぶといやな顔をしました。けれども今は、心からよろこんで何でもしておかあさんのお手伝いをしたいと思います。そしておかあさんを愛していることを表わしたいのです」

子供たちが十分大きくなって、悔い改めて真理を信ずるようになる時を何か未来のできごとのように、子供たちに教えてはなりません。適当に教えみちびけば、小さい子供たちでも罪びとであることを正しくわきまえることができ、キリストによつての救いの道を知ることができます。（T

SS・一一二ページ）

敏感な子供の心

安息日学校の教師は、神の前に注意深く、祈りながら歩まなければなりません。そして、いつか申し開きをしなければならぬ人のように働かなければなりません。キリストのために魂を勝ち得るよい機会が与えられているのです。若い人が悔い改めないでいればいるだけ、神の霊に対する抵抗が強くなります。年をとればそれだけ、天上の事に対して敏感でなくなり、宗教の感化に動かさ

れなくあります。毎日サタンは、不従順の習慣のままに、また悔い改めない心のままにしておこうと働いています。こうしてクリスチャンになる可能性がうすれていきます。無関心な教師は最後にどんな決算書を提出しなければならないでしょうか。どうして道德的おくびようが教師の心をめしににして、青年や子供たちの尊い魂の悔い改めのために払う適当な努力をいとわせるのでしょうか。どうして道德的暗黒を追いやり、天の光を他の人にもたらす聖霊によい環境を心の周囲につくってもらわないのでしょうか。（TSS・四四、四五ページ）

キリストのようなやさしさの力

主イエス・キリストは、ご自分の肉体の苦しみをもってあがないたもうた人々に、限らない愛をお持ちになり、彼らが悪魔や悪天使とともに滅びることなく、選ばれたものとして主張できるようなお望みになります。主は彼らを愛する権利を主張し、彼らを彼自身のものであると主張し、ことばでは表わされない愛情をもつて彼らをごらんになります。そして、主ご自身の義のよいかおりを、主を愛したもう者、すなわち彼を信ずる者にお与えになります。羊の群れに、忠実な羊飼いのやさしい指導に自己をまかせることの特権をさとらせ、これに感謝するように導くには、技巧と知恵と

人間的愛と、尊い羊の群れに対する清められた愛情が必要です。神の子らは、イエス・キリストのやさしさを実行します。

教師は、生命から生命へのかおり、かぐわしいかおりとして心の宮に住むキリストの愛によって、子供たちを自分の心に結びつけることができます。また教師は、キリストが与えたもうためぐみによって、神の共労者、すなわち生きた人間という器として光を与え、向上させ、力づけ、道德的けがれから魂をきよめる助けとなれます。そして神のかたち、子供の心にあらわれ、キリストの恵みによって性質が変えられるのです。（T S S・八七ページ）

クリスチャンの働き人をつのる所

クリスチャンの教師や生徒は、彼らが受けている恵み深い特権について、神に責任があります。すなわち彼らは、神と協力して働き、天と地の前に神の救いの恵みの力をはっきりとあかししなければなりません。神のために働く人の能率や感化力は、その人の道德的向上と純潔に正比例します。真のクリスチャンの教師は、安息日学校の教課の重要なことを認めます。そして福音を理解するために彼らの理解力が開かれます。彼らは、真理の尊い光に興味を持っていない人々にその光

を輝かします。みことばから輝く光を受けるには、心の戸を開かなければなりません。神のみことばを受けた生徒は、仲間の生徒の祝福となります。彼が、神のことに興味のない人々といっしょに忍耐強く、親切に、興味深く教課を研究し、その教えを単純にはっきりさせるなら、他の人々への祝福となります。最も助けを要している人々に働き人がよい方法で近づき、彼らをキリストに導きその魂の望みを満足させることができるには、天よりの知恵を要します。

またその青年が悔い改めたら、何もしないでほっておいてはなりません。主のぶどう園で何か仕事を与えなさい。彼の能力に応じて彼を使ってやりなさい。主はすべての人に何か仕事を与えておいてになります。各方面で主と協力し、あらゆる方法を用いて安息日学校に関係している力を有用なものに成長させるようにしなければなりません。この世の人々はこの世の二人の指導者の旗の下にあつまるのです。生命の君キリストと、暗黒の君サタンは、それぞれ自分の方に仕えなさいと青年男女に求めています。クリスチャンの教師や生徒の働きは、キリストの兵卒がつねに増すようにし、インマヌエルの君の血染めの旗の下に、すべての人を招かねばなりません。（TSS・五〇、

五ページ）

安息日学校は伝道者養成の要素である

伝道地においては、たとえ説教するタレントがどんなにあっても、実際の働きの面をなおざりにしたり、人々にどのような働いたらよいか、どのように集会を開き、どのように伝道に自分のなすべき分をなすか、また、どのようにして効果的に人に近づくかを教えなかったら、働きはほとんど失敗といってよいのです。また人々に自分の責任を自覚して自分の分を果させるために、安息日学校ではまだまだ多くのことがなされなければなりません。神は、神のために働くように彼らをお召しになります。そして牧師は、彼らの努力を指導しなければなりません。（五丁・二五六ページ）

聖書研究のための訓練

戸ごとに聖書を開いて聖書研究をさずける大きな働きによって、安息日学校はいつそう重要なものとなります。そして安息日学校の教師が、聖書を理解し、真理のことばを正しくわかつことができる献身した男女でなければならないことは明らかです。聖書研究をさずけることは神の定めともうた考えです。そして多くの青年男女を大切な働きをするために伝道地に送り出す道が開かれるの

です。これは他の方法ではすることができません。

聖書のくさはりははずされましたから、戸ごとに運んで、すべての人の良心に示すことができます。まじめなベレア人のように、毎日自分で聖書をさぐり、真理が示されると、これが真理であるかどうかを知ろうとする人がたくさんいます。キリストも、「なんじらは聖書に永遠の生命ありと思いつてこれをしらぶ、されどこの聖書は我につきてあかしするものなり」と仰せになりました。すなわち世の救い主イエスは、聖書を読むだけでなく、「これをしらべよ」とお命じになりました。これは重大な働きで、わたしたちにまかされています。わたしたちはこれをなせば非常な益を得るのです。キリストのご命令に従うなら必ず報いがあります。みことばにあらわれた光に従って忠実に歩むならば、神は特別な恵みのしるしをお与えになります。（TSS・二九、三〇ページ）

他の教会のクリスチャンに対する心づかい

安息日学校の教課を無味乾燥な、霊的でないものにしてはいけません。人々の心に、ただ聖書だけがわたしたちの信仰の規準であって、人の言った事や行いは、わたしたちの信仰や行いの基準でないことを印象づけるようになさい。子供に教えなければならぬ一つの大きな教訓は、わがまま

と強情がすこしでもあつてはならないということです。キリストは罪びとを救うために死にたもうたこと、また、わたしたちと同じ信仰を持っていない人々も神の目には尊い魂であるから、その人のためには特にやさしく忍耐をもつて働かなければならないことを子供に教えなければなりません。どんな人も軽蔑してはなりません。パリサイ主義やおのれを義とするようなことがあってはなりません。

わたしたちが接触する人々の中には、わたしたちと同じ信仰でなくても、真のクリスチャンがたくさんいます。この人たちは、自分が持っている光に忠実に生活しています。彼らは、より多くの光を持ちながら、それにふさわしい行為をしめして、光を利用しない人よりも神によるこばれています。

寛容の精神

ある時、弟子たちがキリストの名において働きをしている人を見つけました。ヨハネはこのことをイエスにつげて、「我らに従わぬゆえに、これをとどめたり」と言いました。しかしイエスは、彼の精神をいまして「我らにさからわぬ者は、我らにつく者なり」と弟子にお話になりました。

道・真理・生命は、イエスを信じ、これにならう者のことばや精神や行動にはつきり現われます。

両親や教師は、真理を信じていない人に、非常にやさしい興味と同情を示さなければなりません。

ことばによっても、行動においても、キリストが血であがなってくださった魂を決して傷つけてはなりません。もし年長者が冷たい、あらあらしい、同情のない精神を表わすなら、子供たちは同じようにします。そして彼らの性格は、神の像に従って形づくられることはできません。神は、子供や青年たちが伝道者になることを求めておられること、また彼らが利己主義であつたり、狭いかたよった考えを持たず、広い考えと同情を持っていなければならぬことを感じるように教育しなければなりません。もしすべての働きが愛をもってなされ、クリスチャンの礼儀をあらわしているならば、彼らは魂を勝ち得る者となり、尊い収穫を主にもたらしめます。

なお高い標準を目ざして

ただ一つ確かなことは、セブンスデー・アドベンチストの安息日学校にも、教会の働きにも、愛の精神が非常に欠けているということです。働き人も生徒も標準がたいへん低いのです。すべての人が大きくされ、より高く清い抱負を持ち、清いふんいきを吸わなければなりません。若い青年男

女は、安息日学校や大学から出てきて、神のために宣伝者とならなければなりません。彼らは最上の教えと宗教訓練を必要とします。また彼らは知識に神よりの徳を加えなければなりません。それは困難な責任ある地位を占める資格を与えます。肉体的力の発達と同じく、知的、霊的発達も目に見えて成長しなければなりません。若い者に、霊的だけでなく知的にも強く力ある者となるべきことを感じさせなければなりません。多くの者がこの力を得ていません。それは、その能力がないためではなく、確固たる忠実な努力が足りないからです。彼らは機会を最善に用いて、疲れ、また重荷を負っている人の責任を負い、または、わかつことができるように、世話人となり、重荷を負う者とならなければなりません。伝道の働きで一番たいせつなのは、働き人を養成し、すべての人に福音を伝えるために彼らを伝道地に送ることです。

(T S S・三二―三四ページ)

第四部 教師 と そ の 働 き

第四部 目 次

すべての科学の最高のもの・	99
教師の選択・	100
必要な資格・	102
均等な心と均斉のとれた性格・	103
衣服とふるまい・	104
真の宗教の代表者・	106
みずからかえりみること・	107
教師の感化・	111
不従順な者への忍耐・	112
人に対する寛容・	114
自己向上・	115
能力を増すための準備・	116
わたしたちの型は人間でなくキリストである・	118
せまる愛の力・	119
単純と同情・	121
清新な主題を提示すること・	123
表情はその性質をあらわす・	126
教課を実際的にすること・	128
教課補助の使用について・	129
あやまりを指摘する・	130
霊的怠惰・	131
クラスでの論争・	132
教課を読む・	133
ただ表面だけを・	133
長い退屈な話・	134
神と共に働くことはどんなことであるか・	135
自己を示そうとする誘惑・	137
心の全部を打ち込んだ奉仕の働き・	138
救霊は最高の関心・	138
キリストを高くかかげる・	140
クラス全部を悔い改めさせる・	141
最高のよろこび・	143

第四部 教師とその働き

すべての科学の最高のもの

あらゆる伝道の働きにおいて、イエス・キリストと、その十字架にかけられたもうたことを教えることは、限りある人間の心で理解できるよりはるかに以上のことを意味しています。「彼は我らの**とが**のために傷つけられ我らの不義のために碎かれ、みずからこらしめを受けて我らに平安をあたう。その打たれしきずによりて我らはいやされたり」「神は罪を知りたまわざりし者を我らの代りに罪となしたまえり、これ我らが彼にありて神の義となるを得んためなり」これがわたしたちの働き人の主題となるものです。だれでも、もし自分は安息日学校または普通の学校で教育という科学を教えることができると思う人は、まず最初に神をおそれることを学ばなければなりません。これこそ知恵のはじめであって、そのとき彼は科学中の最高に位するこの科学を教えることができる

ようになります。(F E・二七二ページ)

教師の選択

青年や子供たちに与える教訓は、ただ表面のものであってはなりません。教師は真理を擁護して立つものとして、標準を高くかけなければなりません。働き人として宗教経験に大きい欠陥を持つ青年男女を用いることほど、安息日学校に害を及ぼすことはありません。……安息日学校の標準をさげではありません。教師としてその人の模範や感化がわざわいになるよりむしろ祝福となる人の子供たちに与えねばなりません。子供たちに、常にクリスチャン生活の特長である徳、純潔、神聖ということ強く教えなければなりません。この点について、彼らの考えを混乱させてはなりません。この事に関してだれも無知、無分別に行動しないようにしましょう。過去の生活が良心や誠実に欠けていることを示し、道徳的価値がないような男女を口や筆で奨励してはなりません。彼らは頭がよく、機知にだけ、賢いかもしれませんが、もし彼らの心が神の霊に満たされていないで、正直な性質を持っていないなら、彼らの感化力は、この世的であって、天に向かっていないので、どこにいて、何をしても害を及ぼすのです。

わたしたちは罪に敏感で罪惡を憎む男女、神の働きの必要を見分ける靈の眼をもち、献身して無
我の精神をもって働き、イエスのかげに全くおのれをかくして働く人を大いに必要としています。

また実際に敬虔な生活を送り、するどい良心をもって、危険を感じることができる、神の喜びたも
う青年男女を必要としています。また、おのれを高めず、自分の魂の欠けたところを敬虔の衣の下
にかくそうとせず、自分の弱さ、また自分の品性の不完全なことを感じて、イエス・キリストによ
りすぎる人を必要としています。自信を持って自分のやり方には非難される余地がないと思う人は、
非常に不完全な働きを示します。使徒は、「我よわき時につよければなり」と言いました。自分の
弱さを感じながらも、彼は信仰によって、イエス・キリストとその恵みにすぎらうとするのです。

...

キリストの、人を変える恵みによって、死より生に移った安息日学校の働き人は、自分の心に神
の靈が深く働いていることをあらわします。自分の生活は楽しみを愛し、誇りと虚榮を愛していな
がら、人を指導しようとする人、きよい道へ魂をみちびこうと見せかける人は、不忠実なしもべで
す。彼らの生活はその告白と一致していません。神は彼らの感化を喜びたまいません。彼らには徹
底的な悔い改めが必要です。彼らの心は、つまらないもので一杯になっているので、高尚な真理が

入る余地がありません。心の宮が洗練され、きよめられ洗われなければなりません。というのは、神でなくサタンが心の中に住んでいるからです。

責任のある立場に男女を置くことには、よほど注意が必要です。その人の過去の生活、または人となりがある程度知っていなければなりません。わたしどもが公言する真理のきよい性質と一致しない感化を与える教師を増すより、神をおそれる働き人の下にクラスの人数を倍にした方がよい。というのは、彼らは人を墮落させる感化を及ぼすからです。（T S S・二二―二六ページ）

必要な資格

教師を選ぶ義務を持った人は、よく注意をし、よい感化を与えない人に教師になるようにすすめてはなりません。教師の行状はどうであるか、時間を励行しているか、清潔で清楚であるか、これは十分に注意されなければなりません。というのは、これらの性質は教師にはなくてはならないものだからです。もし教師みずからが時間励行、清楚、落ちつき、秩序の模範でなかったら、どうしてこれらの必要なことを行うように命ずることができでしょうか。もし教師が時間がきても、そこにいないで、クラスを勝手に放り出しておいて、息せききって時間におくれてかけつけるならば、

人々を無秩序にみちびく感化を与えます。（T S S・九五、九六ページ）

均等な心と均斉のとれた性格

均等な心と均斉のとれた性格は、各方面の教師に必要です。人の心をどう処理してよいかかわらない青年男女の手に、この仕事を与えてはなりません。彼らは自分の心と性格を支配する恵みの力をほとんど感じていないので、まず無心になって、クリスチャン経験における全く新しいレッスンを学ばなければなりません。彼らの心も性格も、また、彼らの考えさえも、イエス・キリストの訓練をうけ、イエス・キリストのとりことなることを学んだことがありません。

子供や青年たちの中には、いろいろな性格があります。その中の多くは、家庭で適当な訓練を受けていません。かわいそうなほどなおざりにされてきました。ある人は好きなようにさせてあり、ある人はしかられて失望しています。彼らは気持のよい快活な気分を示してもらったこともなく、ほめてもらったこともありません。両親の足りない性格が遺伝して、また、その足りない性格によって与えられた訓練が、人格を作るのに妨げとなっています。品性建設にしっかりした材料が使われていません。

これらの青少年の教育ほど大切な働きはありません。主のぶどう園のこの分野で働く教師は、神の聖霊に服従することによって自分の気分や感情を支配し、落ち着きを保つことをまず学ばなければなりません。彼らは片よった経験の持ち主でなく、均等な心と均斉のとれた性格を持っている証拠を示さなければなりません。それは彼らが良心的なクリスチャンとして、彼ら自身大教師の下にあつて信頼されるためです。（F E・二六六、二六七ページ）

衣服とふるまい

安息日学校の教師は、みなキリストに従うものでなければなりません。キリストの弟子に属する者であることを立証せず、クリスチャンであることを言行一致で示さない人は、安息日学校の教師として招いてはなりません。まず、だれかが彼らに、神を愛しこれをおそれる土台となる原則から教えなければなりません。キリストは「なんじら我を離るれば何事をもなしあたわず」と仰せになりました。個人的にキリストの力を経験しない者の教えには、何の価値があるでしょう。このような人に安息日学校の組を持たせるのは非常に矛盾したことです。しかし自分が仕えている救い主を否定するような衣服を着けたり、そのようなふるまいをする先生にクラスを持たせるのは、もっと

悪いことです。

安息日学校で教える人は、みことばをただ聞くばかりでなく、行って神の真理によってその心があためられ、生き生きした人でなければなりません。彼らは枝が幹につらなって養われるように、キリストにあつて養われなければなりません。天よりの恵みの露がかかり、彼らの心は尊い木のようになり、つぼみが開いて、神の園の花としてよいかおりをただよわせなければなりません。教師は神のみことばを忠実に勉強しなければなりません。そしてキリストの学校で毎日の教課を学んでいることを表わし、世の光でいましたもう偉大な教師キリストから受けた光を他の人に取り次ぐことができません。

教師は自分の責任を感じ、向上するすべての機会をとらえ、魂の救いのためよい結果をもたらすような最上の奉仕をすることができるようになければなりません。教師も生徒も、共に神のみことばを熱心に忍耐をもって学ぶことの重要性に目ざめなければなりません。彼らは神とよく交わらなければなりません。そうすれば、つまらない誘惑に支配されることもなく、怠惰や冷淡を巧みに防ぐことができます。クリスチャンの働き人と公言する人に、怠慢、放縦は許されません。（T

SS・五四、五五ページ）

真の宗教の代表者

真に悔い改めた安息日学校の働き人は、世の習慣行事のまねをしないで、道徳的に独立しています。彼は自分が公言するところに一致した模範を示し、世から出てきて、世の精神や流行から離れた地位を保ちつづけます。彼は、キリストと一つになろうとする確固とした目的から少しも動かず、誇や利己的な楽しみにふけらず、本能や虚栄心を満足させることをしないで、忠実に神に忠誠を尽し、その精神においても、ふるまいや衣服においても模範となります。

安息日学校の役員方よ、あなた方はキリストの標準または世の標準のどちらに到達しようとしておられますか。あなた方は「わたしは十字架をとってイエスに従いましょう」と言われますか。人を説得するのにイエスのやさしさを養い、勧告するのにイエスの熱心さを養うようにして真理の崇高な原則の実例となり、生活にも性格にも、キリストの宗教がどんなことをあなた方のためになしたかを現わしてください。「ただなんじら主イエス・キリストを着よ。肉の欲のために備えすな」という使徒のすすめに耳をかたむけるべきではないでしょうか。

青年に純粋な宗教をみせる必要があります。そのような宗教は、生きた力で、すべてにゆきわた

る感化をもっています。真心からの献身からは、よろこびと清新さとたえざる成長がわき出ます。青年たちをキリストにひきつけようとするなら、これこそ彼らのながめるべき宗教です。このような宗教は、他の魂に聖なる印象をのこし、それを持っている人は、心もからだも、神の清新にする恵みによってあらたにされます。

安息日学校や他の学校の先生方よ、一年間これをこころみてごらん下さい。そして「主はわがために驚くべきことをなしたもうた。多くの魂は天の倉のよき収穫として主のもとに導かれた」といえるかどうかためしてください。（T S S・四五、四六ページ）

みずからかえりみることに

主は、安息日学校の教師がみずから神の愛の中にいるかどうかを省みるようにお望みになります。神のために働く人はみな、その性格をさぐる試練やこころみを受けるものです。教師は常に学び、もっと徹底的な理解と神のことについての正しい判断を持つように努力しなければなりません。教師は自信を持ちすぎて、自分の欠陥を自覚しないようになり、考えが狭くなって、ひろくなることものびる余地もなくなり、自尊心が強くなる危険があります。そして彼らはしだいに能力を増すの

でなく、自負心を増すばかりです。彼らは自分たちの心に、また経験に、イエスを取り入れません。教師は自分の能力を養成し、話し方をみがいて、はっきりした発音でわかりやすく話さなければなりません。知的な力が養成されなければなりません。その力は、わたしどもの信仰の教理を説明することもできないほど弱く、思考力は混乱したままであってはなりません。もしその教師がまじめで敬虔の念厚く、純潔な人でおのれを否定し、よろこんで不便なことも耐える人でなかったら、この重大で大切な働きにたずさわることはできません。自分の力、自分の精神をためすのは、教師の義務です。そしてよくしらべて、神の前に偽りのない自分の立場を知らなければなりません。…

教師の模範

教師の責任を引き受けた人で、もし十分に資格がなくとも自分の地位の責任を感じずる人ならば、最善の努力を払って学びます。敬虔、快活、確固とした心を養います。教師の態度は、自分の組が神に対して厳粛で、敬虔な心を持つように教育される性質のものでなければなりません。神についてキリストについてまたその苦難とよみがえりについて実際の事実として語るとき、その思想をわかりやすく示すと同時に、語ることは彼らの心を地上のものからひき上げ、あたかも限らないお

方の前にいるように感じさせるものでなければなりません。

安息日学校はクラスのために上すべりの話をし、天より高く、世界より広い永遠の厳粛な真理を、べらべらとかるがるしい気持ちで話すところではありません。クラスの行動は、生徒たちの模範となる教師の性質を現わすものです。もし彼らが無作法でその態度を改めず、敬虔な態度がなかったら、そこにはその原因があります。そしてそれは徹底的にしらべなければなりません。

敬虔で、しかも快活であること

教師は敬虔でありながら、しかも一面快活でありうるのです。そして軽率な態度をとることなく、神の深いことを探求する者でなければなりません。気どっては自然でありません。クラスの人たちが、宗教は現実であること、またたいへん望ましいものであるという印象を受けるようにしたいものです。というのは、宗教は平和と安心と幸福とをもたらすものであるからです。クラスの人たちが、宗教は冷い、同情のないものであるという印象を受けないようにしなければなりません。内に臨在したもうキリストの平和と栄光が顔から輝いて、主の愛を語り、くちびるが感謝と賛美を語るようにしたいものです。

神と交わる習慣のある人は、神の光が顔に反映するようになります。子供は、雲がかかって悲しみで薄暗いのをきらいます。彼らの心は、明るさ、快活さ、愛情にすぐ答えます。教師は堅い、きっぱりした人でなければなりません。きびしすぎたり、強要的だったり、独断的だったりしてはなりません。教師には威厳のある権威が必要で、それがなければ成功する教師の資格がありません。子供たちは教師の弱点や性格の欠点をすぐ見つけるもので、教師のふるまいは印象を残します。もし子供たちがあなたの性格の中に模範を見なければ、あなたが話すことばは、子供たちに正しい型を与えることはできません。毎日の生活にあらわされた正しいクリスチャンの性格は、クラスの人々の性格をきずきあげるために、あなたが教える全部の教え、また、しばしばくり返す教えよりはるかに力あるものです。神は、個人個人を人類という大きなつながりと関連させたまいましたので、人はその接触する相手から態度やふるまいや習慣などが知らず知らずのうちにうつるものです。主のあがないたもうた者が、たとえそのいと小さき者でも、歩くために作られた道からのけられるようなことがないように祈るものです。教師が実際の経験をもち、イエスのご性質と愛がその人の中に現わされるように願うものです。

安息日学校はただ子供たちをよろこばせ、おもしろがらせ、楽しませるだけの場所ではありません

んが、正しく行われるなら、おもしろい楽しいところにすることができます。とにかく安息日学校は子供や青年たちを教育する場所で、聖書を開いて「いましめにいましめをくわえ、のりにのりをくわえ、ここにもすこしく、かしこにもすこしく」というようにわかるように教える場所です。また真理の光をわかち与える所です。安息日学校の教師の全部が教師の資格を備えているとは限りません。すべての教師に、もういつそう学ばなければならぬと感じていただきたいものです。そして、もっと多くのことを知り、自分が扱う生徒をもっとよく知り、知識を与える最上の方法をもっとよく知らなければならぬこと、そして自分が最善をつくして学んでも、まだまだ足りないことを感じていただきたいのです。（T S S・九五―九八ページ）

教師の感化

他人に及ぼす感化は、わたしたち自身の性格と経験によって決定されます。他人にキリストの恵みの力を信じさせようと思うならば、わたしたち自身の中に、生活の中にそれを知っていなければなりません。魂の救いのために教える福音は、わたしたち自身の魂を救った福音でなければなりません。個人の救い主としてキリストのうちに持っている生ける信仰のみが、この懐疑的な世界

にわたしたちの感化を及ぼさせることができます。もし罪びとを早瀬から救い出そうとするならば、わたしたちの足がキリスト・イエスの岩の上にしっかりと立っていないければなりません。

キリスト教のしるしは、外にはめている徽章や、十字架や、冠をかぶることではなく、人と神の一致を表わしていることです。性格を変えるために表わされた神の恵みの力によって、世は、神がその独り子をあがない主としてつかわされたことを確信させられなければなりません。人間の魂をとりかこむ感化のうち、無私の生活ほど大きい力を持ったものはありません。福音のために、愛にあふれた愛すべきクリスチャンほど有力な議論はありません。(T S S・一一五、一一六ページ)

不従順な者への忍耐

わたしたちは人の心を読むことができないことを忘れないでください。まちがったように見える行為の動機が何であつたかわからないのです。また、正しい教育を受けていない人が多くいます。彼らの性格は曲げられ、かたくてふしだらだけで、何から何まで曲っているように思えます。しかしキリストの恵みはこれを変えることができます。ですから、決して彼らを捨ててはなりません。さらに、「あなたはわたしを失望させてしまいました。もうこれ以上何もできません」といって、彼

らを失望させたり絶望させたりしてはなりません。当然言ってもよいと思って、とつさの場合に怒って言ったひと言が、彼らとわたしたちを結びつけている感化の糸を切ってしまうことがあります。矛盾のない生活、辛抱強い忍耐、怒りによって動かない精神は、常にもっとも決定的な議論であり、厳粛な訴えです。機会と有利な立場がまだあなたのものであるなら、このことをよく考えて、いつも賢い、注意深いやさしい教師であってください。

蟬にはつきりした強い印を押そうと思うなら、急いであらしくおしてはいけません。柔かい蟬の上に注意深く印を置いて、静かに、動かないようにその形がたくなるまで押えます。人の魂も同じように扱わなければなりません。クリスチャン感化の継続は、その力のひけつで、これはあなたがいかに忠実にキリストの性格を表わすかによります。あなた自身の経験を話して、あやまつた人を助けておあげなさい。あなたが重大な間違いを起したときに、同僚の人の忍耐、親切、援助がどんなに勇気を与え、望みを与えてくれたかを示しておやりなさい。

矛盾した人、理屈の通らない人、価値のない人に対する親切な思いやりのある行為の感化は、さばきの日まで知ることではできません。わたしたちが聖なる委託物を感謝せず、裏切られるとき侮辱と憤りを表わしそうになります。悪いことをした人は侮辱と憤りを受けるのを当然覚悟しています。

けれども親切に耐えてやることは彼らを驚かせますので、それはよりよい動機を目ざめさせ、より高尚な生活をあこがれるようにさせます。（T S S・一一六、一一七ページ）

人に対する寛容

人生のあらゆるまじわりには、自制、忍耐、同情を用いる必要があります。わたしたちは各自その性質や習慣や教育がちがうため、物の見方もちがいます。そして各自異なった判断をします。真理の理解も生活行動に関する考えも、すべての点において同じではありません。ある特別なことで二人の経験がすべての点に同じだということはありません。一人の人の試練は、もう一人の人の試練ではないのです。一人の人には軽くみえる義務が、もう一人にとっては一番むずかしい、困ったものであるかもしれません。

人間の本性は非常にこわれやすく、無知で、誤解しやすいので、各自は人をはかるとき、深く注意しなければなりません。わたしたちの行為が、他の人の経験に及ぼす影響を知ることができません。わたしたちがなしたり言ったりすることは、瞬間のことのように思われますが、眼が開かれるならば、善か悪かの重大な結果がそれにかかっているのを見るのです。（T S S・一一七ページ）

自己向上

若い者のまわりにあまりに安価な性格やにせ物が多いので、教師のことばや態度や行いがいっそう高尚な真実のものでなければなりません。子供たちは、虚飾、弱点、欠点にすぐ気がつきます。教師は自分が教えようとしている原則を、自分の生活にあらわすことによって何よりも尊敬を受けることができます。……

しかし教師の有用さはその人の持っている知識の実際の量より、その人が目ざす標準によります。真の教師はぼんやりした考えや、怠惰な心、不明りような記憶に満足しません。彼はつねに高い知識を求め、よりよい方法を求めます。彼の生涯はつねに成長しています。そのような教師の働きには、生徒の目をさまし、感動を与えるような新鮮さを生かす力があります。……

物事をすみやかに見抜き、善をなす機会をのがさない教師が必要です。熱心と威厳を結合し、統御する能力があつて「よく教え」る人、また感動を与えることができ、活力を目ざめさせ、勇気と生命を与える教師が必要です。

教師は教育を受ける機会に恵まれなかったために、望ましいだけの高い学問的な資格を備えてい

ないかもしれません。しかし、もし彼が人の本性を真実に見抜くことができ、自分の仕事がほんとうに好きで、教師の働きの重大なことを知り、向上する決意を持っていて、熱心に忍耐をもって働くなら、彼は生徒の必要を知り、その同情ある進歩的精神によって、自分が生徒に前進向上させたいという願いについてくるように感動を与えることができます。

教師が取り扱う子供や青年は、それぞれの性質や習慣や訓練に大きなひらきがあります。ある者は定まった目的もなければ、きまった不変な原則も持っていません。彼らは自分の責任に、また自分の可能性に目ざめなければなりません。

自分の働きの機会と特権を見のがさない人は、自己向上のため熱心な努力を払い、何物にもさまたげられません。彼は、優秀な最高の標準に達するまで、どのようなほねおりも惜しみません。生徒にそうなってほしいと思うすべてのことに自分になろうと努力します。(TSS・一一八、一

一九ページ)

能力を増すための準備

神を何よりも愛し、隣人をおのれのごとく愛する献身した教師がいなければなりません。主は、教師が安息日から安息日へとその能力を増加する十分なそなえをお置きになっっていますので、教師

は現在と永遠に関して、効果的に教えるをなすことができます。わたしたちは安価な、皮相的な経験の持ち主ではなく、キリストの学校で毎日学んで、深い内部の敬虔を備え、キリストが教えたもうた尊い教えを分け与えることのできる生きた敬神の念をもった青年男女を学校に必要としています。

千編一律の形式に従って満足している人は、的をはずし、安息日学校の教師がしなければならぬ働きに失敗します。神の働きのこの部門にたずさわり、ほんとうの意味のクリスチャンとなり、神をおそれつつ神から与えられた働きをなし、キリストが死にたもうた魂を愛して働くならば、彼らは神の協力者です。

模範であるべき教師

教師は精神においても、ふるまいにおいても、衣服においても青年の模範でなければなりません。彼らは飾り気のない単純な衣をまとい、子供のように謙遜な心を持ち、生徒たちにキリストのご性格を代表するために神のみ前にいるのですから、清く高められていなければなりません。献身の精神とやさしい心で自分に託された人をながめ、イエスが「なんじら慎みてこの小さき者の一人をもあなどるな、われなんじらに告ぐ、彼らのみ使たちは天にありて、天にいますわが父のみ顔をつね

に見るなり」と仰せになったのを思い出しましょう。

もし教師たちが天の事柄を人の魂にあらわすのは聖霊であり、キリストの精神をもつて働いているときに、この天よりの代理者が人の心に神の真理を印象づける事を心にとめ、また天の使が彼らのまわりにいること、彼らが聖い所に立っていることを認めるなら、安息日学校でもっとも効果的な働きがなされるにちがいありません。教師は神の臨在を自覚するので、霊的めぐみや力に欠けることもなくなり、彼らはただ人間という代理者にすぎず、彼らを通してキリストが天の光を分け与えておられることを理解します。彼らの働きは熱心と力でみたまされ、み霊が彼らの弱きを助けることを知ります。(T S S・四一—四三ページ)

わたしたちの型は人間でなくキリストである

安息日学校の教師は、たとえ聖壇にある牧師がどのような模範を示しても、主すなわち救い主イエス・キリストの知識に成長しない人の模範にならわないようにしましょう。神の協力者として受け入れられる人は、他の人の声音や態度や考えをまねてはなりません。神から学び、天の知恵を受けなければなりません。神は各自に同じように理性と知力の賜物をお与えになりました。自分の能

力に依じて与えられたタレントを両替屋にあずけるべきです。主はそれがどの働き人でも、その人が尊敬している他人の単なる影になることをお望みになりません。教師は限度ある、まちがいの多い人間にならうことなくキリストの身のたけにまで成長しなければなりません。あなたはイエス・キリストの恵みにそだたなければなりません。どこに恵みがあるでしょうか。それは天よりの模範であるキリストにだけあるのです。

キリストをながめて、天の模範にならしましょう。すべての働き人は神のご計画に調和するために全力を尽さなければなりません。他人をかしこく教えることができるように、キリストの学校で学ばなければなりません。安息日学校で教師の下におかれた人たちは、神がキリストに従う者にお与えになる知恵と経験を必要としています。真の教師となつてその生徒をキリストにみちびき得るように教師はキリストの謙遜と柔和を学ばなければなりません。その生徒は先生にかわつて大きい収穫の野で忠実な伝道者となります。（TSS・七六、七七ページ）

せまる愛の力

救霊の働きにおいて、魂に対する同情が非常に欠けています。魂を神とやわらがせるために神が

わたしたちに求めておられるところの懇願し、説得し、ひきつける力が見られません。もしわたしたちがイエスにあるそのままの真理を教えるなら、宗教はわずらわしいものでなく、むしろ喜びとなるに相違ありません。快活と感謝とやさしさにあふれた心、キリストのごときあわれみの心をその仕事に打ち込んで、生徒の心は無我の愛でふくらませなければなりません。これが天に満ちている精神です。安息日学校の働き人は、すべての誇、自己愛を捨てて、心から誠実にみことばを行う者とならないでよいでしょうか。「ただ、なんじら主イエス・キリストを着よ、肉の欲のために備えすな」純粋な信仰はキリストに信頼し、絶対に服従し、彼が行きたもうところには、どこへでもついて行くことを承諾します。よく指導された働きの結果として、これが成就するとき、主のために尊い収穫として多くの魂がもたらされます。

両親や教師は、子供の小さいころから、救いが大切であることをその心に印象づけるようにしなければなりません。そして子供たちに神は天の父であって、神の愛はその独り子をたもうことによって示され、世の救い主はわたしたちの世界においてになって、わたしたちが生きるために死なれることによって、その愛をあらわされたことを教えなければなりません。愛とやさしさをもってこれらの教課を教えるなら、若い者の心にいつまでも消えない印象を残します。太陽が輝くとき、も

の像や物体が鏡の表から反射するように、これらのテーマもキリストの愛に照されるとき、人の心にうつるのです。（TSS・一〇〇、一〇一ページ）

単純と同情

聖書を開いてキリストのような単純さで青年や子供たちに教課を教えるのは、たいへん大切なことです。教師はむしろかしい、気取ったことばを一切用いないで、単純で若い人の心がすぐわかることばを用いなければなりません。

しかし成功ある教師となるためには、教える方法を単純にするばかりでなく、安息日学校に同情と愛を織り込まなければなりません。子供たちはこの愛を認め、これに感化されます。男も女もただ大きくなった子供にすぎません。ほんとうの同情や愛のことばや表情に答えることは、おとなでも子供とかわりません。天よりの教師であるイエスは、でしたちに彼らに対するイエスの愛を保証なさいました。主が人間の性質をおとりになった目的は、ご自分がおつくりになったものに救いと幸福をもたらすことによって、彼らに対する神のあわれみと愛と恵みを人類に示すためでした。この目的のために彼は死なれたのです。彼が最もやさしい同情のことばを語っておいでになるとき、

彼らが求め考える以上に「はなはだしくまさる」ことを計画しておいでになることを意識しておよるこびになつたのでした。主は、毎日でたちの前に人類の祝福となる働きをなし、墮落した人類に対する彼の柔和と愛をお示しになりました。彼の心はつきぬ愛の泉であつて、切望している心はそこから生命の水を受けることができます。

イエスが語りたまつた時、その教理にみんな驚いてしまいました。というのは、彼が学者のごとくならず、権威あるもののごとくお教えになつたからです。学者たちは自分たちの学説を作りあげ、るために苦心しましたが、その学説をささえるためにもまた苦心しなければなりません。彼らは作り話や子供らしい伝説をくり返すことによつて人心に感化を及ぼそうとして苦心していたのです。公衆を教える最高の模範すら、おもに意味のない儀式のくり返しと、とるに足りない意見のくり返しでした。イエスは、最高の理想や考え、また崇高な真理を非常にわかりやすい単純な方法でじゅんじゅんと説きたまうたので、「多くのこびてイエスに聞くことを」したのでした。安息日学校でもこのような教えがなされなければなりません。光、天来の光は驚くべき教師イエスより反映しなければなりません。そして子供や青年の心は、彼のご性格と愛の栄光によつて輝かされなければなりません。このようにして子供らは「世の罪を除く神のこひつじ」にまで美しい単純さ

の中に導かれます。（TSS・三九、四〇ページ）

清新な主題を提示すること

魂は、高価な実が満たされている宝庫のようなものでなければなりません。講壇で、安息日学校で、祈祷会で、また社会でそれをもって人を照す清新な主題がなければなりません。わたしたちは完全な教師であるイエスの模範に従わなければなりません。イエスは、生ける神のご性質を人にあらわすことによって、彼らを教育したまいしました。彼は「永遠の生命は唯一のまことの神にいますなんじと、なんじのつかわしたまいしイエス・キリストを知るにあり」と仰せになりました。これは青年の心に強い印象を与えるべき重大な問題です。というのは、彼らがこの世的なものを第二にして、永遠の興味に導かれるためには、父としての神の性質を知らなければなりません。神のご性質をながめることによって、彼らの心には他の人にも真理の美と力を分け与えたいという強い望みがおこってきます。

改心させる宗教の力

人の心を取り扱う人は、男も女も子供もみな、真理が心の中に働き、それがその精神に、ことに、品性に、行動にあらわれるようになってもらいたいものです。真理のきよめる力が安息日学校で教えるすべての人や、わが伝道機関に地位を占めている人を導いて、「わたしはわたしが信じている方を知っている」ということができるような経験をするまでに導かれなければなりません。イエス・キリストの宗教には、変化させる力があります。そしてわたしたちが世の光となることができるようにもっと謙遜になり、もっと熱心に、生ける信仰をもって、この力がわたしたち自身の上に見られなければなりません。自己がひくくされ、キリストが高くあげられなければなりません。神の道德的ぶどうばだけ何か仕事をまかせられている人が、なぜこのようにたやすくごうまんなってしまうのでしょうか。

心を探る質問

人はだれでも、責任ある地位そのものが人物をたかめると思うのはどういふわけでしょうか。だ

れでも全くあがないの犠牲のおかげをこうおっているのに、なぜ自己満足におちいるのでしょうか。なぜある人は非常にやさしさに欠け、また心の使い方が足りないのでしょうか。自己満足している人は、まだ岩の上におちてくだけていないからです。彼らが神への信頼、熱心な心からの悔い改め、熱心な祈りに欠けているのはこのためです。ですから教師はつぎのような質問をしてみたらよいと思います。すなわち「わたしは信仰に入ってから聖霊をうけたことがあるだろうか。キリストをわたし個人の救い主として受け入れただろうか」と。この質問に厳粛に答える必要があります。

時は金なり

もし神の働きにたずさわっている人のだれしもがクリスチャンであるならば、そのことはその働きによってわかります。彼らは自分に接触する人にキリストを示すでしょう。安息日学校の教師は重要でないことに時間を用いません。彼らは一瞬一瞬が金であるということ、また、主の園で勤勉に働किに従事していなければならないことを知っています。キリストは天の聖所で一瞬一瞬めぐみのみ座の前にご自身の血を示して、わたしたちのためにとりなしをしておいになります。このことを深く心に刻むとき、一瞬間の価値を理解することができます。イエスはわたしたちのためにと

りなそうと生きておいでになるのです。しかし不注意に過ごした一瞬間は回復させることはできません。教師も生徒も、イエスが天の聖所で重大な働きに従事していたもうこの一大事実を考えてみましょう。そしてもしあなたがキリストのくびきを負い、キリストの重荷を負うならば、生ける頭であるキリストの働きと同じ性質の働きに従事していることになります。(T S S・八五、八六ページ)

表情はその性費をあらわす

各組の教師はすべての子供たちをよく心にとめ、特別に注意してみまもらなければなりません。永遠のためのこのような働きは、教師が神と近い関係を持っていなければ不可能です。イエスは「なんじらは聖書に永遠の生命ありと書いてこれをしらぶ、されどこの聖書は我につきてあかしするものなり」と仰せになっています。真理を表面的に研究するようにすすめてはなりません。真理の要点、要点を明らかにし、子供の心にはつきりとさせなさい。一度に多くのことをつめこんで彼らの頭を一杯にはなりません。神の尊いみことばは彼らの足のともしび、道の光でなければなりません。そして光の中を歩くのが彼らの特権であることを強く印象づけなさい。この平和で純潔

な聖い道は、主にあがなわれた者が歩くためにひらかれた道です。キリストご自身が先に歩みたまうた道であって、彼は真の羊飼で、彼に従えばよこ道やおとし穴から救い出されます。

神のみことばを読んで天国に入る者は、みな完全な性格を備えていなければならないことを学びます。そうしてこそ恐れなく主にまみえることができます。子供や青年の多くは、顔にその性格が印されています。彼らの生涯の経歴を容貌に表現しています。真の働き人は、子供たちの心に美しい、きよい、キリストのごとき性格を深く印象づけなければなりません。そうすればそれは顔の表情を変えます。もしキリストが心に宿って心の原則となっていたら、その表情に純潔、高雅、平和、愛を読みとることができます。そうでない他の顔には悪い性格があらわれて、利己心、こうかつ、あざむき、いつわり、敵意、嫉妬があらわれます。このような性格の心や顔を持った人に、真理を徹底させるのはなんとむずかしいことでしょう。

品性の涵養

今わたしたちは品性の涵養に特別な注意を払わなければなりません。イエス・キリストのうちにある心を心として、安息日学校の一番低い働き人も一番高い働き人も、向上し高尚になり、イエス

がご自分の協力者としてはじないで認めてくださるようにしたいものです。キリストはすべての霊的教養をお備えになっています。もしイエスが心の中に住みたもうなら、心は聖霊のきよい徳で満たされ、それが顔にあらわれて表情を変えます。もし、美しく、愛すべき品性を持ちたいと願うなら、神のおきてが心に書かれ、生活に実行されなければなりません。（T S S・二〇―二二ページ）

教課を実際的事にすること

教師は心も魂も教課にうち込むようにして、教課を實際にあてはめるようにし、自分が責任をもっている子供たちの心に興味を起させなければなりません。生徒に自由に活動させて、真理の問題を解くようにさせましょう。教師はその働きに特徴を与えて、安息日学校のプログラムが無味乾燥なものでないようにしましょう。

教師は安息日学校のプログラムに熱心がたりません。教師は、かしく同情と忍耐をもって、生徒のみなに魂の救いに対して興味を持たせるために熱心に努力しなければなりません。この安息日学校のプログラムを主が望みたもうようにしなければなりません。すなわち深刻に罪を認め、心を入れかえる時でなければなりません。もし正しい働きがじょうずに、キリストのような方法でなさ

れるなら、魂は罪を認め、「われ救われんために何をなすべきか」というでしょう。 (T S S・

一二、一三ページ)

教課補助の使用について

教会の働きに子供たちが興味をもつように幾分努力は払われていますが、まだ十分とはいわれません。安息日学校をもっと興味深いものにしなければなりません。公立学校では、近年その教え方がずいぶん進んできました。実物教育、絵、黒板がむしろかしい教科を幼い者の心にはつきり教えるために使われています。ちょうどそのように、現代の真理も単純にされ、子供たちのはつらつとした心に興味のあるようなものにしなければなりません。

他の方法で近よることができない両親も、しばしば子供たちを通して近づくことができます。安息日学校の教師は子供たちに真理を教えます。すると今度は子供たちが家庭にそれを持っていきます。しかしわずかの教師しか、この部門の働きの重要性を理解していないようです。公立学校で用いられて大へん成功した教え方は、安息日学校でも用いてもおなじように成功をおさめ、子供たちをイエスに近づけ、彼らに聖書を教える助けとなります。これは急激にきて急激に去っていく感情

的な信仰興奮よりはるかに効果のあるものです。

キリストの愛を養成しなければなりません。わたしたちが信じているようにこの働きが、キリストのきたりたもう前になさなければならぬものであれば、もっと信仰をもつてなさなければなりません。正しい方向に向かって自己を否定し、自己を犠牲にする働きが必要です。いかにしてもつと有効に働けるかということについて、祈りつつ研究しなければなりません。注意深い計画が熟さなければなりません。わたしたちの中には、もし用いさえすれば考案もし、実行のできる人がたくさんあります。よく指導された理知的な努力から大きい結果が生れてきます。(T S S・九ページ)

あやまりを指摘する

もし安息日学校が正しく行われるならば、それは人の魂を真理に導く神の一大機関となります。教師が一人で全部話すのは最もよい方法ではありません。クラスの人々に自分の知っていることを話さなければなりません。そして教師は簡単に要領を話し、また実例を話して、生徒の心に印象づけるとよいのです。どんな場合でも、教師がただ機械的にひととおり教えてすわってしまい、よ

く見受けるように、子供たちがあちこちながめていたり、ささやいていたり、遊ぶままに放っておくことがあってはなりません。このような教え方は益がなく、かえって害があります。もし教師が適当に準備しているならば、一瞬一瞬有用に使うことができます。子供のはつらつとした心を常に働かせていなければなりません。彼らの考えを発表させて、その場合に応じて間違いを正し、また正しいことを認めてやらなければなりません。しかしながら教師が「わたしはすみしました」と言つて、すわってしまうようなことがあつたりしてはなりません。教課が終つたということは決してないはずです。(T S S・一八、一九ページ)

霊的怠惰

ある安息日学校では、教える力のない人が教師になっていきます。彼らは魂に対する熱心な愛を持っていません。また、真理の実際の方面をすこしも理解していません。そういう場合、彼らが子供や青年をどうして生ける水の源につれていくことができるでしょうか。教師自身、救いの水を深く飲まなければなりません。そうすれば神の使は彼らにつかえ、尊い青年をイエスに導くために主がいかなる方法を用いるように望みたもうかを知ることができます。それには才能、意志、忍耐、ヤ

コブがすもうをとって「なんじ我を祝せずば去らしめじ」と叫んだときの精神を必要とします。神の祝福が教師の上にくるとき、それは自然に生徒にも反射します。靈的に怠惰で、高く高尚でない熱望のない人に青年たちを教えさせてはなりません。そうでないと、無関心なパリサイ主義、すなわち、力ない形式が教師にも生徒にも見られるようになります。（T S S・一三ページ）

クラスでの論争

安息日学校の教課が心や知能を輝かすように教えなければなりません。この目的を達するには、教師は聖霊に導かれていなければなりません。すべて利己的なものは姿をひそめ、あわてて話すことなく、思慮のない行動をとることなく、魂の救いのための人間の努力とともに動く神の恵みがあるようにしなければなりません。これが安息日学校の働きの大きな目的です。安息日学校を論争の場所としてはなりません。また、ちがった考えを表わす場所としてもなりません。このようなことは、安息日学校以外の場所に置いておき、調和を保つようにいたしましょう。ある思想が紹介される時に安息日学校のある生徒の疑問が発展してきても、論争の精神や議論や論争が起らないようにしましょう。（T S S・五一、五二ページ）

教課を読む

たいへん残念なことですが、ある安息日学校では教課をただ読む習慣がついています。教課はただ読むべきではありません。もしわたしたちが漫然と、あるいは罪となるようなやり方で聖書研究に時間をあてるくらいなら、そうする必要はありません。教師でも生徒でも安息日学校の教課を普通の学校の学科ほど完全に勉強しないでよいという理由はありません。教課は、この上ない大切な問題を取り扱っているのですから、よりよく勉強しなければなりません。これを怠ることを神はおよびになりません。（TSS・一〇ページ）

ただ表面だけを

安息日学校の教師はみな、神のための伝道者であることを感じなければなりません。教師は、時間も才能もじょうずに利用して、神のみことばの知識を得るように努力し、それを生徒に分け与えるようにしなければなりません。もし教師がたえず学ぶ人でなかったら、教師となる資格がないわけです。教師の仕事に新鮮な考え、新しい賢い計画、生命、技巧、熱心さがなければなりません。ま

た教える才能がなければなりません。

教師は教課のことばをあんしようにするだけに満足してはなりません。教課のことばにも思想にも、完全に通じるようにしなければなりません。クラスに立つ前には教師はみなその日、またはその時したいと考えていることについて頭の中に自分の計画をはっきり立てておかなければなりません。教課をクラスの前で話すことは教課を教えることではありません。簡単なことばで話し、考えをはっきりさせなければなりません。生徒が理解できるかどうか確かめなさい。もし彼らがあなたの考えを理解できなければ努力はむだです。ただ表面だけでなく、深く掘り下げてください。聖書は生命の規則、また案内です。健全な教理を、実際に生徒の心に触れさせなければなりません。そうするとき実がなります。あなたの努力の結果として健全な行為があらわれてくるからです。(T S

S・二四ページ)

長い退屈な話

子供を教える人は、長いあきあきする話をさけるように気をつけないければなりません。簡単に要点にふれて話すとき、よい影響があります。多く話さなければならぬ時は、簡単に幾度もくり返

すことです。おりにふれた興味あるひと言は、一度に全部聞くよりずっと効果的です。長い話は子供たちの心に重荷となります。あまり多く語ると、過食が胃に重荷となって食欲を減退させ、食物をいやがらせることがあるように、子供たちに霊的な教えをいとわせることがあります。人の心はあまり長い話にあきます。教会や特に青年に働く時は「いましめにいましめを加え、のりにのりを加え、ここにもすこしく、かしこにもすこしく」教えなければなりません。彼らに食べさせる真理が消化する時を与えなければなりません。子供たちをあわただしく天に近づけようとしないで、もの優しく導かなければなりません。（TSS・一〇七ページ）

神と共に働くことはどんなことであるか

「若き人にも同じく慎みをすすめ、なんじみずからすべてのことにつきてよきわざの模範を示せ。教えをなすにはよしまなきことと謹厳と責むべきところなき健全なことばをもつてすべし。これ逆らう者をして我らの悪を言うに由なくみずから恥ずるところあらしめんためなり」

安息日学校の教師が誠実で敬虔の心を欠き、神との日々の交わりをおろそかにする時、その教師の教えは無味乾燥になります。彼のことはには生徒の心にとどく力がありません。

神と共に働くことは、ただ安息日学校に出席し、教会の礼拝に出て教えることを手伝い、あかし会であかしをたてることだけでなく、もっと多くのことを含んでいます。

神と共に働くことは、キリストが死にたもうた罪びとの救いのために強く心をひかれることを意味します。そして、あなたの心は働きに対する熱心であふれ、教訓を興味深くするためいろいろ計画し、与えられたすべての力を用いてキリストが引きよせたもうた方向に人々を引きよせる方法にくふうし、キリストの奉仕にまで魂を勝ち得るように、またキリストの限らない愛のきずなでキリストに結びつけるようにすることです。

献身をしない努力は働きを妨げる

神と共に働く者は聖なる責任からのがれようとしないで、キリストのために進んで骨折り、困苦や責めを忍びます。彼らは、耐えがたいことや人間の誇をきずつけられることも、非難もよることで受けます。そして、神とともに働く者は、イエスが失われた者を救うために恥、侮蔑、拒否、死をさえ耐えたもうたことを思い起します。刈り入れの野のいろいろな働きは、みな犠牲と自己否定を意味します。たいせつでないことのために費される時間は、聖書研究に用いられ、自分に委ねられ

た働きはいかにすれば成功することができうるかを知ろうとつとめます。また、神の霊をよく知るようになる必要ありません。祈りを多くし、自分に与えられたあらゆる才能をいかに用いるか、また、いかに効果的に神の働きを進めるかについて、いっそうまじめに考えるようになります。

あなたは神がご自身の王国を地上にたてるために雇われたしもべであって、キリストがご自身の血のあたいをお払いになった魂の救いのためにおのれの分を果さなければなりません。ではこの重大な働きのため、心の準備もせず安息日学校で教えることはささいなことでしょうか。クラスを教えている多くの教師は、それにほとんど興味を持っていません。彼らは献身して働かないで、きよい働きを汚しています。（TSS・六七、六八ページ）

自己を示そうとする誘惑

子供の組でもおとなの組でも、教師は常に生徒たちの心を形作る知恵や恵みや力を、天の大いなる光の源に求めなければなりません。そして、キリストの血であがなわれた者を理知的に取り扱うことができるようにしなければなりません。教師はみな心ひくく柔和な主に従うものでなければなりません。すぐれた教師に思われようとして、または、非凡な才能の持ち主に思われようとして、

勉強したり働いたりするのでなく、魂をキリストに導きうるために、そうするのでなくてはなりません。自分の働きにおのれを織り込もうとする試みにもぶつかりますが、もしそれをすれば、働きを汚すことになります。なぜなら、その結果として、話は長い無味乾燥なものになり、子供の心に興味を与えず、なんら益をなさなくなるからです。（T S S・三五ページ）

心の全部を打ち込んだ奉仕の働き

主は安息日学校の教師として、心の全部をあげて奉仕する人、使うことによって自分の才能を増す人、今まで達成したものをさらに向上させる人をお望みになります。主は働くクリスチャンを教会に望んでおいでになります。というのは、働く者には働かない者より誘惑が少ないからです。クリストを真に信ずるものは、神の協力者になります。聖霊に支配され、彼らの愛情はきよめられ、欲望は抑制され、尊い実が神の栄えとしてその生涯にみのりはじめます。真にキリストを信ずる者はその光を反射するからです。（T S S・五三ページ）

救霊は最高の関心

教師の責務は重く聖なるものであって、その働きの中で青年にやさしい愛をこめたすすめをする

ことと、友だちであると感じさせることほど大切なことはありません。そして一度彼らの信頼を得れば、彼らを導き、統制し、たやすく訓練することができます。クリスチャンの原則であるきよい動機が実生活に入れられなければなりません。神を恐れる教師は生徒の救いを一番心にとめています。彼はキリストの働き人で、その特別な、断固たる努力は、ほろびから魂を救い、イエス・キリストに彼らをかち得ることではなりません。神はこれを牧師の手にお求めになります。人はみな敬虔で、きよい生活を送り、すべての義務を果たすために、ほねおって努力しなければなりません。もし心が神の愛で輝いているならば、欠くことのできないきよい愛情があります。そして祈りは熱心となり、忠実な警告を与えます。もしこれらを怠るなら、あなたが受け持っている生徒は危険です。長く話したり、勉強を監視するよりこれらのおろそかにされた義務を果たす方がよろしい。

忍耐はむくいられる

これらの努力を払っても、教師は、ある受け持の生徒に不道德な性質が出てくるのを発見するでしょう。多くの場合、これは両親の悪い模範、または鍛練の怠慢の結果としてあらわれる道德的なゆるみです。教師はできるだけのことをしても、これらの青年を純潔なきよい生活に導くことはで

きません。そして忍耐して訓練し、愛情をもって労し、熱心な祈りをしたのち、これほどまでに望みをかけてきた者に失望させられることがあります。そのうえ、親からは、彼らが自分の悪い模範やかしくくない訓練に対して立ち向かう力がないため非難がきます。教師は自分の責任をすべて果してもこうした失望を味わうことがあります。しかし彼は、神が彼とともに働きたもうことを信じて働きつづけ、雄々しく自分の立場に立ち、信仰をもって努力しなければなりません。他の人々が神に救われ、彼らの感化はまた他の人の救いに及びます。牧師も安息日学校の教師も大学の教師も、青年たちをほろびから救うため、みな心も魂も一つにして働かなければなりません。（F E・一六、一一七ページ）

キリストを高くかかげる

もしクリスチャンであると公言する人々が正しくキリストを代表するならば、福音は神の力と知恵になります。わたしたちの罪のために十字架におかかりになったキリストについてよく考え、神のみ前にへりくだらなければなりません。死からよみがえられたキリスト、高きにのぼられたキリスト、神の前におられるわたしたちの生ける仲介者は、わたしたちが学び、子供たちや青年に教え

なければならぬ救いの科学です。キリストは、「我はおのれをきよめわかつ、これ…彼らもきよめわかれんためなり」と仰せになりました。これこそはつねに教師の双肩にかかっている働きです。このことはいいい加減にしておいてはなりません。普通の学校の子供の教育においてさえも、キリストの恵みと共に自我を抑えることを多く要求されているからです。生れつきかんしゃく持ちですぐ怒り、批評する習慣があり、悪いことを考える習慣のある人は、そのいやな性質が子供や青年たちに再現しないように他の働きを選ばなければなりません。それはあまりに大きな損失になるからです。天は、もしその力と能力が天来の知恵によって成長するならば、その人を通して神の感化が働く器となり神の協力者となることができる未発達な男女として子供たちをござらんになります。するどいことば、絶えざる監視は子供をつかれさせるばかりで改めることはできません。つまらないことばを言わずにおきなさい。そして自分自身の心をイエス・キリストの薫陶のもとに置きなさい。そうすれば、あなたの受持の者をどうすればあわれみ、同情できるか学ぶことができます。

(T S S・八七、八八ページ)

クラス全部を悔い改めさせる

神の働き人としてわたしたちはもっとイエスを現わし、おのれを少なくしたいと望みます。わた

したちはもつと魂に対して重荷を感じなければなりません。そして安息日のため、力と知恵が与えられるように毎日祈らなければなりません。先生方よ、クラスの人たちに会って共に祈り、どのように祈るかを教えなさい。心をやわらげ、願いは短かく簡単に熱心になさい。ことは数を少なく、よく選んで祈りなさい。そしてあなたのくちびるをとおし、あなた自身の模範をとおして、神の真理は心に深く根をおろさなければならぬこと、そうでなければいざないの試みにたつことができないうことを教えなければなりません。クラス全体の青年たちがみな悔い改め、教会の有用な会員に育つように願うものです。（T S S・一九、二〇ページ）

六日の間、あなたのすべての力とエネルギーをこの世的な、一時的な事に与えてはなりません。そうしないと安息日にキリストの奉仕のために与える力とエネルギーがなくなってしまう。今日熱心にしなければならぬ働きのあります。利己的なことのために使う時は一分もありません。わたしたちのなすことはみな神の栄えのためにしたいものです。クラスの人全部が、キリストの救いの知識を得るまで安心してはなりません。（T S S・一四ページ）

最高のよろこび

わたしたちの学校に教師として受け入れられた人々に、種をまき土地を耕し、みのった穀物を刈り入れるために働きそだてる畑が開かれています。子供や青年に神を愛し、そのいましめを守るように教え、訓練するために神と共に働くこと以上に満足を与える働きがあるでしょうか。学校や安息日学校で教えている子供たちをイエスに導きなさい。子供や青年がキリストに従うのを見る以上によろこばしいことはありません。キリスト、すなわち大いなる牧者は呼んでおられます。そして、ひつじやこひつじは彼の声を聞いて彼に従います。興味をもって献身して働いている人にとって、自分が忍んで耐えてきた働きは、主にあつて無にならないことを知り、生徒たちがその罪をゆるされて心によろこびの太陽がかやくのを見るほど心のよろこびを増すものはありません。神の共労者にとって、子供や青年が神のみたまの感化を受けて、真に高尚な品性をうけ、神の道德的なたがが回復される、すなわち子供らが平和の君より平和を求めるのを見るほど、満足を与えることはありません。

（F E・二七一ページ）

第五部

毎週伝道献金を集めること

第五部 目 次

なされた働きに対する感謝	147
規則正しい、組織だった献金	147
規則的に毎週ささげること	148
特別の栄誉	149
献金に先行する神の摂理	150
与えるのに飽きてしまったとき	151
働きの延長	152
縮小を求めてはならない	153
最善を尽そうではありませんか	153
外国伝道のために祈り、献金すること	154
方法、手段のくふう	155
国内伝道の発展	156
神は忠実な家宰をおほめになる	156
かくなり得たものを	157
絶えず与える者にくる絶えざる恵み	158
同情よりより高い動機	158
生れつきの利己心に打ち勝つこと	159
家庭で子供に慈善の精神を教えよ	160
非現実的な欲求を抑制すること	162
不健康な刺激は不必要である	162
小さいささげ物の収入	163
誕生日献金	164
神の保護と愛を思い出すため	165
神のご要求を第一に置くこと	165
わたしたちの聖なる模範	166
キリストは心からの愛の行いを尊ばれる	167
神のものとわたしたちのもの	167
愛のささげ物の最高の効果	168
繁栄の条件	168
献金の動機の記録	169

第五部 毎週伝道献金を集めること

なされた働きに対する感謝

安息日学校が多くの尊い働きを進めるために、十分必要な献金をささげたことを神に感謝していただきます。子供も青年方も少しずつ献金しましたが、それは小さい川が大きな献金の流れに供給したことになります。天をよろこばせる無私の行為をするように子供たちを教育しなければなりません。まだ子供たちが若いころに、キリストのために、いかに奉仕すればよいか訓練しなければなりません。そして自己犠牲を教えなければなりません。（T S S・一一三ページ）

規則正しい、組織だった献金

この献金という問題を気まぐれにしてはいけません。神はそれについてはっきりした教えをお与

えになりました。神はわたしたちが果さねばならない義務としての十分の一と諸献金をお定めになりました。主は、わたしたちが規則正しく組織的にささげることをお望みになります。パウロはコリントの教会に、「聖徒たちのためにする寄付のことにつきては、なんじらもわがガラテヤの諸教会に命ぜしごとくせよ。一週のはじめの日ごとに、各々そのうるところにしたがいておのが家にたくわえ置け」と書いています。すべて神からの祝福である自分の収入を、規則正しく調べるようにしましょう。そして十分の一は別の資金、すなわち主の聖いものとして別にしておきましょう。この資金は、どのような場合にも他のことに用いてはなりません。これは福音の牧師をささえるためにのみ用いることになっています。十分の一を除いたあとの諸献金は、あなたの「得るところに従って」きめるようにしましょう。（レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年五月九日）

規則的に毎週ささげること

小さい子供の献金は神に受け入れられ、またよろこばれます。その献金の動機となった精神に従ってその献金の価値が異なります。貧しい人は、使徒のすすめに従って、毎週少しずつためて献金をふやすことができます。そしてこの人々の献金は全く神に受け入れられます。というのは彼らは、

金持の兄弟と同じような、またはそれよりも大きな犠牲を払うからです。また組織だって献金をささげる計画によって、どの家族も不必要なことののために金銭を使わないようになります。ことに金持にとっては浪費を防いで祝福となります。

家族の一人びとりがこの計画を十分に実行すれば、毎週、各家族に対する神のご要求が心に思いだされます。会計に献金を入れるために特別に自己犠牲をするとき、神の栄光のために自己を犠牲にするという尊い教えが心に強く印象づけられます。週に一回、各自が自分のしたこと——すなわち、自分がもし経済の面をうまくすれば持っていたかも知れない収入、また気ままにしたために持っていない金と直面してみるのです。彼の良心は、ちやうど神のみ前に立ち止まって自分をほめるか責めるかするのです。そして彼はもし心の平和を保ち、神によるこばれようと思えば神の栄光のために食べ、飲み、着なければならぬことを学びます。（三丁・四一二ページ）

特別の栄誉

神は賢いご計画の中に、み事業の進展を神の民の個人的努力とその自由献金にまかせておられます。神はこの大いなるあがないの計画に人間の協力をお受け入れになることによって、人間に特別

の名誉をお与えになりました。牧師は、送られなければ説教することはできません。光をわけ与えるこの働きは、牧師の上にはかりかかっていません。教会員になる時、人はみな、自分が公言する真理を生活に現わすことによってキリストの代表者であることをみずから誓ったのです。キリストに従うものは、主が昇天なさったとき、彼らに、するように残された働きを前進させなければなりません。 （四丁・四六四ページ）

献金に先行する神の摂理

小さい、または大きい施しの流れがつねに流れつづけなければなりません。神の摂理は、わたしたちのささげ方よりずっと前進してはるか遠くに行っています。神の働きの進展発達は、利己心、誇、むさぼり、浪費、虚飾を愛するためにはばまれています。教会全体は、その働きの各部門をおしすすめる厳粛な責任を負わされています。もし教会員がキリストに従うなら、虚飾とか衣服への愛着を捨て、美しい家や高価な家具などにも愛着をおぼえなくなります。セブンスデー・アドベンチストはもっと謙遜になって、この世との区別をはっきりしなければなりません。そうでなければ、たとえばわたしたちの地位が何であろうと、またしている働きの性質が何であろうと、神はわたした

ちを受け入れたまわないでしょう。経済と自己犠牲によって中流程度の家庭にも慈善のための余裕ができます。キリストにならない、天の王が歩きたもうた自己犠牲の道を謙遜に歩むことはすべての人の本分です。クリスチャンの一生は、全く自己犠牲の生活であって、助けを求められれば、いつでも答える生活でなければなりません。

サタンが魂を滅ぼそうとたゆまず働いていても、広い収獲の野で働き人を求める声があるかぎり、神の働きのいろいろな方面のどれかをささえるために、献金を与えるよう召しがかならずあるものです。一つの必要をみたせば、また他に同じような必要がおこってきます。神が最も大切とみとめたもうことに、たからをささげるために自己を犠牲にすることによって、わたしたちは主から「よいかな」とのおほめをいただく習慣と品性をやしない、わたしたちのため貧しくなりたもうた主のみ前に、とこしえに住むにふさわしいものとなります。主の貧しさを通してわたしたちは永遠の富をつぐ者となるのです。（七丁・二九六、二九七ページ）

与えるのに飽きてしまったとき

ある人が、「み事業のために、ひっきりなしに献金を訴えられます。わたしは、もう与えるのが

いやになってきました。あなたはどうか」と言います。その時、「あなたは神のめぐみのみ手からうけることにあきましたか」と、お尋ねいたしたいのです。神があなたをお恵みになることをおやめにならないうちは、神が求めたもうものを神にお返しする義務があるのです。神は、あなたが他の人に恵みを与えることができるように、あなたを祝福なさるのです。もし受けることがいやになったならば、「あまり幾度も献金するようにすすめられていやだ」と言ってもいいでしょう。

(五丁・一五〇ページ)

働きの延長

神の民は目の前に偉大な働き、たえずより大きなものへと進んでいかなければならない働きをもっています。伝道方面におけるわたしたちの努力は、はるかに範囲の広いものとならなければなりません。主イエス・キリストの再臨の前には、今までよりもっと決定的な働きがなされなければなりません。神の民は全世界に行きわたるまでは、その努力をやめてはなりません。(六丁・二三、

二四ページ)

縮小を求めてはならない

すべての教会で献身とゆたかにささげること増し加えたもうように祈らなければなりません。兄弟姉妹方、伝道の縮小を願ってはなりません。救わなければならない魂があるかぎり、救霊に対する関心も失ってはなりません。働きを縮小すれば、主をいなむことになるのです。わたしたちはみな宣教師になって外国に行くことはできませんが、外国伝道を前進させるために献金することができます。（九丁・五五、五六ページ）

最善を尽そうではありませんか

「きたりて助けよ」というマケドニアの叫びが国内や都市や村々から、また大西洋を越え、広い太平洋を越えて大洋の島々からきたとき、わたしの心は動かされました。兄弟姉妹方、この叫びに答えて「わたしたちは宣教師と資金を送って最善を尽します。また家を飾ったり、身をかざったり、食欲を満たすことをやめましょう。そしてわたしたちに託された金銭を神の働きのために与え、わたしたち自身も神の働きのために残りなくささげましょう」と言えるでしょうか。働きの必要が目

の前に横たわっています。からになった金庫は助けをせつに求めています。働きのためには、今のドルは将来の十ドルよりもっと価値があります。

兄弟方よ、まだ機会があり、日が過ぎないうちにお働きなさい。「夜きたらん、その時はだれも働くことあたわず」ですから働きなさい。どんなにすみやかに夜がくるか、あなたにはわからないのです。今があなたの機会です。利用しなさい。もし個人的に伝道の働きにたずさわることができない人がいれば、その人は経済的な生活をして、収入をささげるようにしましょう。（五丁・七三二、七三三ページ）

外国伝道のために祈り、献金すること

兄弟姉妹方、あなたはきょう、外国に選ばれて行く人々のために祈ることを神に誓いますか。そして彼らのためにただ祈るばかりでなく、あなたの什一やほかの献金で彼らをささえることを契約しますか。あなたは世界のかなたの地域の働きをすすめるために、もっと献金をささげられるようにいっそう厳格に自己犠牲をすることを誓いますか。わたしは神の霊に動かされて、みなさまが宣教師をささえるために、毎週いくらかでもたくわえるよう神の前に誓われるようにおすすめいたし

ます。神はそれができるように助けと祝福をお与えになります。（レビュー・アンド・ヘラルド

・一九〇二年一月一日）

方法、手段のくふう

地上のキリストの教会は、伝道の目的のために組織されました。主は教会全体が方法や手段を変えて、身分の高い者も低い者も、金持も貧しい者も、真理の使命を聞くようになることをお望みに なります。みんなが直接に外地で働くようには召されているわけではありません。けれどもみんな 祈りと伝道の働きを助ける献金とによって、幾分何かをなすことができます。

熱心な信者であったアメリカの一実業家は、仲間の人に、わたしは一日二十四時間、キリストの ために働いていると言いました。「わたしは自分の仕事においても、主を代表しようとしてい ます。そして機会あるごとに人々をキリストに導こうとつとめています。わたしは一日中キリスト のため働いています。そして夜わたしが寝ている時は、中国でキリストのためにわたしの代りに働 いている人がいます」と言いました。（六丁・二九ページ）

国内伝道の発展

外国伝道の成功のためおしみなくささげ、自己犠牲の精神を示すことは、国内伝道を最も盛んにするたしかな方法です。というのは、神の導きのもとにあつては、国内伝道の真の発展は、遠く離れた国々における伝道の働きを反映しているからです。わたしたちの心は、他の人の必要を満たすために働くことによつて、すべての力の源でいます神にふれます。外国伝道地のために、神の民が示した各方面の伝道の熱心さに、主は目をとめておられます。主はどの家庭にも、教会にも働きの本部にも、暗きに座するものに光を与えようと、大いなる困難と戦いながら働いている伝道者を助けるためにおしみなくささげる精神があらわされることを望んでおられます。ある伝道地の働きを始めるために与えたものは、他の働き場所の働きを強める結果となります。（G W・四六五、四六六ページ）

神は忠実な家宰をおほめになる

神は、人間を神の家宰となさいました。神が彼らの手におあずけになった財産は、神が福音の宣

伝のためにお備えになったものです。神は、忠実な家宰であることを証明した者には、より多くのものを委託なさいます。主は、「我をとうとむ者は、我もこれをとうとむ」、また「おのおのおしむことなく強いてすることなく、その心に定めしごとくせよ」と仰せになりました。おしむことなく強いてすることなく、感謝の心をもって神の民が献金する時、神が約束なさったように祝福がくだります。「わがみやに食物あらしめんために、なんじら什一をすべてわが倉にたずさえきたれ、しかしてこれをもて我を試み、わが天の窓をひらきて入るべきところなきまでに恵みをなんじらにそぐや否やを見るべし、万軍のエホバこれを言う」(P P・五二九ページ)

かくなり得たものを

大いなる光が神のみことばから輝いています。よい機会をむだにしていることに目ざめなければなりません。すべての人が忠実に、神に返すべき什一と諸献金をする時、現代の使命を全世界が聞くように道が開けます。もし神の民の心がキリストに対する愛でみち、すべての教会員が自己犠牲の精神に徹底し、すべての人がまったき熱意を表わすなら、内地、または外地伝道の資金にこと欠くようなことはありません。資源は幾倍にもなり、多くの有用な門戸が開かれ、そこに入るように

招かれるはずです。もし神の民が世界に恵みの使命を与えて神のご計画を成就したならば、キリストは、もうすでにおいになつて、聖徒たちは神のみやこに迎えられているはずです」 （六丁・四五〇ページ）

絶えず与える者にくる絶えざるめぐみ

神のむすこむすめであると公言するものが人と神に対する責任を、什一やその他の献金において果すなら、全世界の各部門における神の働きをささえるために、金庫に十分な資金が流れ込んでいきます。彼らが与えるにつれて主は道を開き、つづけて与えることができるようになります。なぜなら、彼らは絶えず恵まれるからです。そうすれば働きをささえるため訴えるようなことはなくなくなります。主のものを主にささげるといふ原則が規則正しく組織的に実行されるならば、神に認められるようになります。「我をとつとむ者は我もこれをとつとむ」 （レビユー・アンド・ヘラルド・一八九三年五月一六日）

同情よりより高い動機

荒廃したこの世の靈的暗黒は、クリスチャンの男女に、個人的努力を惜しまず彼らの財力と感化

を与えるように訴えています。それは限らない富を持ちたもうたにもかかわらず、わたしたちのため貧しくなりたもうた主のかたちに同化されるようになるためです。神の聖霊は、真理の使命を与えられていながら、キリストの共労者としての責任を人からすすめられなければ感じないような人と共に住むことはできません。使徒は、単なる人間の同情、すなわち、感情が動かされたからでなく、もっと高い見地から与える義務を強調しています。彼は、わたしたちが神の栄光を一すじにみづめて無私の奉仕をしなければならないという原則を力説しています。（三丁・三九一ページ）

生れつきの利己心に打ち勝つこと

人間は生れつき博愛の傾向がなく、欲深く、自己のために生きるものです。サタンは彼らに、その財産をみな利己的で世的な目的のために使えば、どんなに利益があるかをつねに示そうとしています。サタンは、人が義務をさけ、神の仕えや、その他の献金を盗むように影響を与えることができる時、よろこびます。しかし、この問題についてだれ一人義務をまぬかれることはできません。「各々その得るところにしたがいて、おのが家にたくわえおけ」貧しい者も金持も、給料をもらう若い男も女も、人はみな、その一部を残しておかなければなりません。なぜなら神はそれを要求な

さるからです。各教会員が靈的に盛んになるかどうかは、個人的努力と神への厳格な意味での忠誠次第です。（五丁・三八二ページ）

家庭で子供に慈善の精神を教えよ

わたしたちの敵は、青年を放縱、ほこり、虚飾にいざなおうとしてつねに力を尽して働いています。彼らの心はこれらのことではいっばいで、その愛情には神のための場所がありません。彼はこのような方法によってこの時代の青年の性格を曲げ、知性の発達を妨げています。このサタンの働きに立ち向かって働くのは親の義務です。若い者の心に真実と真の謙遜と神のみおほねを知る知識などを保つために及ぼす影響は、みなかれらがこの時代の悪に汚されないようにする助けとなります。押しよせる悪の波を防ぐ最も効果ある一つの防波堤は、自己犠牲と慈善の習慣をやしなうことです。子供たちが利己主義やおさぼりの習慣をきらうように教育しなければなりません。神は彼らに對して聖なるご要求をもつておられますから、彼らはこうしたご要求を認めて、まじめに考察し「のりにはのりを加えて」つねにそれを心にとめるように教えなければなりません。

神は日を照し、雨を降らせ、植物をしげらせたもうことを、地は人のために豊かな作物をみのら

せて、神にたよる子らにつねに祝福を与えておられることを若いやわらかい心に植えつけなければなりません。これらの祝福は、神の賜物であるたからを保存してそれを愛し、わたしたちの利己的な性質を助長するために与えられるのではなく、わたしたちが、お与えくださった方にささげ物や献金としてそれを返すためです。これは、わたしたちが愛に富ませられる創造主にお返しすることができ感謝と愛のほんのしるしにすぎないのです。

神の働きのために働くことに子供たちの興味を起させるようにしなかったのは、親に大きなおちどがあります。多くの家庭では、子供たちにはまるで責任がないかのように問題にしないで放ってあります。ある親は、当然神のものである什一や諸献金を、子供たちのためや富を貯えるために奪うことさえあります。そうすることは、自分の愛する者のために多くの場合、滅びとなる試みの戸を開くようになることを考えないのです。彼らは、子供が自ら働く必要をとり除き、同時に、尊い働きをなし遂げるという動機をなくさせてしまっています。

もし子供たちに奨励するならば、彼らは慈善の目的のために金をもうけ、神の働きをすすめるために金をささげるに相違ありません。そしてその働きにいくらか投資したことから子供たちの興味は増すにちがいありません。彼らの小さい援助は、物質的のたすけともなり、またその努力によつ

て子供自身、肉体的に知的に道徳的にはるかにりっぱになります。勤勉と自己犠牲によって、彼らは価値ある経験を得、それはこの世の生活に成功するたすけとなり、永遠の生命を受けるたすけとなります。 (T S S・九八―一〇〇ページ)

非実際の欲求を抑制すること

もし人間が、アダムやエバが創世の時代にしたように、自然の法則に調和し、単純な習慣を持っていたなら、人類の必要は十分に満たされていたはずでした。またこれほど非実際の欲求もなく、神の方法で働く機会がもっと多くあったわけです。けれども一方ではありあまるために、また一方では足りないために、利己心と不自然な好みにふけることによって、この世に罪と不幸がもたらされたのです。 (D A・三六七ページ)

不健康な刺激は不必要である

永遠の現実性を見、心や精神や力を尽して主を愛し、おのれのごとくその隣人を愛する者は、あたかもカーテンが取り除かれ、宇宙の注目の中に働いているかのように、自分の義務をことごとく

良心的に果します。クリスチャンが心よりささげる精神は、それを実行すれば強められるもので、不健康な刺激は必要ではありません。キリストの心であるこの精神を持つ者は、すべて心よく主の倉にささげ物をたずさえることでしよう。キリストへの愛、キリストが死にたもうた者への愛に感動させられて、忠実に自分の分を尽すように熱心になることでしよう。（レビュー・アンド・ヘラルド・一八九三年五月一六日）

小さいささげ物の収入

両親は、神が彼らに命じられたように、子供たちにおきての教えをあたえませんでした。彼らは子供に利己的な習慣を教えてしまいました。誕生日や休日、贈り物をもらったり、世的な習慣やならわしに従う時であると思うように教えてしまいました。こういう時は、神を知る知識を増し、もう一年、生命を神が恵みと愛の中に保つてくださったことを心から感謝する時であるのに、自己をよろこばせ、子供が自分を満足させ、自分に栄えを帰したりする時になっています。子供たちはこれまでたえず神の力によってささえられてきました。けれども親は、子供たちに、そのことを考え、神の恵みに対して感謝を表わすことを教えません。もし子供や青年がこの時代にあっても正し

い教えを受けるなら、彼らのくちびるから、どれほどのほまれと賛美と感謝のことばが神にささげられることでしょう。また小さい子供らの手によって、どれほど多くの小さなさげ物が感謝のさげ物として主の倉に納めいれることでしょう。子供らは神を忘れないで、よく神を覚えるようになるでしょう。（レビユー・アンド・ヘラルド・一八九四年一月一三日）

誕生日献金

ユダヤの制度では、子供の生れた時には、神ご自身の定められた方法に従ってささげものをしました。ところが今では、親たちが誕生日に、子供に贈り物をしようとして苦労しているのが見えます。親はあたかも人間に栄えを帰すのを当然のように思って、誕生日を子供に栄えを帰す機会にしています。サタンにとってはこのことは自分の思う通りになっています。彼は人間の心とささげ物を人間におけてしまいました。このようにして子供らの心を自分たちにおけ、そのため自分が特別な贈り物を受けるものであるように思いこませてしまいました。神の倉に献金となってもどり、乏しい人を祝福し、真理の光を世界に伝えるべきものが、その正しい道からはなれて、虚栄とか誇とか自己尊重などを助長して、益をなすより害をなすことがよくおこるのです。誕生日には、神がそ

の愛とあわれみの中に、もう一年、生命をささえてくださったことを神に感謝しなければならないことを子供に教えなければなりません。こうして尊い教訓を教えることができます。永遠の生命の望みを与えられていると同時に、この生命や健康、食物や衣類などはみなすべてのよきものの与え主、神からいただいたものです。ですから神の賜物に対して感謝し、わたしたちの最大の与え主である神にささげ物をささげなければなりません。こういう誕生日献金は天にうけ入れられます。

（レビユー・アンド・ヘラルド・一八九〇年一月九日）

神の保護と愛を思い出すため

誕生日やクリスマスや感謝祭などは、神の恵みや愛やあわれみを考えるべき時であるのに、利己的な満足のために用いられることがよくあります。毎年このいう時期に、神の恵みと絶えざる保護と愛を考えないということは、神をたいへん悲しませます。（レビユー・アンド・ヘラルド・

一八九〇年一月二三日）

神のご要求を第一に置くこと

神のご要求は第一です。わたしたちは自分のいると思うものを全部満たした残りを神にささげる

ようでは、神のみこころを行っているではありません。それで、収入を使い始める前にまず神の求めたもうものをとって、神にささげなければなりません。昔の制度においては、感謝のささげ物が祭壇の上でつねに燃えていて、神に対する人間の絶えざる義務を示していました。世的な仕事で栄えたなら、それは神が祝福してくださったからです。それで収入の一部は、貧しい者のためにささげ、さらに多くの部分を神のご用のために当てなければなりません。神がお求めになるものを神にささげるならば、その残りはわたしたち自身のためきよめられ祝福されます。けれども神の求めたもうものをささげず、神から盗むならば、その収入全体に神ののろいがおかれます。（四丁・四七七ページ）

わたしたちの聖なる模範

救いの計画の基礎は**犠牲**です。イエスは天の宮を去り、彼の貧しきによってわたしたちが富める者となることができるように貧しくなれました。神の子のこのような無限の犠牲の価をもって買われたこの救いにあずかる者は、みなこの真の型イエスの模範にならいます。キリストはすみのおや石で、わたしたちはこの基の上に建てなければなりません。おのおの自己犠牲の精神を持たなけ

ればなりません。(三丁・三八七ページ)

キリストは心からの愛の行いを尊ばれる

キリストは心からの好意の行いを尊びたまいます。だれが彼に親切な行いをしても、主はいつも天来の礼儀をもって、その人を祝福なさいました。子供が、つんだ一輪の花を愛をもって彼にささげたならば、それを拒みたまいませんでした。そして子供たちのささげ物をうけ入れ、彼らを祝福し、彼らの名前を生命のふみに書き入れました。聖書には、イエスに油をそそいだマリヤを他のマリヤと区別して記録しています。イエスへの愛と尊敬の行為は彼が神の子であると信ずる信仰の証拠であります。(DA・五六四ページ)

真心と、心からよろこんでささげるささげ物で、小さい献金というものはありません。(CO
L・三五九ページ)

神のものとわたしたちのもの

神がご自分の働きを前進させるために定めたもうた唯一の方法は、人々に持ち物をお与えになることです。神は人々に日光と雨とお与えになって植物を生えさせたまいます。また人に健康を与

え、富を得る力をお与えになります。わたしたちは、彼のゆたかなみ手よりすべての祝福を受けます。そのかわり神は、人々が什一や諸献金、すなわち感謝献金、自由献金、罪祭のささげ物などをささげて感謝を表わすことを求めておられます。（五丁・一五〇ページ）

愛のささげ物の最高の効果

神は、心からの愛のささげ物を尊び、それを神への奉仕のために最も効果的にお用いになります。もしもわたしたちの心をイエスにささげるなら、そのようにわたしたちは主にささげ物を持つてくるはずです。わたしたちの金も銀も、この地上のどんな尊い宝も、どんな知的、靈的才能も、わたしたちを愛しご自分をささげられた主のために惜しみなくささげられます。（D A・六五ページ）

繁栄の条件

宗教的、慈善的事業のためにささげるようにヘブル人に要求された額は、その収入の四分の一のほりでした。このように税が重ければ人々は貧しくなってしまうだろうと思われませんが、かえて、これらの規則に忠実にしたがることは、彼らの繁栄の条件の一つとなりました。彼らの服従を条件として、神はつぎのお約束を与えておられます。「われまたかみ食らう者をなんじらのため

におさえて、なんじらの地の産物をやぶらざらしめん。またなんじらのぶどうの木をして時のいたらざる前にその実を畑に落さざらしめん……また万国の人なんじらを幸福なる者となえん、そはなんじら楽しき地となるべければなり万軍のエホバこれをいう」 (P P・五二七ページ)

献金の動機の記録

わたしは記録天使が神にささげられるすべての献金の記録を忠実にとって、それを倉庫に入れ、そしてその資金が最後にどういう結果をもたらしたかというのを記録しているのを見せられました。神の御目は神のご用にささげられるすべての金銭をごらんになり、ささげる者がそれをよろこんでささげたか、惜しみながらささげたかもごらんになります。献金の動機も記録されます。神が要求になるように神のものをお返しする犠牲的で献身的な者らは、その行為に応じて報いをうけます。たとえこうしてささげられた資金が、あやまり用いられて、献金した人の考えているような目的、つまり神の栄光と魂の救いという目的を達成しないとしても、ただ神の栄光を目的として真心から犠牲をした人は、決してその報いを失いません。(二丁・五一八、五一九ページ)

第六部 運営上の指導原理

第六部 目 次

目的に従って	173
形式主義の害	175
安息日学校の働き人の献身の必要	177
安息日学校の働きのための訓練	178
神に信頼すること	179
たゆみなき忠実の必要	182
成功を収める協力	182
成功に必要な聖霊	183
真の指導者の不足	187
組織的ではあるが霊に欠ける	187
役員の選挙	188
校長へのすすめ	189
子供の観察	193
時間励行	194
定刻に始める	194
誤った生徒の処置	195
尊敬を得る方法	198
自分の子供時代の経験をおぼえよ	201
沈黙の力	202
訓練と秩序の必要	205
自制を保て	205
けん責、非難、小言は無用	206
競争と賞品	207
安息日学校と教会の礼拝	209
グループの安息日学校	209
キャンプミーティングの安息日学校	210
地方の講習会	211

第六部 運営上の指導原理

目的に従って

機械的な手はずなどのために他の大切なことの時間をとってしまったて、安息日学校の目的を見失ってはなりません。わたしたちの働いている目的をおおってしまうような形式にいつも気をつけなければなりません。あまりにも組織を極端に実行して、安息日学校をあきあきしたものにする危険があります。ほんとうはその反対に、心地よくすがすがしい祝福とならなければなりません。

宗教的のことに十分な時間がないほどにいろいろの変ったプログラムをして、安息日学校の清らかさと単純さを失ってはなりません。学校の成功は、その単純と、熱心に神に仕えることにあるのです。順序やきまりがなければ何もできませんが、さらに大きな、大切な義務を見失ってしまったはいけません。外面上の予備的なことや組織のことはあまり生徒にいわなくともよろしい。もっと

彼らの魂の救いについて言わなければなりません。これが学校の規則にならなければなりません。

冷たい形式の危険

イエスの昔の愛の物語を、教師や校長が心にイエスの愛をもって生徒に話すならば、心を打ち、悔い改めに導きます。あなたの心がイエスの愛とあわれみに触れるとき、あなたは生徒のために働くことができます。福音の単純さを心に留めていなければなりません。上よりの助けによって主のために忠実に働くことができます。心の働きがなければ、ほかの努力はみなむだであることを先生はいつも念頭におかなければなりません。

教師や学校運営の任に当たっている人は、何をするにも同情と愛をもってしなければなりません。冷たい形式の代りに、熱とエネルギーを置かえなければなりません。生徒にこれが最高の教育であるとさとらせるために、イエスの愛が学校全体に満ちていなければなりません。厳格さやあらさがしが学校や安息日学校の中にみられてはなりません。これは学校の指導に当るすべての人の心から遠く捨て去らなければなりません。

学校の形式や、機械的な運営について誇ってはなりません。それよりもイエス・キリストに魂を

導いたりした良いことを誇らねばなりません。機械は人の思うままにきちんと仕事をするように作ることができます。しかし魂が入っていません。そのように、形式が第一を占めている学校では、石と同じように生命がありません。関係者が全部自分の責任を自覚し、この世のためばかりでなく、永遠のために仕事をしていることを感じるならば、どの部にも秩序と調和が見られることでしょう。(T S S・八九、九〇ページ)

形式主義の害

組織そのものが悪いものではありません。害というのは、組織万能にして、生きた敬虔ということをおおにしないからです。形式や機械的のことを第一にすると、簡単にすべきところをたいへんな努力が払われて害になり、その努力のわりによい結果はないのです。組織の目的は全くその反対です。もしも組織をなくしてしまえば、今まで建てたものをくずしてしまうようなものです。安息日学校や信徒伝道会において、機械的のことをあまり重要にして、大切な経験を見失って害をもたらしたのを見ました。改良と思われることが多くなされましたが、人間的の型がおされたにすぎませんでした。安息日学校では、霊的でない人、また委ねられた仕事に何の生きた興味もない人が、教

師または役員として受け入れられています。しかし物事を秩序よくすることは、聖霊の助けによつてのみできるのです。…

多くの者が神に全くみずからをささげ、そのタラントを安息日学校に用い、つねに知識に進み、どういう方法が一番よいかを人々に教えられるように自ら学ぶならば、全くありさまは変わってしまうことでしょう。けれども劇や音楽などに時を費して、何か見せ物をするのができる方法を求めてはなりません。これはだれにも益を与えません。特別なプログラムのために子供たちにスピーチをさせるように訓練することも役に立ちません。人に見せるために時や金を費して努力するかわりに、子供たちをキリストに導き、収穫の束を集めるため全努力を向けなければなりません。

学校を組織して、生徒たちを、きめられた儀式や形式に従って行動させることが安息日学校のためにはいせつな働きだと思っている人が多いようです。また先生になる人がありさえすれば、安息日学校はひとりでに動くもののように思っています。教師になった人が、自ら主の尊さを心に知っていないために、魂をキリストに導くことができない場合がよくあります。キリストが彼らに求められるように魂の価値を知って、魂のために働こうとしない者は、みなキリストから散らしてしまいます。つぎの聖句に注意してください。「われとともに集めぬ者は散らすなり」もしも教師が魂をイエス

に導こうという重荷を負わないならば、真理に無関心になり、不注意になり、彼らの感化はかえって魂をキリストから散らしてしまいます。このような分子が安息日学校にあれば、いつも争いや困難が起ります。教師は仕事に従事していながら興味をもっていないならば、生徒も同じ気持を持つようになります。（F E・二五三、二五四ページ）

安息日学校の働き人の献身の必要

安息日学校の働きにたずさわる人は、みずからを神にささげた人でなければなりません。強い信仰と温い同情をもち、熱心で、キリストの働きのことなら何にでも興味を持っている人でなければなりません。無私の努力をもっておのれを働きにささげ、どんな犠牲を払っても自分を祭壇にささげて、委ねられた若い者の改心のために大きな嘆きと祈りをもって執りなす人でなければなりません。主のため安息日学校において働こうとする者は、利己的の野心をみな十字架につけ「何事にまれ、徒党また虚栄のためにすな、おのおの謙遜をもて互に人をおのれにまされり」と「することであり、安息日学校の働き人の第一の願いは、若い者に、神をおそれ、単純さをもって彼らの義務を果すように教えることです。

安息日学校の大きな欠点は、組織の欠乏ではなく、霊的事柄の知識に欠けていることです。働き人は聖霊のバプテスマを受け、神のため真の伝道者となることをどんなに必要としていることでしょうか。聖書の真理をもっとよく知るために、頭を最大限度に働かせることを学ばなければなりません。安息日学校の教師は、聖書の宝を若い者の心に開くことができるよう、天より光を与えられることを毎日祈らなければなりません。主のみ前にみずからへりくだって、聖霊の感化がその品性と働きにあらわれるようにされてはいかがですか。安息日学校の働きにたずさわる人々は、あまりにも、ひとりよがりです。また、あまりにも組織やきまりがあって、これはみな、生ける水の泉から魂をはなれさせてしまいます。（T S S・七三、七四ページ）

安息日学校の働きのための訓練

わたしどもの中には、教育を受けた人が少なく、安息日学校や教会の運営の働きをするため十分な訓練を受けた人はありません。真理を知っている人もそれをじょうずに人に話すことができるほど理解していません。真理の神聖さと尊さを人にはつきりわからせるように話す備えがないのです。訓練を少なくするどころか、もっと行き届いた訓練を受けなければなりません。自分は何に召され

るかを予告できる人はありません。すぐに物事を見わけ、よく整った議論を必要とする境遇にいつ置かれるかわかりません。ですから、よく教育を受けた働き人がふえることは、キリストのみ栄えです。その人は、真理をはっきり賢く伝えることができます。そして真理は、できる限り欠点を少なくして人々に示さなければなりません。（F E・二五六、二五七ページ）

神に信頼すること

わたしどもの安息日学校は、主が望みたまうほどのものではありません。なぜならば、あまりにも形や組織に頼りすぎています。そしてキリストは魂のために死にたまいましたが、それらの魂の改心のためには、神の生命を与える力があらわされていないのです。安息日学校がそのたてられた目的に沿おうとするならば、これはどうしても変えなければなりません。校長や教師がすべてを神にささげるならば、ただ決心するばかりでなくて、決心を実行に移します。安息日学校や教会小学校の働き人が、神に頼らなければならぬことを十分自覚して、その適当な働きに入るならば、キリストの恵みが与えられて、人間の努力と一致します。人が罪をさとして改心するには、人の努力と神の力との協力によるものであることをすべての働き人が知ることが大切です。

魂を救う伝道

安息日学校の校長や教師は講壇に立つ牧師と同様の全き献身を、持ちつづけなければなりません。なぜならば、みな同じくキリストに魂を導く働きをしているからです。おのおのがその立場でキリストのように愛の精神をもって、誤りを犯した者や、悔い改めようとしない人々のために働かなければなりません。キリストは、安息日学校がこつした働きをするのをお望みになります。…天の父の顔を見る神の天使は、あなた方が神の生きた代表者として救いの道を教えている子供たちや青年たちの顔を見ています。校長や教師方よ、このことを考えてください。あなた方は天使の前で働いているということを。そしてその働きのぐあいによってキリストへの忠誠をあかしすることもでき、不忠実をあかしすることもできることを。…

聖霊にたすけられる

安息日学校の校長や教師は、悔い改めた人で、習慣的な冷淡さより救われていなければなりません。尊い真理の教えを退屈な活気のない方法で教えず、日ごとに主と交わり、毎日義の太陽から輝

く光を受けて魂をキリストに導く努力に生命を与える力を加えねばなりません。いつも心にキリストのことを思い、思想も心の動きも霊的なもので、教え方も聖霊に導かれたものでなくてはなりません。聖霊が人の心に豊かに与えられるとき、人々は最善の努力を尽すようになり、神が彼らの中に働いてみ旨を行わせ、神のよろこびたもうことをさせるのです。

「なんじらわれをはなれば何事をもなしあたわず」とキリストは仰せになりました。働き人は一人でいる必要はありません。神の霊が与えられる目的は、彼がみ旨を行い、神のよろこばれることをして、肉の備えをしたり肉の欲をみたすことをしないようにするためです。教師方よ、聖霊の導きに従ってください。神の霊が子供たちや青年の心をひいておられる間、あなたも、柔和と愛をもって招き、彼らが心を神にささげるように訴えることができます。

子供たちや青年は、キリストによって買われた者です。測りしれぬ価をもって買われた者です。イエスは子供らをお愛しになります。あわれみをもって青年をながめられます。悪魔が広い道をよく見せて、そちらへ誘惑しようとしているのをご存じです。そしてイエスは、この未経験な魂を家で、学校で、安息日学校などで、特別に守るように、天使にお命じになります。聖霊は絶えず彼らに働きかけ、神に近づけようとしています。神と共に働く人は、自分の責任を感じ、魂をキリスト

に導くよう熱心に働きます。(T S S・四一—四四ページ)

たゆみなき忠実の必要

神の聖徒たち(カレブ、ハンナ、ドルカス)のように、忍耐強く、熱心な祈りの精神をもって、あくまで忠実に仕えるということは珍しいことです。しかしそれがなければ教会は栄えません。教会でも、安息日学校でも、社会でも、それが要求されています。(T S S・一〇九ページ)

成功を収める協力

安息日学校の働き人は特にキリストの霊に満たされていなければなりません。彼らの心に、信仰によってキリストが内在しておられないならば、キリストと共に働くことはできません。…子供たちにはもっと積極的に宗教的教養に力を注いで教え込まなければなりません。指導者と教師は力を合わせて一致して働かなければなりません。両親、子供、教師たちの協力がなければなりません。働き人はみな、知恵と技巧が与えられるように努め、神がもてたもうような、心を注いだ熱心な努力ができるようにしなければなりません。気転と鋭い識別力を養い、善をなす機会をすみやかに

みとめ、その機会を最善に用いるようにしなければなりません。（T S S・二〇ページ）

成功に必要な聖霊

安息日学校の役員も教師も、彼らが真の教育家となり、思想を啓発し、生徒に教えたことを思い起させるために、聖霊の導きと教えが必要です。キリストのみことばとみ働きをはっきり心にわからせるのは聖霊の働きで、聖霊は、世の救い主について教える者が、組の者の心の前にキリストを高く揚げる力を与えます。安息日学校の校長、役員、教師といった責任ある地位を占める人に、神の人が選ばれるように安息日学校のすべての面において聖霊の助けが必要です。

いつも運営を一人の人にまかせることは賢明ではありません。その人自身の考えなり理想なりで安息日学校を型に入れてしまうからです。新しい思想を与え、学校を霊的生活に向上させるような人がいなければなりません。安息日学校は、長い間忠実に働いてきた人によくなれて、離れにくいかもしれませんが、教師や生徒の好みよりも学校全体の利益を考えなければなりません。人員を変更して、心に魂への重荷を感じている人々を入れることによって、学校が利益をつけることがはっきりわかったならば、何ものにも変更を妨げられてはなりません。自己を高める野心を持たない人

であるならば、たとえこのようなわけで退いても、安息日学校の生徒の進歩向上に役立つことならどんなことでも心から協力します。年をとった経験者は、神の働きを進めるこつを心得ています。若いまだ働きになれていない人は、与えられた仕事を忠実になしとげた年長の兄弟たちの模範にならない、よきわざになくなくてはならぬ成功を得るため、知恵と気転を習得しなければなりません。…

大切な問題

教会の中に真理にしっかりと根をおろして、堅く立っていない人が多いのは、どういうわけでしょうか。教会の中に、暗きの中を歩み、冷淡な、真心のこもらない不平ばかりのあかしをいう人が多いのは、どういうわけでしょうか。また禁じられた道にさ迷い出ようとする人、また試みに負けた悲しい話をいつもする人がいるのは、どういうわけでしょうか。教会員はその責任を感じているでしょうか。長老や執事は、弱いさ迷う者の世話をしているでしょうか。ためらっている者は、自分の魂を失う危険にあることを自覚しているでしょうか。教えと模範とによって、さ迷う者の足を永遠の岩の上に置くように努力したでしょうか。安息日学校の教師や役員は、若い者の足を安全な道に導くことは、自分たちの仕事であり、主のために魂を得るためには、利己的利益などは考える

べきでないことを知っておられるでしょうか。働きの各部門に断固とした改革がなされなければなりません。

光を与える力

安息日学校の働きには驚くべき機会があるのにこれらは見すごされています。いろいろの賜物を持った人がこの働きに加わり、神をおそれつつ青年を救うために最善をつくしましょう。物事を組織的にする人に学校全体を指導させ、一定の形式的な形をつくり上げてしまつて、それでいて多くの細かい規則のために生命を失つてしまうようなことがあってはなりません。秩序をもつてすることとは大切ですが、規則などとともに多量の霊的知識が必要です。わたしどもの学校を、眞の敬虔と純潔な雰囲気満たされるようにし、また眞の宗教的進歩が見られるようにし、学校中に神をおそれる精神がみなぎるようにし、校長も役員も死んだ形式で満足せず、学校を世界中で一番りっぱな力あるものとするように、あらゆる努力をするため、生命を与える力、熱心、眞の活発さが必要です。これが学校のすべての働き人の目的、大望でなければなりません。

真の校長を求む

わたしたちの学校の指導者はするどい直観力をもった人、聖霊を与えられて人の心を読むことができる人、運営の才能を持った人、性格の違った面を理解できる人、またいろいろの違った心を持った人を扱う気転と知恵をもった人でなければなりません。名前だけの校長の地位を占める人は多いですが、ほんとうの校長として、その地位を占める人が必要です。形式だけを巧みに指導できる人は多いですが、彼らは勇氣と希望を与え、考えさせ、活動を起こさせ、生命をわけ与えて、学校をして善をなす、生きた、成長しつつある力となすことはできません。

また教師たちのしなければならぬ大きな働きがあります。子供たちを導き、彼らの心を伸ばすにはどう働けばよいかを知るために努力しなければなりません。青年や子供たちを巧みに扱うには上よりの知恵がなければなりません。教師の中には、近視眼的な人が多いです。そういう人は青年をよい方へ導かず、そこには進歩の代りに退歩が見られます。教師にも生徒にも聖霊が与えられることが必要で、ときどき改革をおこすのではなくて、つねに恵みに成長し、絶えず靈的生命と力を受けるようにならなければなりません。

(T S S・九一一九四ページ)

真の指導者の不足

わたしどもの子供たちや青年を教える安息日学校は、あまりに皮相的です。指導者はもっと深く耕す必要があります。もっと考え、もっと熱心に仕事をしなければなりません。聖書をもっと詳しく研究し、もっと深い信仰経験をもち、主にならって安息日学校を開く方法を学び、子供たちや青年を救い主に導くことができるようにならなければなりません。自分に与えられた才能を用いることに神への責任を感じている人、自己を示したり、虚栄を求めたりしないで、ただ良きことをなし、能率的で、物をよくわきまえた人々がいないために、この方面の働きが十分になされていません。

(T S S・一一一ページ)

組織的ではあるが霊に欠ける

わたしたちの活動は、もっと高い向上したところにこななければなりません。イエスの霊が働き人の魂を活気づけるようにしましょう。そうすれば彼らの計画も働きの方法も、イエス・キリストに魂を導くものとなります。大きい教会などでは子供たちも青年もたくさんいるので、安息日学校を

ただ単なる形式にして、機械的に行うばかりで、靈に欠けたものにしてしまう大きな危険があります。そこにはイエスが欠けているのです。（T S S・一四ページ）

役員 の 選挙

クリスチャン婦人は、青年や子供たちによい感化を及ぼすことができます。彼らの才能は神より賜わったタレントですから、主のご用のために全くささげなければなりません。物事の分別があり、テキパキやれる人は多いですが、神にもっと近く結ばれる必要があります。彼らは品性を向上させ、青年に神の与えたもうた才能の用い方を教える新しい方法を求めなければなりません。

役員の選挙の時は、人の好みによらないで、真に神を愛しおそれる人、神を相談相手とする人であると信じられる人を、信頼された地位に選ばなければなりません。神に対する愛もなければおそれもないとすれば、どんなに賢い人でも失敗です。イエスは、「われをはなれば何事をもなしあわず」と仰せになりました。選挙は、安息日学校の生徒にまかせておいてはなりません。時おり役員を変えることは、学校にとってよいことです。一人の人の考えが、多くの人を型に入れてしまつてはいけなからです。その人は何かりっぱな資格をもっているでしょうが、また欠けたところ

があります。他に選ばれた人は前任者の欠けた面にすぐれた才能を持っているかも知れません。違った頭や力量が新しい思いつきや考えを持ってきます。それが必要なことなのです。しかし、ほかの何物よりも、単純な魂の持ち主で、真理の中を歩み、神を愛しおそれ、神の学校で教えを受けるといった人を選ばなければなりません。このような人こそ、生徒を進歩向上させます。賢明な教師のもとにあつて、生徒たちは神のみことばに深い興味を感じ、さらに理解を深めることができます。どの教課でもキリストをその主題にしましょう。キリストが弟子たちに与えたもうた教訓は何よりも大切です。（TSS・八三、八四ページ）

校長へのすすめ

安息日学校では熱心にしなければならぬ仕事があります。そして運営の任に当たっている人は、知恵と気転をもって働かなければなりません。心に働きかけ、正しい感銘を与え、品性の正しい型を与えることは、りっぱな大切な働きです。いつも教え込もうとばかりしないで、生徒の才能や力量をひき出そうとする人は賢明な教師です。

安息日学校の校長の義務について、いろいろの人から質問の手紙をいただきました。教師や生徒

の心に、深い興味を起すことができないといって憂えている人がいわれるには、わたしはその人々のために大切であると思うことについては、時間をとっている話しましたが、それでもまだ興味は大いに欠けていますとのことでした。信仰的に心を動かされていないのです。このまじめな兄弟にも同じような困難のもとにある人々にも申しあげます。この宗教的興味の欠乏の責任の大半は自分にあるのではないかと反省していただきたいのです。

長々した話

自分であまりしすぎる人が多く、彼らは、教師や生徒のできることをするように励ますことをしません。彼らは単純と宗教的熱心を一層必要としています。安息日学校でも教師会でも長い無味乾燥な話をして、教師や生徒の心をつかれさせてしまいます。そのような話は場所はずれです。学校のほんとうの必要について話をしませんから、心をひきつけることができません。それというのも彼らが霊的同情に満たされていないからです。長い話をして、安息日学校に対する興味も愛もなくしてしまっていることに気がつかないのです。・・・

働き人の心が、キリストと一つになり、生きた信仰によって、キリストが彼らの心に住みたまう

時、今しているような話の半分もしなくなれば、りこうさの半分もあらわしたりしません。そして愛をもって単純に言うことは心を動かし、教師と生徒と教会員とが親しく交わるようになります。

単純の力

真の教育家は聞く人の心を自分にひきつけます。ことばは少なくとも熱心です。心からのことばですから同情にみち、尊い魂への愛に満ちて暖かいのです。教育はさほどなくても、才能はわずかしかと与えられていなくても、働きを愛し、謙遜によるこんで働こうとする努力が教師や生徒に深い興味を起させることができます。若い者の心は彼にひかれます。彼の働きは単なる形式ではありません。また教師や生徒から、霊的、知的の尊い宝石を引き出すことができ、他人を教えているながら自分を教育することができるのです。生徒は深い知識を見せつけられて恐れるようなことはありません。教課から何を学んだかを単純なことばで表現します。その結果、学校に深い生きた興味が起ります。キリストの福音の単純さを通して彼らのいるところへ達したのです。彼らの心はとかされます。こうして主の像に従って彼らを形づくることができます。

するどい知能は役に立つかも知れません。しかし教育家の力は、世界の光と生命なるイエスに彼

の心が結びついていることにあります。彼は人類を愛し向上させようといつも努めます。いつも他人を責めたりせず、心は同情に満ちています。また自分を偉い者であると思ったり体面を保つことばかりを考えたりせず、イエスの謙遜をそのまま彼の生涯に表わします。「われをはなれば何事をもなしあたわず」とのキリストのみことばの真理をよく感じます。このような教師が大いに要求されています。神は彼らと共に働きたまいます。「われは柔和にして心ひくければわれに学べ」とキリストは仰せになっています。安息日学校に働いている人の多くは天よりの光を必要としています。彼らは、自分たちの働いているところの人々の必要を理解することができる霊的視力を欠いています。……

批評やするどさは避けること

校長方、教師や生徒の前でしかなかったり小言を言っただけではありません。学校によい感化を及ぼそうと思えば、鞭を捨て、すべての者をあなたといっしょに引っぱって行くような、天を思わせる感化を及ぼすことです。計画をたてたり学校の規則をつくったりする時、できるかぎり学校の声を代表するようにしましょう。ある学校ではするどい批評の精神があります。形や規則を重大視して、もつ

と重要なこと、すなわち神のあわれみや愛が無視されています。みな快活になりましょう。もしもだれか心に雲がかかっていれば、まず日光にあたってから安息日学校に入ることになしましょう。いつも失望ばかり話したり、子供たちにも感謝の心がないといって子供たちに不平ばかり言うおかあさんは、子供たちを正しく治めることができません。教師や校長のあなたもそうです。この点に欠けていることに気づけば、そのようなことを口に出して感化力を弱らせることなく、かえって静かにそれを正すような感化を与えることです。よく組織された、よく訓練の行きとどいた学校ができるように計画をたて研究してください。（TSS・一六―一九ページ）

子供の観察

安息日学校のある校長が、あるとき話をしていましたが、その話は無味乾燥なものでした。ある母親が十才になる娘に、話がおもしろかったかどうか、「先生は何を話しましたか」とたずねてみました。女の子は「あの人は話して話して話して、何も言わなかった」と言いました。わたしたちの働きについてそのように言われたくありません。わたしたちは働きのためできる限りのよい教育を受けて、学んだことを人に教えるのに成功したいものです。（TSS・一一―、一一二ページ）

時間励行

安息日の朝いつも時間にあくれる人がたくさんあります。まことに悲しいことです。しかしこの人々は、自分たちのことには時間を正しく、一時間もむだにしません。主がわがものであると仰せになった七日のうちの一日の主の日は、主にささげるように要求されているのに、相当の時間が朝寝のため浪費されています。これは神のものを盗んでいるのです。こうして何にでも遅れます。家庭も混乱します。ついには家族全体が安息日学校におくれ、ときには集会にも遅れたりします。なぜ鳥と一緒に起きて、神に賛美と感謝をささげられないのでしょうか。兄弟姉妹方よ、そうしてみてください。前日に準備を全部整え、安息日学校や集会に早く行きましょう。こうすれば人に益を与えるばかりでなく、自分も豊かな祝福を受けるのです。（ユース・インストラクター・一八七九年三月一九日）

神の働きにおいて時間励行と決定が非常に重要なことです。（三丁・五〇〇ページ）

定刻に始める

相談と祈りのための集会は長くしてはなりません。できればみな定められた時間どおり集まらな

ければなりません。もし三十分、十五分おそい人があっても待つてはなりません。ただの二人であっても約束どおり恵みを求めることができます。集会は人が多くても少なくとも、できれば定められた時間に始めなければなりません。（レビユー・アンド・ヘラルド・一八七一年五月三〇日）

誤った生徒の処置

安息日学校の働きをしていて、誤った者、罪と過失に陥った者についてどうすべきか相談しなくてはならないことがあります。誤った者については、キリストがみことばの中にはつきり教えておられます。しかしこの教えを実行しない人が多いのです。彼らはこれを学んで心にたくわえていないので、聖霊が暗くなった理解に光を与え、教師や生徒の石のような心をとかし、また、それを砕くことができません。聖霊は心を感じやすく同情深くし、誇や利己心を取り去ります。

安息日学校の生徒はいたずらして教師を困らせるようなことをしがちです。けれども教師は、するどいことばを言ったり、短気をおこしてはなりません。そうすればそれは霊の剣を用いているのではなく、サタンの武器を用いているのです。たとえ生徒のいたずらはまことに困ったことであり、悪を正し、規則を守り、正しいことを尊ばねばならないとは言っても、教師は主の道に従い、正義

にあわれみをまぜなければなりません。カルバリーの十字架をながめ、そこであわれみと真実が一つになり、義と平和が一つになっているのを見ましょう。そこで神の犠牲によって人間は神と和解できるのです。キリストの愛をよく黙想すれば、心はとかされ、主の家族の若い者らを扱うことができるのです。彼らはキリストのものであることを思うとき、キリストが自分を扱いたもうたと同じように彼らを扱おうという気持が持てるようになります。

きびしい取扱は、青年に誤りを認めさせ、改革をうながすに何の役にも立ちません。学校の規則はイエスの精神によって実行し、けん責しなければならない時は、このしたくないことを悲しみと愛とをまじえてすることにしましょう。その生徒をみんなの前で責めて、学校全体の前ではずかせる義務があると思っではなりません。これは子供たちに見せるよい模範ではありません。似たような収穫を結ぶ種になるからです。知らさねばならない人々以外には、生徒の誤りを語ってはなりません。もし言ったりするとまちがったことをした人に同情が集まり、不正に取り扱われたという感じを持たせます。悪を行った人を公表すれば、彼はサタンの戦場になげ出され、その時から続いて墮落してしまうかも知れません。主はわたしたちのために長く耐え忍んでくださいます。わたしたちもキリストのようにならなければなりません。キリストはわたしたちが間違ったからといって

捨てたまわず、やさしくけん責して愛をもって彼自身にわたしどもを引き寄せたまいます。

知恵と忍耐を必要とす

教師がもしも、ある生徒を組の訓練にどうしても従わせることができれば、この生徒をほかの組に移したらよいでしょう。それは欠けたところをほかの教師が補ってくれるかもわからないからです。一教師に欠けたところを、他の教師が持っているかも知れません。しかしもし少年の信頼を得ることができ、同情と愛のきずなで彼の心をあなたの心に結びつけることができれば、キリストに魂を導くことができるかも知れません。わがままな、言うことをきかぬ少年の品性は一変することがあります。

生徒に愛と同情をあらわすことは必要ですが、不公平を示すことは、弱さをあらわし、これによって疑いやねたみをひき起します。子供はすぐ教師が**ひいき**しているのを見破り、**ひいき**された生徒はクラスを教えている教師と自分の力量、才能などをくらべるようになります。そして自分が指導者になろうとすることもあります。その時、教師にキリストの恵みがなければ、弱さをあらわし、忍耐力を失い、やかましく、きびしくなります。また組の指導的生徒の精神は、ほかの生徒にも移

って、みんなが指導者になろうとします。もし教師がキリストの恵みによって自制し、しっかり忍耐よく物事を処理すれば、騒ぎ出そうとする分子をしずめ、教師の自尊心を保ち、生徒の尊敬も得ることができます。一度秩序を回復したら、親切、やさしさ、愛情をあらわすようにしましょう。さわぎは何回でも起るかも知れませんが、短気を起してはなりません。悪い生徒にきびしく話してはなりません。悪の勢力とたたかっている魂を失望させてはなりません。静かに神に助けを祈りもとめましょう。天使はそば近くきて、敵に向かって旗をかかげるのを助けてくれます。そして、誤っている者を切りはなさないで、かえってキリストに魂を導くようにします。(T S S・七七―八〇ページ)

尊敬を得る方法

教師は、問題がどんなにおずかしいものであっても、イエスの精神をもって向かわなければならぬことをおぼえましょう。争いに争いをもって向かつてはなりません。わがまま、がんこ、なまけ、ふざけなどを扱わなければなりません。どんな場合にも親切と愛をあらわし、忍耐と自制によって、生徒の愛を失うことなく、ただ生徒のためを思っているということがよくわかるようにし

なければなりません。生徒を信頼していることを示さなければなりません。生徒の家をたずね、また自分の家に招き、ことばのみでなく、行いとまことをもって愛していることを表わさなければなりません。

教師は何も威厳をつけたりすることはいりません。なぜなら、生徒の尊敬をえる方法は、キリストのような態度をもち、親切とクリスチャンの礼儀によるほかはないのです。教師は、イエスが弟子たちを教育なさったように教育しなければなりません。どんなに時がたっても消えない印象を残さなければなりません。彼の感化は生徒を神の型なるイエスに従って形造らなければなりません。そうすれば、ただ永遠のみが彼の働きの価値を告げることができるよう。教師は、生徒の心の中に道德的性質を目ざめさせ、神が働きかけられるのに答えようとする望みを起させるようにしなければなりません。

意志をくじくこと

利己的で気おずかしく、独裁的で乱暴で、人の感情を何とも思わないような人を教師に雇ってはなりません。こういう人は、生徒に恐ろしい感化を与え、自分の型の通りに生徒を教育し、悪を継

続します。この種の人は、生徒があばれるならば生徒の意志をくじこうとします。けれども、キリストは誤ったものをこのように扱うことを許しておられません。教師は天の知恵と柔和とへりくだりの心を持って意志を導き、服従の道に導くことができます。しかし、おどかして生徒の愛を与えることができると思つてはなりません。キリストが働かれたように働かなければなりません。

人の悪の感化はよく知っている人も、自分の悪は小さいと思つている人がたくさんあります。変えなければならぬ性質を持つてゐるのに、全然気がつかないでゐる人が多いのです。他の人にはこのいやな性質がよくわかつてゐます。非難されでもすると、自分は誤解されてゐるのだと思ひます。教師は、よく永遠の光に照して自己の心を反省し、生徒に希望するようなものを代表できるようにでなければなりません。彼は日ごとにキリストの学校で学び、木につらなる枝のようにキリストの中に住み、キリストより学んだものを他に分け与えなければなりません。

自己訓練

生徒を訓練しようとする教師は、まず自分がキリストに支配されなければなりません。「われに従う者は暗きうちを歩まず、生命の光をうべし」とイエスは仰せになりました。天よりの光をうけ

て、キリストがお働きになったように働くことができます。それは、キリストの光があなたを通じ
て、あなたの交わるすべての悔い改めない罪びとの道を照すからです。あなたはほんとうに神の道
の教師ですか。もしも悔い改めた教師ならば、キリストがそのために死にたもうた魂を追い返すの
でなくて、獲得でき、離れさせるのではなく、引きつけることができます。あなたはキリストのおり
の中のひつじやこひつじの世話をするようになります。もしもさ迷い出るならば、放って置いて死
なせたりせず、すぐに失われたものを捜しに出て救うのです。あなたがこのいい働きをするのを全
天が助けようとしています。全く改心の見込みもない、始末におえない心のとびらを開こうと努力
するあなたを天使が助けます。キリストを通して特別の恵みと力をうけます。キリストは、豊かな
満ちあふれる中からあなたの必要をお満たしになります。そのとき、神と共に働くものとして資格
ができ、キリストと一つになって失われた者の救いのために努力し、あなたの愛の働きの結果は、
現在見られるばかりでなく、永遠にわたって見られるのです。（T S S・八〇―八二ページ）

自分の子供時代の経験をおぼえよ

ある両親やある教師たちも同じですが、自分たちが一度子供であったことを忘れているようです。

威厳を備え、冷たく、同情心がありません。家庭でも、学校でも、安息日学校でも、教会でも、どこでもこの人々が子供に接する時は、いつも同じもったいぶったふうをして、顔は習慣的にいかめしく、しかるような表情をしています。子供らしいよろこび、わがまま、子供が休みなく動きまわることを許すことができません。ちよつとしたいたずらもたいへんな罪のように扱われます。このような訓練は、キリストの方法ではありません。こうして訓練された子供らは、両親や教師を恐れますが愛しません。子供たちは自分の経験を彼らに話しません。頭や心の一番たいせつな性質のあるものは、小さい芽が冬の風に折られるように、こごえ死んでしまいます。

両親方、ほおえんでください。教師方、ほおえんでください。悲しいならそれを顔にあらわさないでください。愛と感謝の心からくる光で顔を明るくしてください。威厳を脱ぎ捨てて、子供たちの必要に応じ、子供たちに好かれるようになさい。子供たちの心に宗教的な真理を印象づけようと思えば、彼らの愛を手に入れなければなりません。（F E・六八ページ）

沈黙の力

他人を支配しようと思うものは、まず自分を支配しなければなりません。子供や青年を怒って扱

えば、ただ怒らせるばかりです。両親や教師が短気を起し、賢明でないことを言う危険があれば、黙っていなさい。沈黙には驚くべき力があります。

教師は、意地悪や強情な心の持ち主に出会うことを覚悟しなければなりません。けれども、この子供たちを扱う時、自分も一度は訓練を要した子供であつたことを忘れてはなりません。年齢をかさね、教育を受け、経験を経た今でさえ、ときどき間違え、あわれみと忍耐が必要なのです。青年を訓練する時、自分と同じ悪への傾向をもった者を扱っていることを忘れてはなりません。子供らは、これからいろいろの事を学ばなければなりません。ある者はほかの者より覚えるのがはるかに困難です。にぶい生徒は、忍耐して、無知をせめるのではなく、できる限りの機会を利用してはばましていかなければなりません。感じやすい神経質な生徒は、非常に気をつけて、やさしく扱わねばなりません。自分の不完全なことを知って、困難と戦っている者につねに同情をあらわし、忍耐しなければなりません。

「さらばすべて人にせられんと思うことは人にもまたそのごとくせよ」という救い主の規則は、子供たちや青年の訓練に当るすべての人の規則でなければなりません。彼らは主の家族の若い者らで、わたしたちと共に生命の恵みを継ぐ者なのです。どんなににぶく、最年少の、間違いの一番多

い、誤り、反逆する者に対してすら、キリストの規則をかたく守らなければなりません。

キリストの広げたもう腕

天の教師はあやまった者をいつまでも忍耐して待ちたまいます。彼の愛が冷えたり獲得しようとする努力がやんだりすることはありません。腕を広げて、あやまった者、そむく者、背教した者さえ、何回でも歓迎しようと待っておられます。ひどい取扱を受けて、どうにもできない子供たちを思つて心を痛められます。人間の苦しみの叫びは、彼の耳にむなしくは聞えません。彼の御目にはすべてが尊いのですが、乱暴で気むずかしく、強情な性質に一番同情して愛をそそがれます。なぜなら彼は、原因から結果をお調べになるからです。一番試みられやすい人、一番あやまりやすい人を特別に心にかけてくださるのです。

すべての両親も、教師も、なやむ者、苦しんでいる者、試みられている者と一つになってお苦しみになる彼の性質を持たねばなりません。教師は、「無知なるもの、迷える者を思いやる者でなければなりません。なぜならば、自らも弱きにまとわれる」からです。イエスはわたしもが何ら取るに足りないのに大切に取り扱いになります。彼がわたしもを取り扱われたように、他人を扱わ

なければなりません。両親や教師は、救い主が同じ立場にあられたならば、こうなさると思われることをしなければなりません。（T S S・一一九―一二ページ）

訓練と秩序の必要

安息日学校には訓練と秩序がなければなりません。学校に来る子供らはその特権を尊び、学校の規則を守るように要求されなければなりません。（T S S・七、八ページ）

もし信仰によってキリストが教師の心に住んでおられるなら、罪は見るに忍びない、いやなものになります。自分に委ねられた生徒を愛し、親切にやさしくする一方、忠実なしもべとして訓練して、組の秩序を保たなければならぬことを感じます。真理を心にいだいていれば、救い主の愛がことばや行いにあらわれます。神のことばは、彼にとって死んだ文字ではありません。ただ口さきだけでなく、心からの奉仕をいたします。（T S S・二五、二六ページ）

自制を保て

組の子供らが意地悪で、がんこで、悪に傾き、がまんのできないようなことがあっても、彼らの心はそこにより収穫をもたらす天の種をまくことができる畑です。もし教師が神のみたまに満たさ

れていないならば、失望し、自制を失い、短気なことばを出し、はげしくけん責して全く感化力を失い、失敗してしまいます。（T S S・四四ページ）

けん責、非難、小言は無用

生徒がさわいだり、いたずらしたりする時、けん責したり非難して小言をいっても何の役にもたちません。あなたは神とともに忍耐強く働く者であるということをおぼえ、あなたの働きに全天は関心を持っていること、そして神の働きは何であっても苦勞と心勞が伴うことをおぼえなければなりません。「男のごとく」強くならなければなりません。恥をしのび、十字架の死に耐えられた救い主に、「主よ、わたしに何をおさせになるのでしょうか」とたずねてごらんなさい。「ゆだねられたタレントをすべて働きにたずさえて行き、銀行に預けなさい」（マタイ伝二五ノ二七）キリストの恵みによって主のために尊い働きをすることができます。神の豊かな資源は、あなたの思いのままです。祈りと信仰によって神の約束をつかみ、あなたの必要にあてることができます。

愛は服従させる力である

あなたを愛し、あなたのためにあん自らをお与えになった主のご用に、あなた自らとすべてをさ

さげてください。「なんじら多くの実を結ばば、わが父は栄光を受けたもうべし」と、イエスは仰せになります。これは牧師の働きと同様に安息日学校の働きのことでもあります。永遠の生命の実を結ぶ尊い種をまくのには絶好の機会です。生命にいたる生命のかおりとなるのです。深い経験から得た真理を人に分け与えるならば、それは人の心を動かし、イエスに導きます。イエスが引いておられて、彼の共労者が彼と一致して働いている時に、人が心を動かされず、神の愛の力に従わないでいることは誠にむずかしいことです。（T S S・六九、七〇ページ）

競争と賞品

一八八四年八月一六日、アイオワ州マーシャルタウンのキャンプグラウンドで、ある安息日の朝、大勢の人が安息日学校に集まりました。まもなく組が分けられましたが、テントの外のいすにいたという人々だけ別でした。しかしこの人々もそのままにされたのではなく、教師が指名されて二、三の興味ある組ができました。テントの内も外も忙しく人の話し声が聞えていました。学校は秩序よく行われ、わたしにはほんとうに興味深いプログラムでした。

わたしは頼まれて、三十分ばかり話し、安息日学校を単なる機械的な定まったものにしてしまわ

ないように警告しました。日曜学校のまねをしたり、賞品を出したりして興味をつないだりしてはなりません。賞品を出したりすると、競争心やうらみやねたみの心を起し、実際には一番忠実で価値ある者が賞品を受けなかったりします。生徒はどれだけたくさんの聖句のあんしょうができて言えるかなど試みてはなりません。これは野心を持った子供にはたいへん無理をさせ、他の者を失望させてしまいます。

安息日学校ではこのようなことは何一つしてはなりません。校長も教師も学校に生命と興味をもたせるよう、できる限りの努力をしてください。みなガイエスの教えたもうたように教えたら、何という祝福になるでしょう。彼は雄弁やすばらしい感想を述べたりして、人の注意をひこうとなさいませんでした。彼はかえって単純なことを語り、彼の思想は最も単純に表現されましたが、愛のこもった熱心をもって語りたまいました。教える時、できるだけイエスのようにしてください。プログラムは興味深くしてください。教師はよく教課を学び、教課に非常な興味を持っていることを示してください。みことはを軽はずみに表面的に解釈したりしないようにし、定められた問題の底まで掘り下げて見るようにしましょう。

(T S S・一一〇、一一一ページ)

安息日学校と教会の礼拝

〇〇における安息日学校はE兄弟によって非常にみんなの興味をひき起し、若い人々の心を奪った形ですが、その代りほかの宗教的義務を怠っている有様です。よく安息日学校がすおと、校長、教師数名、それに多くの生徒が家に帰って休みます。彼らは、きょうの務は終った、もうこれ以上の義務はないといったように考えます。礼拝の鐘が鳴って、人々が家を出て教会の方へ行くと、生徒がたくさん家に帰って行くのに出会います。そして安息日学校の多くの人々は、それがどんなに大切な集会であっても、牧師が重要な聖書の問題を話しても少しも興味を感じませんでした。多くの子供たちは礼拝に出ませんでした。いくら残っていた子供らも退屈な義務と考えて何ら語られることはより益を受けませんでした。(TSS・七ページ)

グループの安息日学校

安息日を守る人々のグループを多くの場所で起すことができます。そういうグループはたいいてい

大きくありませんが、おろそかにしたり、個人的の努力と訓練を欠いて死なせてしまつてはなりません、その働きを未完成のまま置いてはなりません。すべてが真理をよく知り、信仰に堅く立ち、働きの各方面に興味をもっているのを見届けてからでなければ他の伝道地へ移って行つてはなりません。…

これは伝道地で証明されたことですが、どんなに説教はじょうずにできても、働きの方をおろそかにし、働く方法、集会の持ち方、伝道の働きに参加する方法、人々にじょうずに接する方法などを教えなければ失敗することが多いです。また安息日学校では人々に義務を感じさせ、その分を尽させるためにしなければならぬことも多いのです。神は神のために働くように人々を召していたまいます。そして牧師が彼らの努力を導かなければなりません。（TSS・一〇九ページ）

キャンプミーティングの安息日学校

キャンプミーティングに集まる兄弟姉妹方に、ただいま安息日学校について少し話してみたいと思います。安息日学校は働きの重要な部分の一つですから、その成りゆきのままにしておいたりしてかえりみないようではいけません。学校を正しく運営すれば、講壇から真理を伝えて魂を救おう

とする努力に力をそえることになります。こうして講壇よりの努力と、安息日学校の働き人が力を合わせて働けば、好成绩をあげることができます。といっても、安息日学校がただ機械のように整然と働くだけでは十分ではありません。実際の働き人がいなければなりません。教師は神と生きた関係をもった人、自分から進んで勉強しようとする人、時間を惜しまず、熱心に働き、何かを完成しなければ満足しない人でなければなりません。・・・

キャンプミーティングの安息日学校は、秩序よく時間正しく、能率的にしなければなりません。そうすれば地方の教会の人々は、正しいしかたを家に持って帰ることができます。事務とか、その他のことが忙しくて、安息日学校の大切なことをおろそかにして、どうなろうとかまわないのだというような感じを与えないようにしなければなりません。（TSS・一二―一四ページ）

地方の講習会

安息日学校の運営の方法の大部分は、各自の教会で教えられなければなりません。そうすると働きはもっと直接的になり、もっと永続的な効果をあげることができます。これは牧師の助けを必要としません。牧師は、人々の霊的な面に十分力を注がねばなりません。牧師は、人々にどう働くべ

きかを教えなければなりません。自分が主のみもとに行く方法と、人を主に導く方法を教えなければなりません。（T S S・一一三、一一四ページ）

安息日学校への勧告

一九七四年四月二五日 印刷
一九七四年四月二〇日 発行

著者 イー・ジー・ホワイト

241 横浜市旭区上川井町一九六六

発行者 稲田実

241 横浜市旭区上川井町一九六六

印刷所 福音社

241 横浜市旭区上川井町一九六六

発行所 福音社

振替口座・横浜五九九番